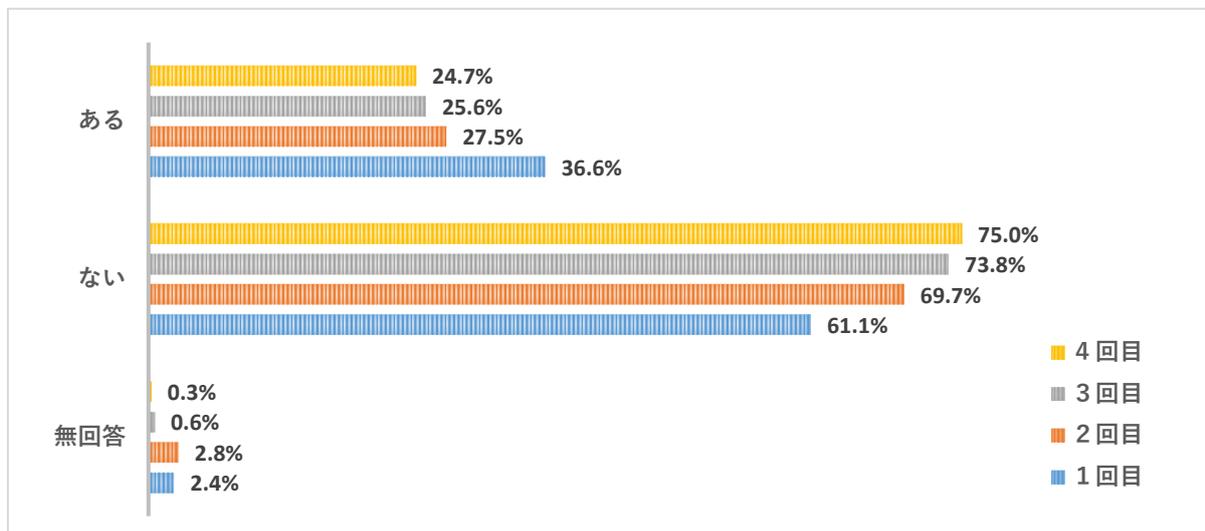


第4. 調査結果

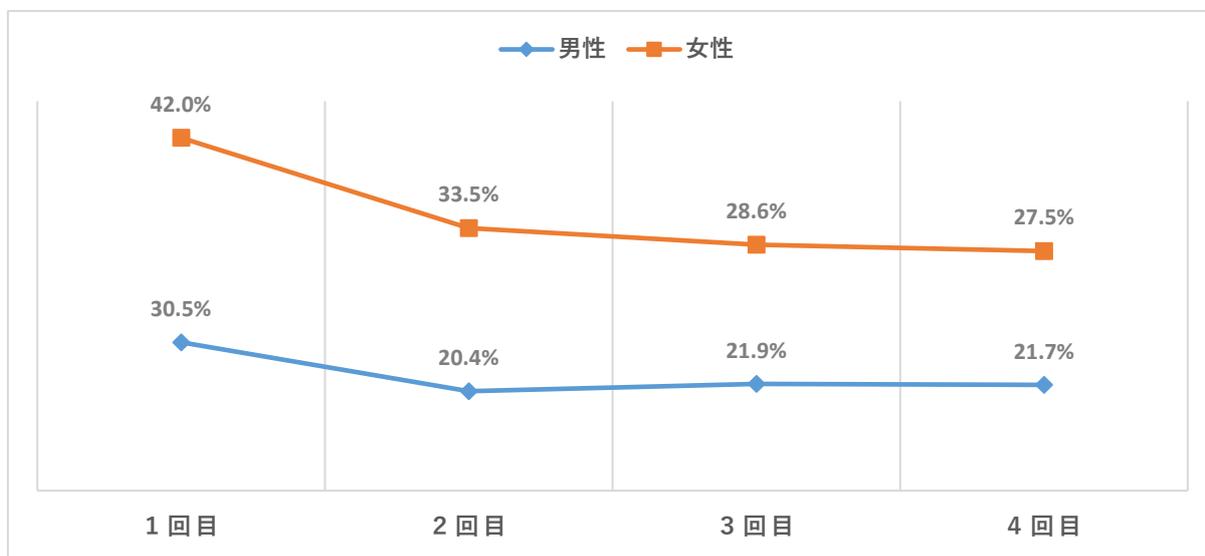
1. 人権侵害について

問1 あなたは、今までに自分の人権が侵害されたと思われたことはありますか。(〇は1つ)



人権侵害の有無について、「ある」と答えた人が24.7%、「ない」と答えた人が75.0%となっています。

【「ある」と答えた人の男女別割合の変化】



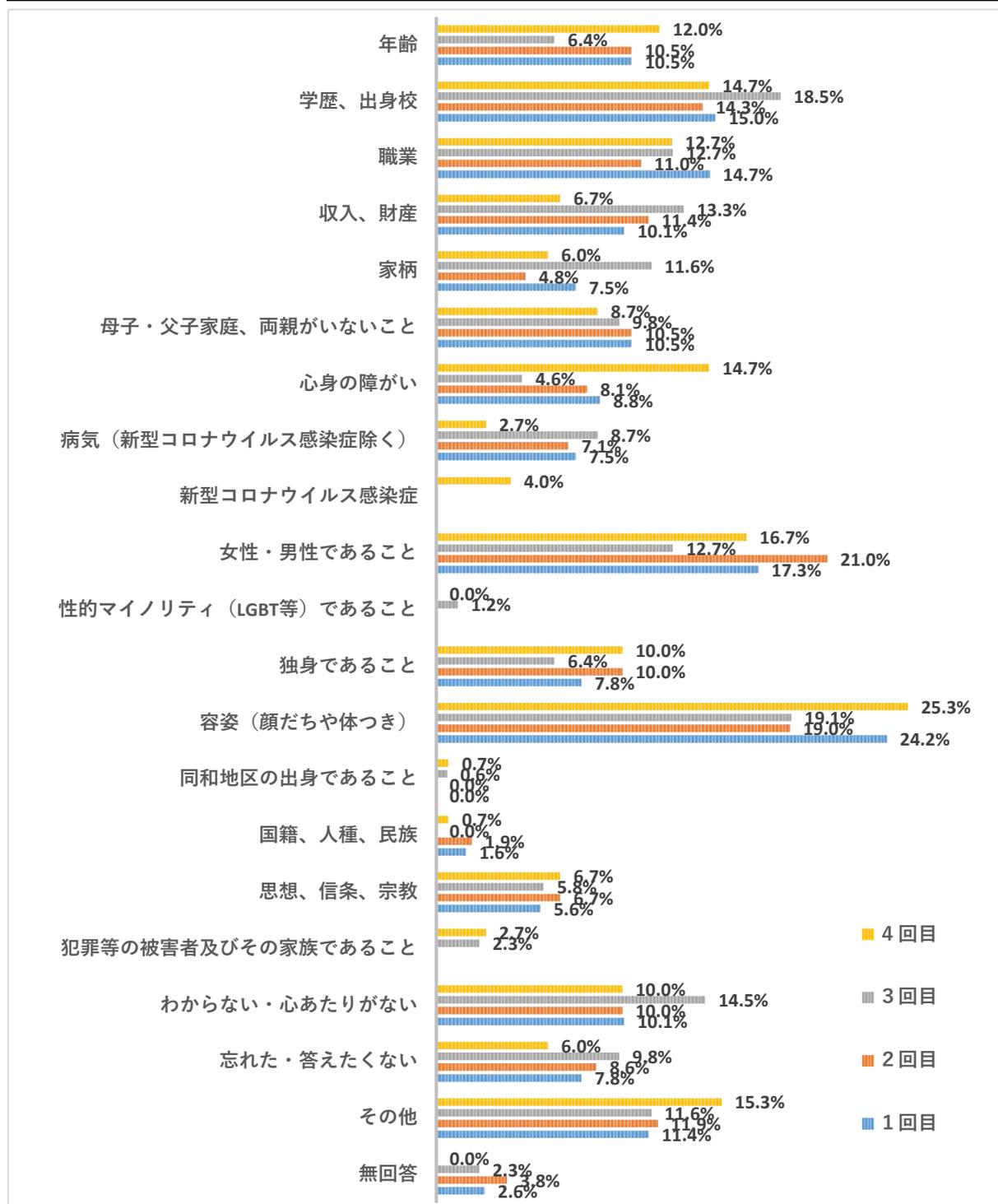
「人権侵害を受けたことがある」と答えた人の男女別の割合を見ると、女性は1.1ポイントの減少、男性は前回とほぼ同様の割合となっています。

【今回の調査（4回目）と県の調査の比較】

(人権が侵害されたと思ったことがある)

		今回の調査	県の調査
全体		24.7%	28.5%
内訳	男性	21.7%	23.2%
	女性	27.5%	32.0%

問1-1 問1で「1 ある」と回答された方におたずねします。どのような理由から人権侵害を受けましたか。(〇はいくつでも)



「容姿（顔立ちや体つき）」(25.3%)が前回同様最も割合が高く、前回より6.2ポイント上がっています。次いで、「女性・男性であること」(16.7%)、「その他」(15.3%)となっています。

- 「その他」の意見の主な内容**
- ・職場での問題（パワハラ等）
 - ・地域でのトラブル（出身地が延岡市ではないこと等）等

男女別での回答傾向は次のとおり

〔項目〕容姿（顔だちや体つき）

全体①	男性	女性	差異
25.3%	21.3%	28.1%	6.8ポイント

〔項目〕女性・男性であること

全体②	男性	女性	差異
16.7%	6.6%	23.6%	17.0ポイント

〔項目〕その他

全体③	男性	女性	差異
15.3%	19.7%	12.4%	7.3ポイント

- 男女別で人権侵害を受けた理由の回答傾向に差異がみられた（男女別で割合の高かった上位3項目）

<男性>

- ①学歴、出身校（21.3%）【全体④ 14.7%】
- ①容姿（顔だちや体つき）（21.3%）【全体① 25.3%】
- ③その他（19.7%）【全体③ 15.3%】

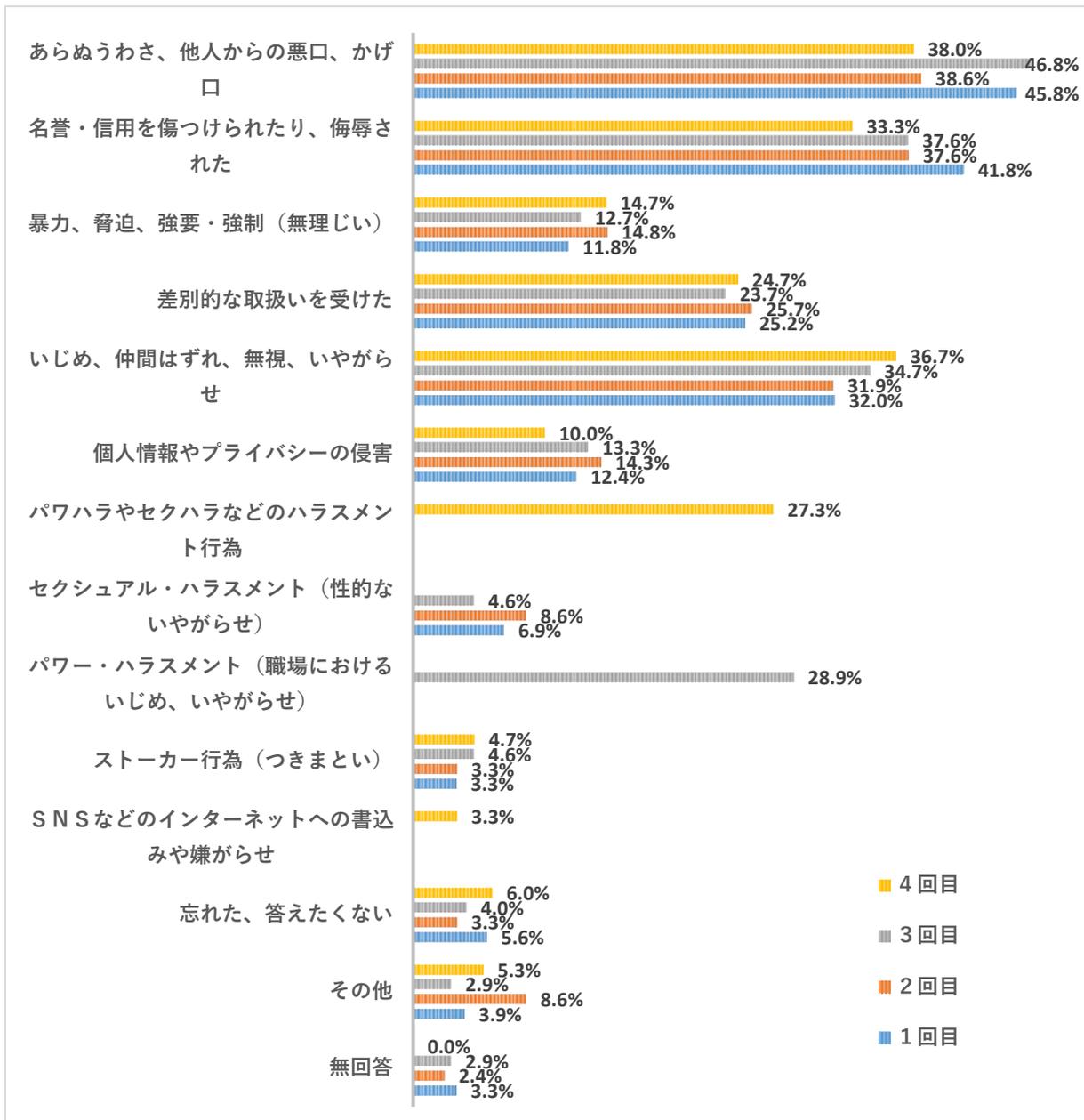
<女性>

- ①容姿（顔だちや体つき）（28.1%）【全体① 25.3%】
- ②女性・男性であること（23.6%）【全体② 16.7%】
- ③心身の障がい（13.5%）【全体④ 14.7%】

【今回の調査（4回目）と県の調査の比較】

項目	今回の調査	県の調査
年齢	12.0%	13.7%
学歴、出身校	14.7%	16.4%
職業	12.7%	18.9%
収入、財産	6.7%	12.3%
家柄	6.0%	7.4%
母子・父子家庭、両親がいないこと	8.7%	8.2%
心身の障がい	14.7%	5.8%
病気（新型コロナウイルス感染症を除く）	2.7%	6.3%
新型コロナウイルス感染症	4.0%	2.5%
女性・男性であること	16.7%	19.5%
性的マイノリティ（LGBT等）であること	0.0%	0.5%
独身であること	10.0%	6.8%
容姿（顔だちや体つき）	25.3%	22.2%
同和地区の出身であること	0.7%	0.0%
国籍、人種、民族	0.7%	0.3%
思想、信条、宗教	6.7%	4.1%
犯罪等の被害者及びその家族であること	2.7%	2.5%
わからない・心あたりがない	10.0%	4.7%
忘れた・答えたくない	6.0%	7.7%
その他	15.3%	13.7%
無回答	0.0%	1.1%

問1-2 問1で「1 ある」と回答された方におたずねします。あなたが受けた人権侵害はどのようなものでしたか。(〇はいくつでも)



「あらぬうわさ、他人からの悪口、かげ口」(38.0%)が前回同様最も割合が高く、次いで、「いじめ、仲間はずれ、無視、いやがらせ」(36.7%)「名誉・信用を傷つけられたり、侮辱された」(33.3%)、となっています。

今回、選択項目を統一した「セクハラやパワハラ等のハラスメント行為」(27.3%)については、4番目に高い割合となっています。

「その他」の意見の主な内容

- ・物損等被害
- ・激しい誹謗中傷 等

● 男女別での回答傾向（割合の高かった上位3項目）

[項目] あらぬうわさ、他人からの悪口、かげ口

全体①	男性	女性	差異
38.0%	36.1%	39.3%	3.2ポイント

[項目] いじめ、仲間はずれ、無視、いやがらせ

全体②	男性	女性	差異
36.7%	41.0%	33.7%	7.3ポイント

[項目] 名誉・信用を傷つけられたり、侮辱された

全体③	男性	女性	差異
33.3%	42.6%	27.0%	15.6ポイント

男女別で人権侵害を受けた理由の回答傾向に差異がみられた（男女別で割合の高かった上位3項目）

<男性>

- ①名誉・信用を傷つけられたり、侮辱された（42.6%）【全体③ 33.3%】
- ②いじめ、仲間はずれ、無視、いやがらせ（41.0%）【全体② 36.7%】
- ③あらぬうわさ、他人からの悪口、かげ口（36.1%）【全体① 38.0%】

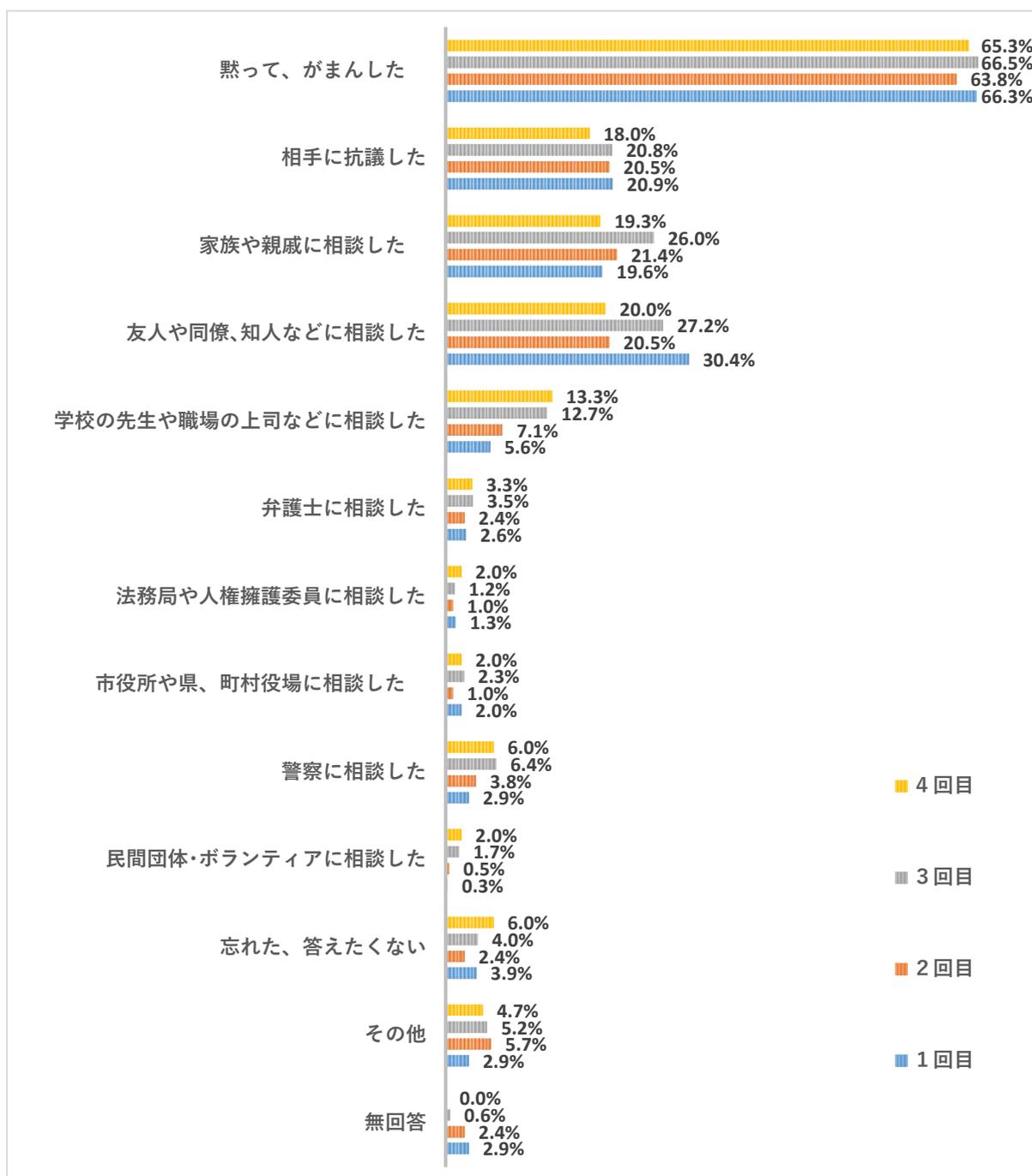
<女性>

- ①あらぬうわさ、他人からの悪口、かげ口（39.3%）【全体① 38.0%】
- ②いじめ、仲間はずれ、無視、いやがらせ（33.7%）【全体② 36.7%】
- ③パワーハラやセクハラなどのハラスメント行為（31.5%）【全体④ 27.3%】

【今回の調査（4回目）と県の調査の比較】

項目	今回の調査	県の調査
あらぬうわさ、他人からの悪口、かげ口	38.0%	42.7%
名誉・信用を傷つけられたり、侮辱された	33.3%	29.3%
暴力、脅迫、強要・強制（無理じい）	14.7%	8.5%
差別的な取扱いを受けた	24.7%	24.7%
いじめ、仲間はずれ、無視、いやがらせ	36.7%	31.5%
個人情報やプライバシーの侵害	10.0%	9.0%
パワーハラスメントやセクシャルハラスメント	27.3%	30.7%
ストーカー行為（つきまとい）	4.7%	2.7%
SNSなどのインターネットへの書き込みや嫌がらせ	3.3%	2.2%
忘れた、答えたくない	6.0%	6.6%
その他	5.3%	3.8%
無回答	0.0%	0.5%

問1-3 問1で「1 ある」と回答された方におたずねします。あなたは人権侵害を受けた時、どのようにしましたか。(〇はいくつでも)



「黙って、がまんした」(65.3%)が最も割合が高く、次いで「友人や同僚、知人など身近な人に相談した」(20.0%)、「家族や親戚に相談した」(19.3%)となっています。

前回同様、「黙ってがまんした」人が多い一方で、相談する相手としては、「友人や同僚、知人など」、「家族や親せき」、「学校の先生や職場の上司など」、周りの人に相談する割合が高くなっています。

「その他」の意見の主な内容

- ・防犯設備を設置した
- ・学校を辞めた
- ・仕事を休職、辞めた 等

● 男女別の回答傾向（割合の高かった上位3項目）

〔項目〕 黙って、がまんした

全体①	男性	女性	差異
65.3%	59.0%	69.7%	10.7 ^{ポイント}

〔項目〕 友人や同僚、知人など身近な人に相談した

全体②	男性	女性	差異
20.0%	19.7%	20.2%	0.5 ^{ポイント}

〔項目〕 家族や親戚に相談した

全体③	男性	女性	差異
19.3%	19.7%	19.1%	0.6 ^{ポイント}

● 男女別で人権侵害を受けた時の対応について回答傾向に差異がみられる項目がある（男女別で割合の高かった上位3項目）

<男性>

- ① 黙って、がまんした（59.0%）【全体① 65.3%】
- ② 相手に抗議した（23.0%）【全体④ 18.0%】
- ③ 家族や親戚に相談した（19.7%）【全体③ 19.3%】
- ③ 友人や同僚、知人など身近な人に相談した（19.7%）【全体② 20.0%】

<女性>

- ① 黙って、がまんした（69.7%）【全体① 65.3%】
- ② 友人や同僚、知人など身近な人に相談した（20.2%）【全体② 20.0%】
- ③ 家族や親戚に相談した（19.1%）【全体③ 19.3%】

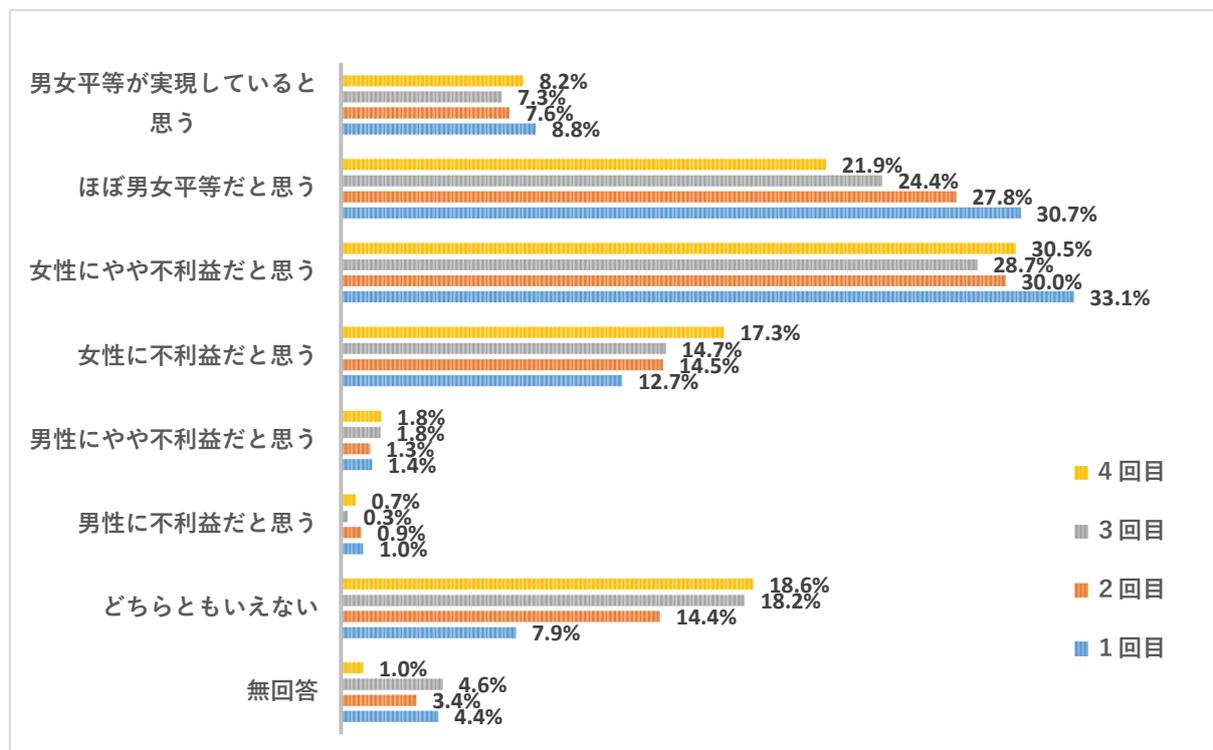
【今回の調査（4回目）と県の調査の比較】

項目	今回の調査	県の調査
黙って、がまんした	65.3%	70.1%
相手に抗議した	18.0%	22.7%
家族や親戚に相談した	19.3%	17.0%
友人や同僚、知人など身近な人に相談した	20.0%	21.9%
学校の先生や職場の上司などに相談した	13.3%	8.5%
弁護士に相談した	3.3%	4.4%
法務局や人権擁護委員に相談した	2.0%	1.1%
市役所や県、町村役場に相談した	2.0%	2.5%
警察に相談した	6.0%	3.6%
民間団体・ボランティアに相談した	2.0%	0.8%
忘れた、答えたくない	6.0%	3.0%
その他	4.7%	5.2%
無回答	0.0%	0.5%

2. 女性に関する人権問題について

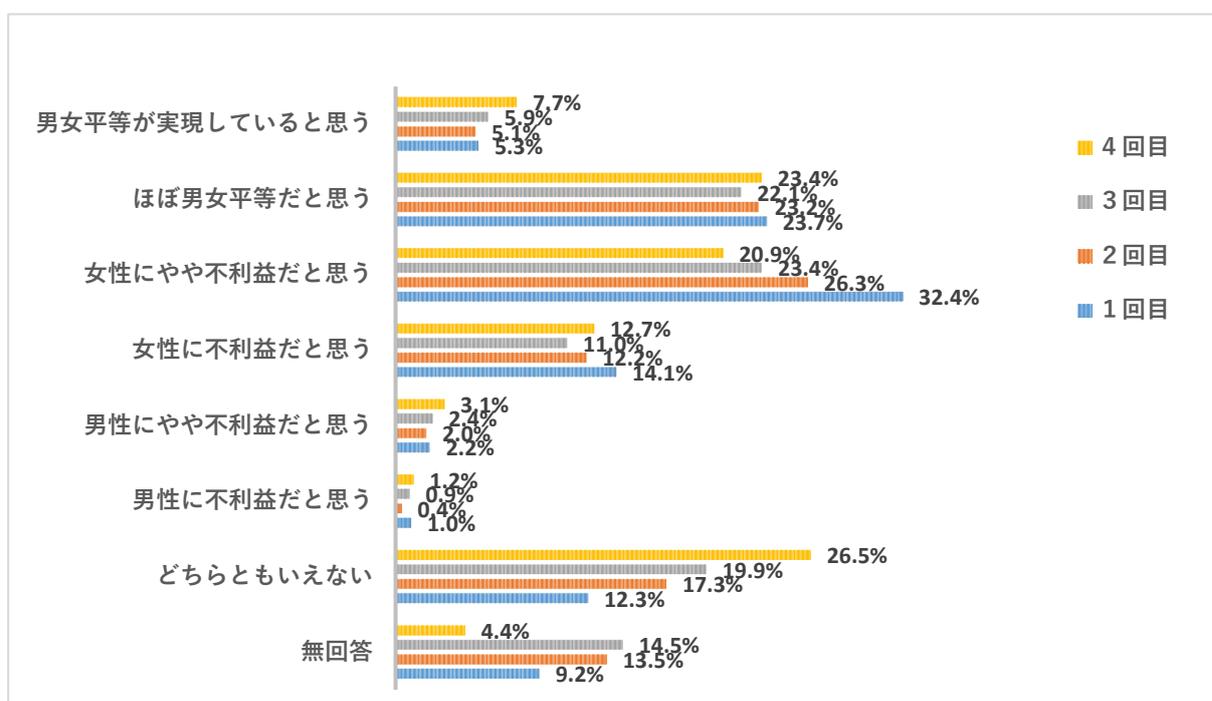
問2 あなたから見て、今の社会では男女平等が実現していると思いますか。

①【家庭の中では、どうだと思いますか。】(○は1つ)



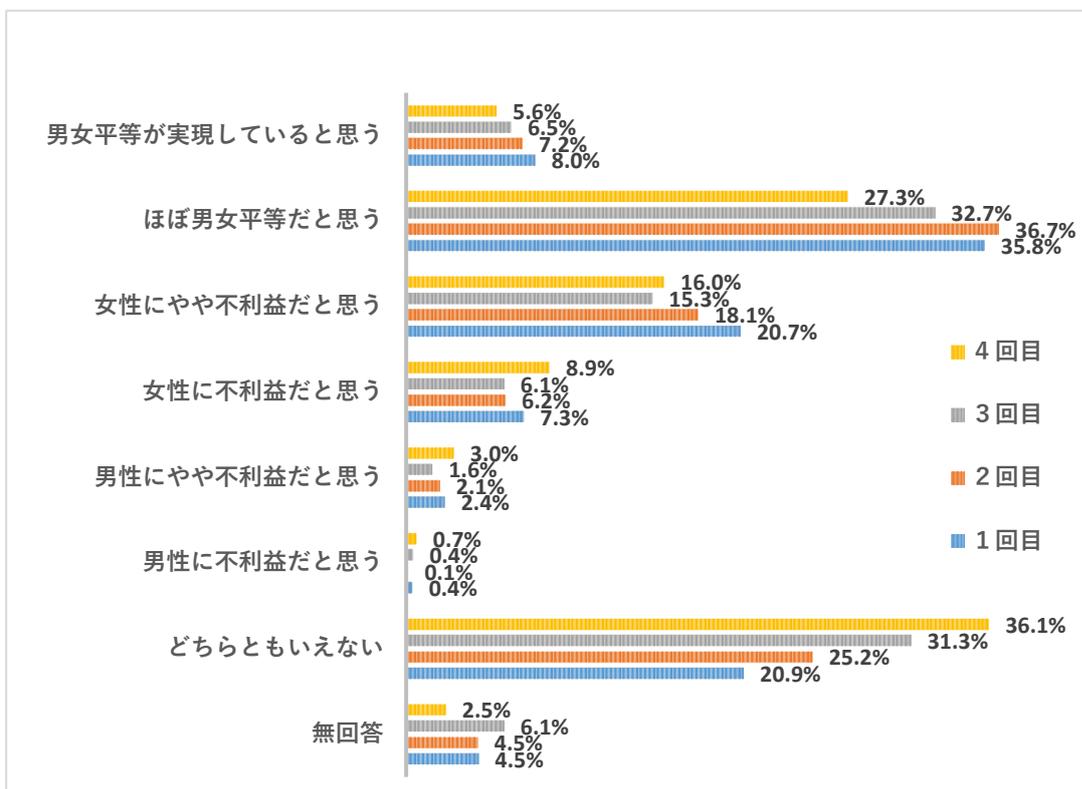
「男女平等が実現していると思う」(8.2%)と「ほぼ男女平等だと思う」(21.9%)をあわせて、30.1%の人が男女平等だと考えています。一方で、「女性に不利益だと思う」(17.3%)と「女性にやや不利益だと思う」(30.5%)をあわせて、47.8%の人が女性に不利益だと考えています。

②【職場では、どうだと思いますか。】(○は1つ)



「男女平等が実現していると思う」(7.7%)と「ほぼ男女平等だと思う」(23.4%)をあわせて、31.1%の人が男女平等だと考えています。一方で、「女性に不利益だと思う」(12.7%)と「女性にやや不利益だと思う」(20.9%)をあわせて、33.6%の人が女性に不利益だと考えています。

③【地域（自治会活動など）では、どうだと思えますか。】（○は1つ）



「男女平等が実現していると思う」(5.6%)と「ほぼ男女平等だと思う」(27.3%)をあわせて、32.9%の人が男女平等だと考えています。一方で、「女性に不利益だと思う」(8.9%)と「女性にやや不利益だと思う」(16.0%)をあわせて、24.9%の人が女性に不利益だと考えています。

- 男女別で回答傾向に差異がみられる項目がある

例) ②【職場ではどう思えますか】

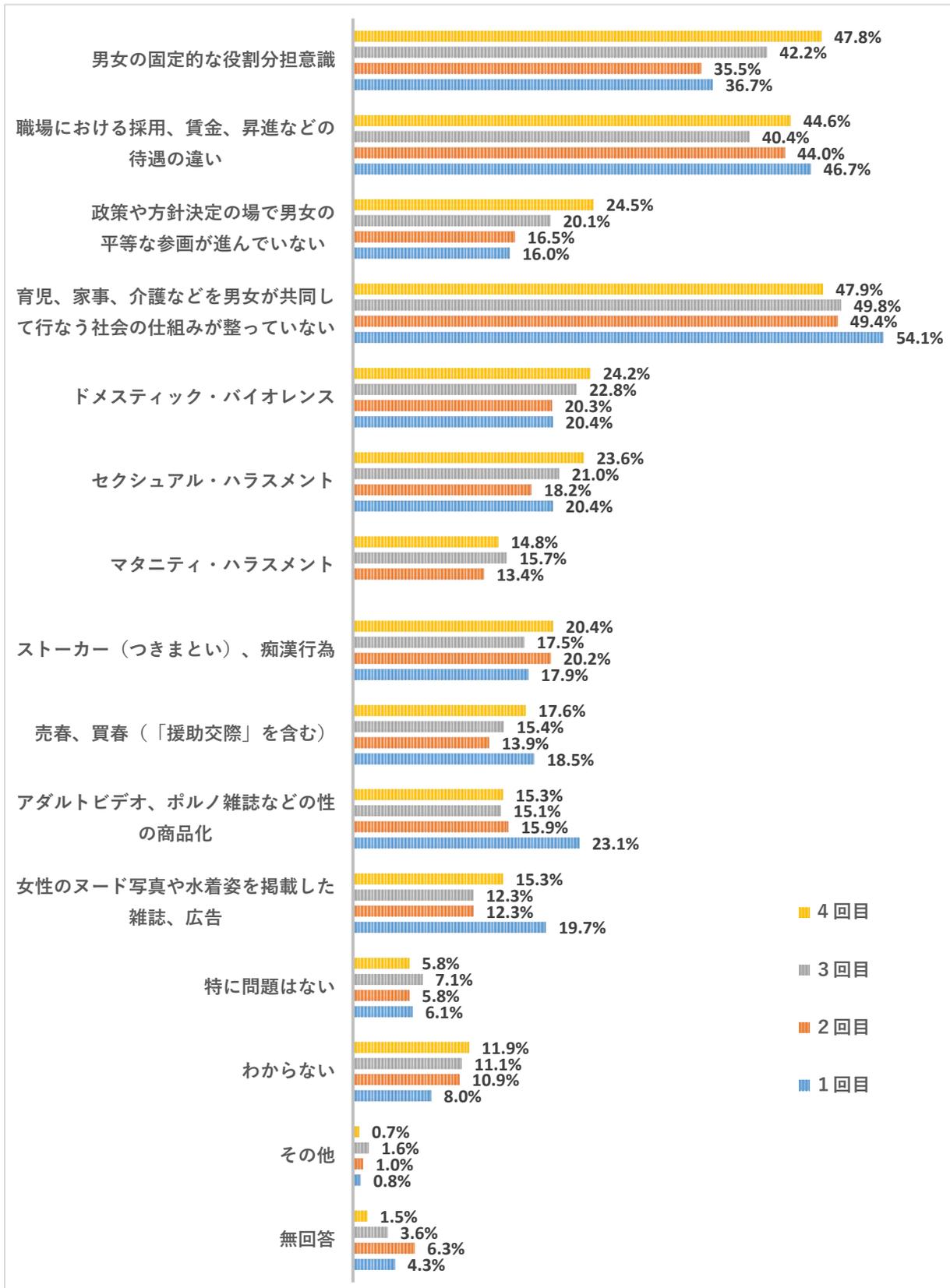
項目	全体	男性	女性	差異
男女平等が実現していると思う	31.1%	33.8%	28.7%	5.1ポイント
ほぼ男女平等だと思う				
女性にやや不利益だと思う	33.6%	30.6%	36.4%	5.8ポイント
女性に不利益だと思う				

- (問25・P64) 女性の問題に関心がある人(全体の25.4%)は「女性に不利益だと思う」傾向が高くなる

「女性にやや不利益だと思う」+「女性に不利益だと思う」

項目	全体	関心がある	関心がない	差異
①家庭	47.8%	67.5%	41.1%	26.4ポイント
②職場	33.6%	46.8%	29.1%	17.7ポイント
③地域(自治会活動)	24.9%	37.7%	20.5%	17.2ポイント

問3 女性に関することで、人権上特に問題があると思われるのはどのようなことですか。(〇はいくつでも)



「育児、家事、介護などを男女が共同して行なう社会の仕組みが整っていない」（47.9%）が最も割合が高く、次いで「男女の固定的な役割分担意識」（47.8%）、「職場における採用、賃金、昇進などの待遇の違い」（44.6%）となっています。

その割合に増減はあるものの、前回調査と同様の項目が上位となっています。

「その他」の意見の主な内容

- ・独身であることを侮辱的に言われる。
- ・男性は許されて、女性は許されないことがある。
- ・年収の壁 等

- 割合の高かった2つの項目について、年代別・性別で回答傾向に違いがみられる

〔項目〕育児、家事、介護などを男女が共同して行なう社会の仕組みが整っていない

＜年代別＞（最も割合の高い50歳代と低い70歳以上の差は19.0ポイント）

全体①	50歳代	40歳代	60歳代	30歳代	18歳～20歳代	70歳以上
47.9%	57.1%	54.3%	52.5%	52.0%	51.4%	38.1%

＜性別＞

全体①	男性	女性	差異
47.8%	38.8%	55.9%	17.1ポイント

〔項目〕男女の固定的な役割分担意識

＜年代別＞（最も割合の高い40歳代と低い70歳以上の差は19.3ポイント）

全体②	40歳代	50歳代	30歳代	18歳～20歳代	60歳代	70歳以上
47.8%	60.0%	59.2%	54.0%	45.7%	42.6%	40.7%

＜性別＞

全体②	男性	女性	差
47.8%	42.0%	52.8%	10.8ポイント

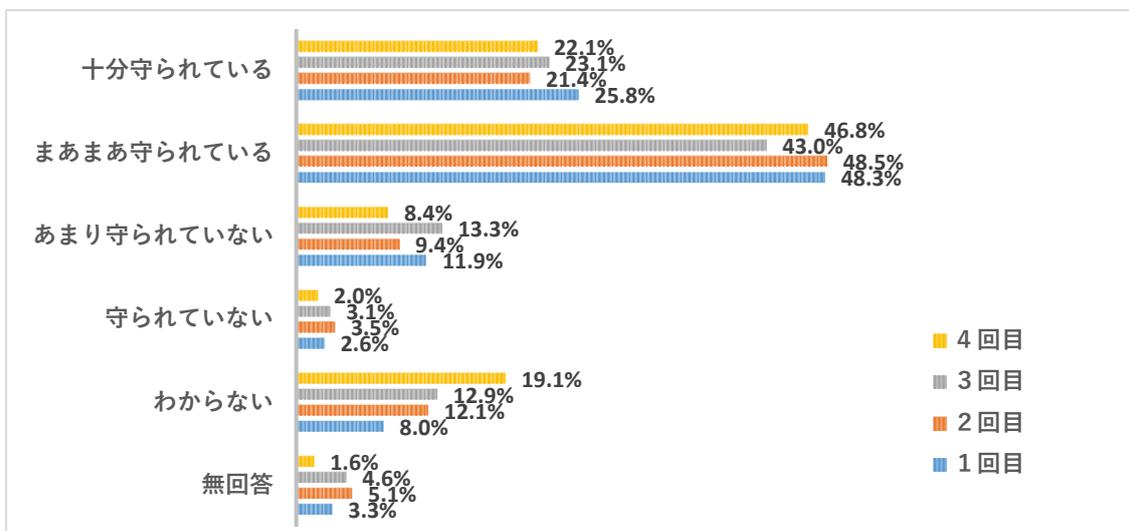
【今回の調査（4回目）と県の調査の比較】

項目	今回の調査	県の調査
男女の固定的な役割分担意識	47.8%	50.4%
職場における採用、賃金、昇進などの待遇の違い	44.6%	44.3%
政策や方針決定の場で男女の平等な参画が進んでいない	24.5%	25.6%
育児、家事、介護などを男女が共同して行なう社会の仕組みが整っていない	47.9%	50.1%
ドメスティック・バイオレンス	24.2%	36.3%
セクシュアル・ハラスメント	23.6%	30.3%
マタニティ・ハラスメント	14.8%	-
ストーカー（つきまとい）、痴漢行為	20.4%	23.3%
売春、買春（「援助交際」を含む）	17.6%	21.2%
アダルトビデオ、ポルノ雑誌などの性の商品化	15.3%	-
アダルトビデオやアダルト動画等への出演強要	-	18.0%
女性のヌード写真や水着姿を掲載した雑誌、広告	15.3%	17.6%
特に問題はない	5.8%	7.9%
わからない	11.9%	6.6%
その他	0.7%	1.2%
無回答	1.5%	2.7%

3. 子どもに関する人権問題について

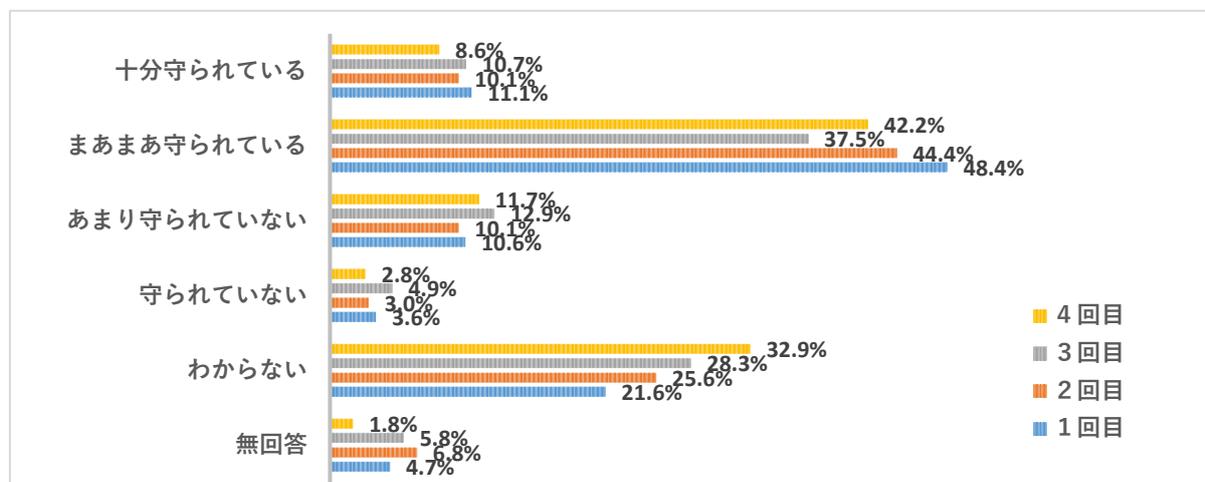
問4 あなたから見て、今、子どもの人権が守られていると思いますか。

①【家庭の中では、どうだと思いますか。】（〇は1つ）



「十分守られている」(22.1%)と「まあまあ守られている」(46.8%)をあわせると、68.9%の人が「子どもの人権は守られている」と考えています。一方、「守られていない」(2.0%)と「あまり守られていない」(8.4%)をあわせると、10.4%の人が「子どもの人権は守られていない」と考えています。

②【学校の中では、どうだと思いますか。】（〇は1つ）



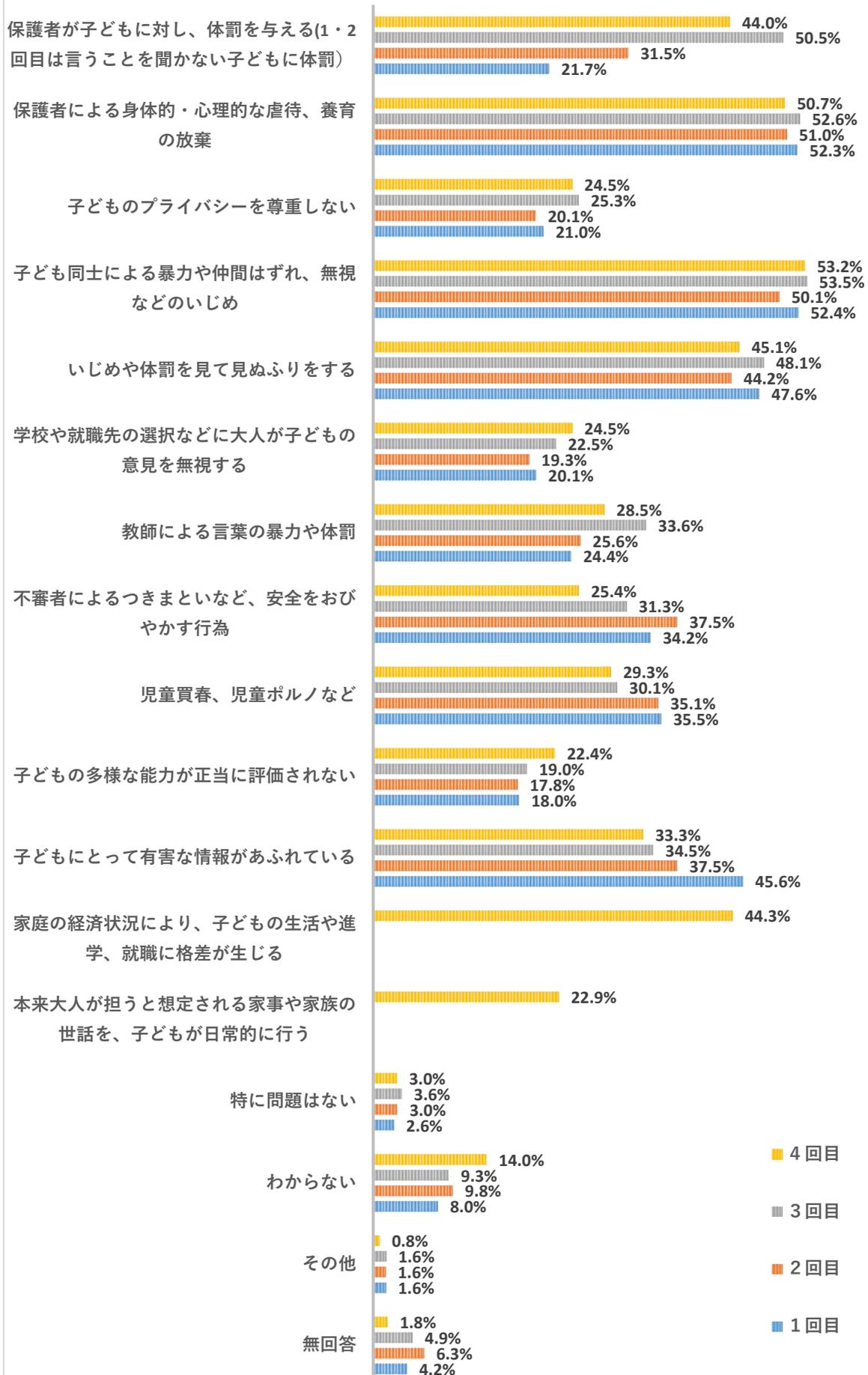
「十分守られている」(8.6%)と「まあまあ守られている」(42.2%)をあわせると、50.8%の人が「子どもの人権は守られている」と考えています。前回調査と比較すると、2.6ポイント増加しています。一方、「守られていない」(2.8%)と「あまり守られていない」(11.7%)をあわせると、14.5%の人が「子どもの人権は守られていない」と考えています。前回調査と比較すると3.3ポイント減少しています。

- （問25・P64）子どもの人権に関心がある人（全体の26.9%）は「子どもの人権が守られていない」と思う傾向が高くなる

「あまり守られていない」＋「守られていない」

項目	全体	関心がある	関心がない	差異
①家庭	10.4%	15.5%	4.8%	10.7ポイント
②学校	14.5%	19.6%	8.9%	10.7ポイント

問5 子どもに関することで、人権上特に問題があると思われるのはどのようなことですか。
(〇はいくつでも)



「子ども同士による暴力や仲間はずれ、無視などのいじめ」(53.2%)が最も割合が高く、次いで「保護者が身体的、心理的に虐待する、または養育を放棄する」(50.7%)、となり、以上の項目が5割を超えました。その次が「いじめをしている人や、いじめられている人、体罰や虐待を見て見ぬふりをする」(45.1%)となりました。また今回新しく選択肢に加えた「家庭の経済状況により、子どもの生活や進学、就職に格差が生じる」(44.3%)が4番目に高い割合となっています。

「その他」の意見の主な内容

- ・いじめがあったときに被害者より加害者側が守られる仕組み
- ・幼少期における性教育が足りていないこと
- ・マイノリティ、LGBTQ 等

- (問25・P64) 子どもの人権に関心がある人(全体の52.1%)とそうでない人の回答傾向(割合の高かった上位3項目)

[項目] 子ども同士による暴力や仲間はずれ、無視などのいじめ

全体①	関心がある	関心がない	差異
53.2%	62.0%	43.6%	18.4ポイント

[項目] 保護者による身体的・心理的な虐待、養育の放棄

全体②	関心がある	関心がない	差異
50.7%	59.8%	40.9%	18.9ポイント

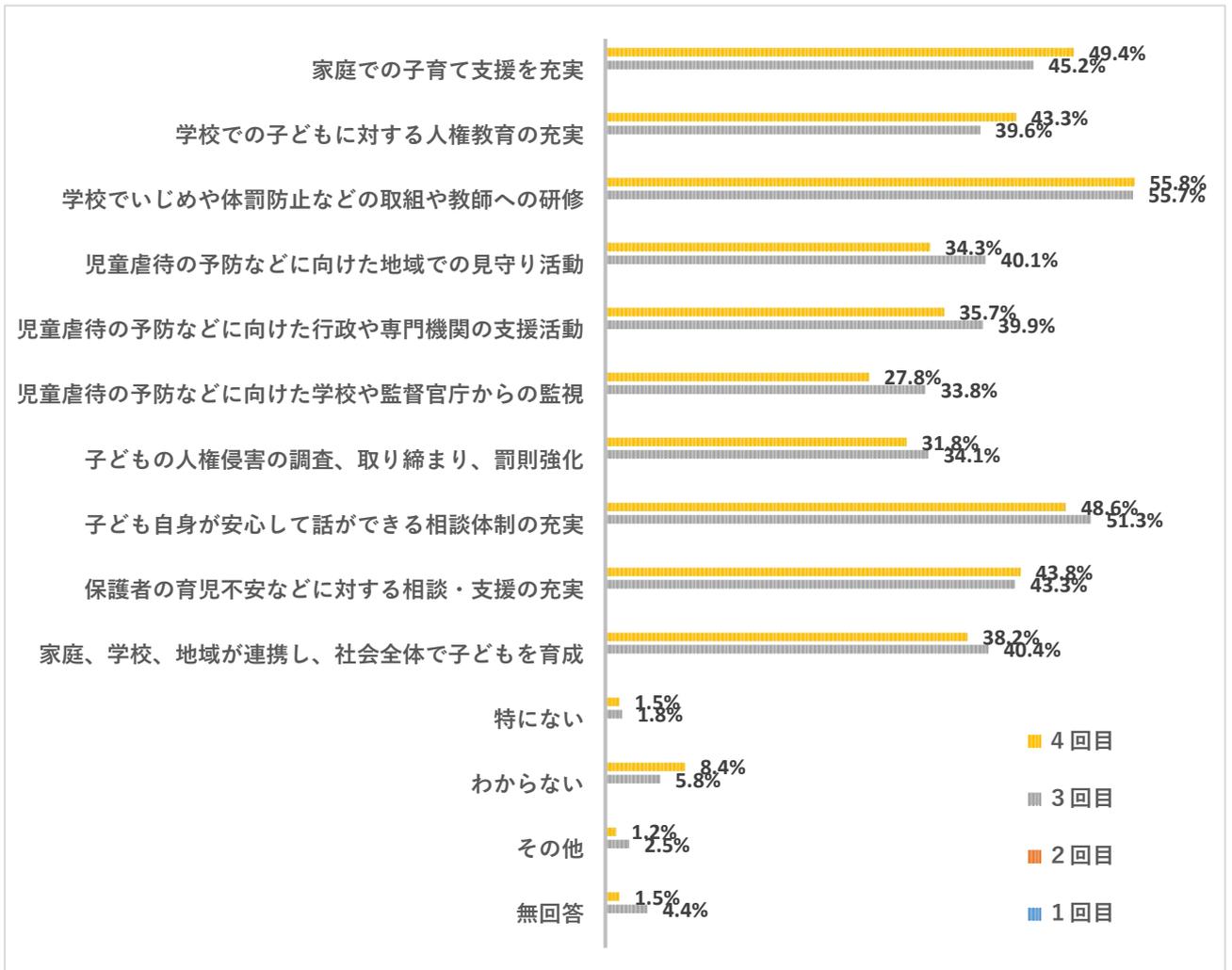
[項目] いじめや体罰を見て見ぬふりをする

全体③	関心がある	関心がない	差異
45.1%	53.5%	36.1%	17.4ポイント

【今回の調査(4回目)と県の調査の比較】

項目	今回の調査	県の調査
保護者が子どもに対し、しつけと称して体罰を与える	44.0%	56.6%
保護者が身体的、心理的に虐待する、または養育を放棄する	50.7%	64.1%
「子どもだから」という理由で、子どものプライバシーを尊重しない	24.5%	-
子ども同士による暴力や仲間はずれ、無視などのいじめ	53.2%	60.7%
いじめをしている人や、いじめられている人、体罰や虐待を見て見ぬふりをする	45.1%	57.2%
学校や就職先の選択などについて、大人が子どもの意見を無視する	24.5%	34.8%
教師による言葉の暴力や体罰	28.5%	41.0%
不審者によるつきまといなど、子どもの安全をおびやかす行為	25.4%	-
児童買春、児童ポルノなど	29.3%	36.8%
子どもの多様な能力が正当に評価されない	22.4%	24.6%
子どもにとって有害な情報(暴力や性など)があふれている	33.3%	38.4%
家庭の経済状況により子どもの生活等に格差が生じる	44.3%	49.2%
本来大人が担うとされる家事等を子どもが日常的に行う	22.9%	30.3%
特に問題はない	3.0%	4.2%
わからない	14.0%	4.5%
その他	0.8%	0.8%
無回答	1.8%	1.7%

問6 子どもを差別や虐待から守り、人権が尊重されるためには、特に必要なことはどのようなことだと思いますか。(〇はいくつでも)



「学校でいじめ、暴力行為、不登校、体罰防止などに対する取組や教師の研修を充実する」(55.8%)が最も割合が高く、次いで「家庭での子育て支援を充実する」(49.4%)、「子ども自身が安心して話ができる相談体制づくりを充実する」(48.6%)、となっています。

「その他」の意見の主な内容

- ・ しつけと虐待を見分ける方法
- ・ 親への子育て教育
- ・ 子どもへの幼少期からの 等

- (問25・P64) 子どもの人権に関心がある人(全体の52.1%)とそうでない人の回答傾向(割合の高かった上位3項目)

[項目] 学校でいじめ、暴力行為、不登校、体罰防止などに対する取組や教師の研修を充実する

全体①	関心がある	関心がない	差異
55.8%	67.1%	43.6%	23.5ポイント

[項目] 家庭での子育て支援を充実する

全体②	関心がある	関心がない	差異
49.4%	57.9%	40.2%	17.7ポイント

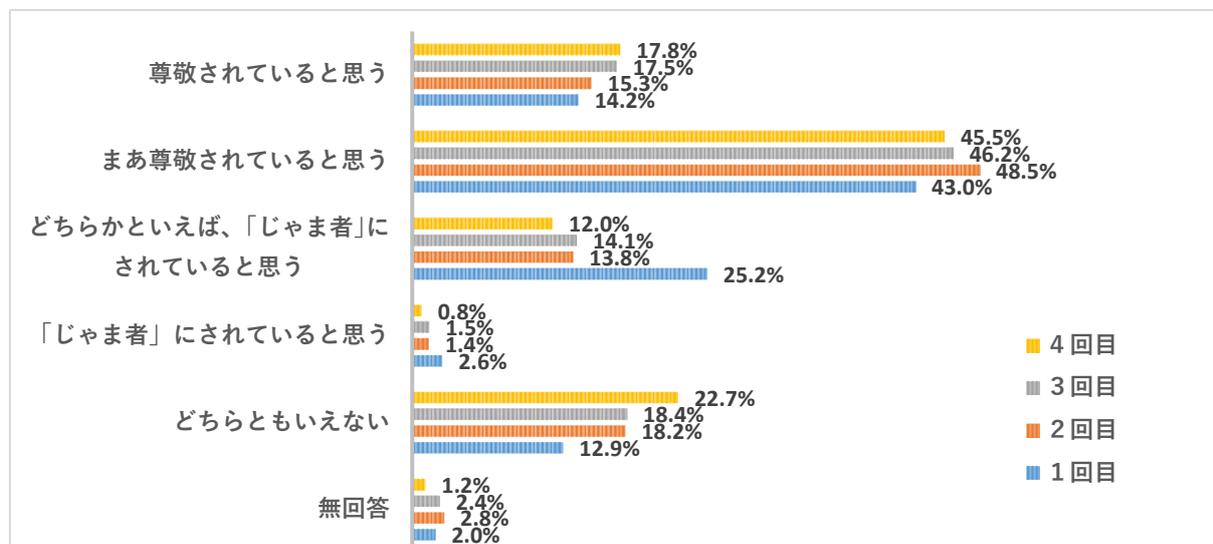
[項目] 子ども自身が安心して話ができる相談体制づくりを充実する

全体③	関心がある	関心がない	差異
48.6%	57.6%	38.8%	18.8ポイント

4. 高齢者に関する人権問題について

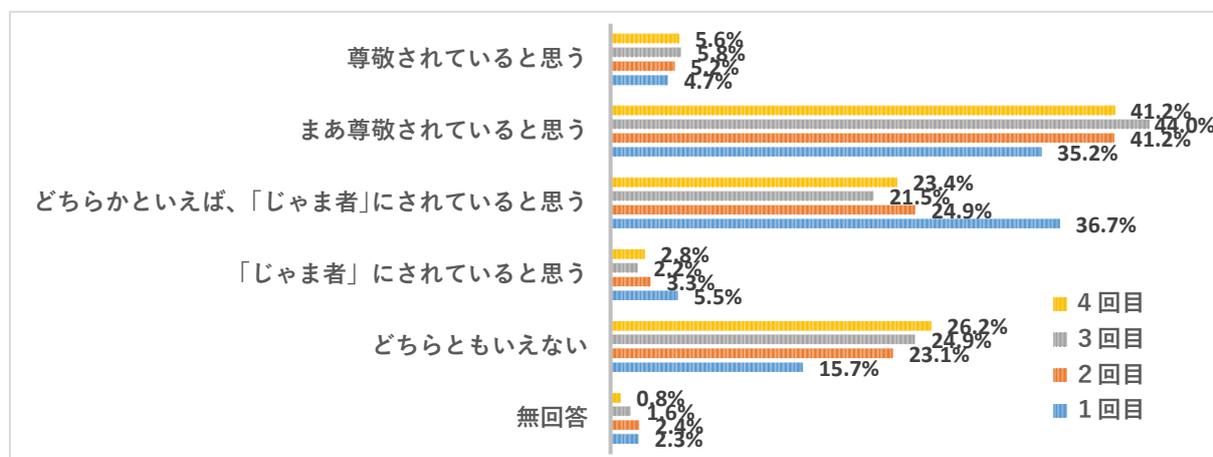
問7 あなたから見て、今の社会で高齢者がおかれている状況をどう感じていますか。

①【家庭の中では、どうだと思いますか。】（○は1つ）



「尊敬されていると思う」(17.8%)と「まあ尊敬されていると思う」(45.5%)をあわせると、63.3%の人が「高齢者は家庭の中で尊敬されている」と考えています。一方、「『じゃま者』にされていると思う」(0.8%)と「どちらかといえば『じゃま者』にされていると思う」(12.0%)をあわせると、12.8%の人が「高齢者は家庭の中で『じゃま者』にされている」と考えています。

②【社会全体の中では、どうだと思いますか。】（○は1つ）



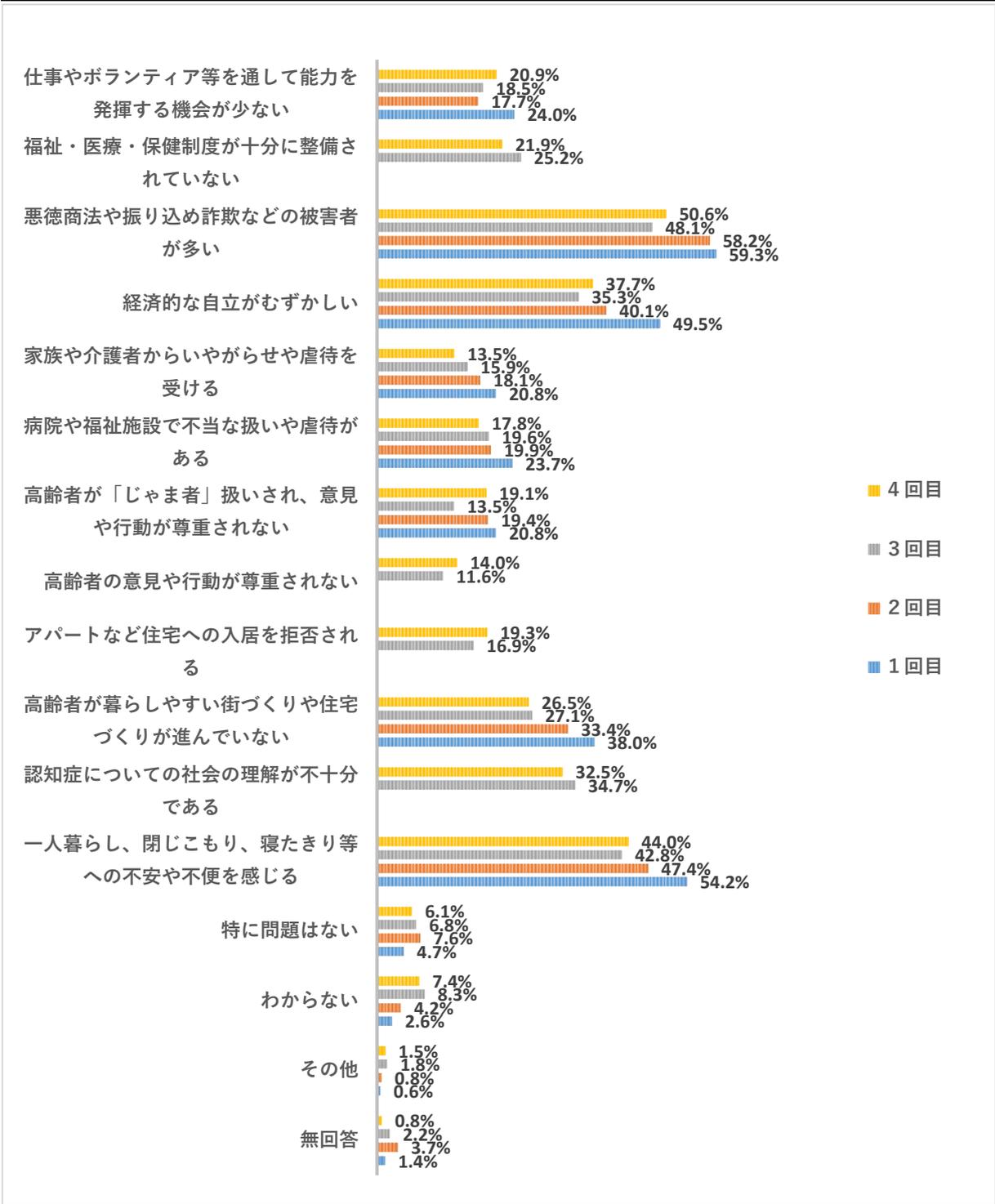
「尊敬されていると思う」(5.6%)と「まあ尊敬されていると思う」(41.2%)をあわせると、46.8%の人が「高齢者は社会全体の中で尊敬されている」と考えています。一方、「『じゃま者』にされていると思う」(2.8%)と「どちらかといえば『じゃま者』にされていると思う」(23.4%)をあわせると、26.2%の人が「高齢者は社会全体の中で『じゃま者』にされている」と考えています。

- （問25・P64）高齢者の人権に関心がある人（全体の29.3%）は「じゃま者にされていると思う傾向がある」

「どちらかといえば「じゃま者」にされている」＋「「じゃま者」にされている」

項目	全体	関心がある	関心がない	差異
①家庭	12.9%	13.5%	9.1%	4.4ポイント
②社会全体	26.2%	18.0%	13.1%	4.9ポイント

問8 高齢者に関することで、人権上特に問題があると思われるのはどのようなことですか。
(〇はいくつでも)



「悪徳商法や振り込め詐欺などの被害者が多い」(50.6%)が最も割合が高く、次いで「一人暮らし、閉じこもり、寝たきり等への不安や不便を感じる」(44.0%)、「経済的な自立がむずかしい」(37.7%)となっています。

「その他」の意見の主な内容

- ・働ける人が働けない
- ・交通機関、移動手段の問題
- ・扶養に関する問題（子が親の扶養義務を果たさない）等

- （問25・P64）高齢者の人権に関心がある人（全体の29.3%）とそうでない人の回答傾向（割合の高かった上位3項目）

〔項目〕悪徳商法や振り込め詐欺などの被害者が多い

全体①	関心がある	関心がない	差異
50.6%	59.6%	46.9%	12.7ポイント

〔項目〕高齢者が一人暮らし、閉じこもり、寝たきり等への不安や不便を感じる事

全体②	関心がある	関心がない	差異
44.0%	61.8%	36.6%	25.2ポイント

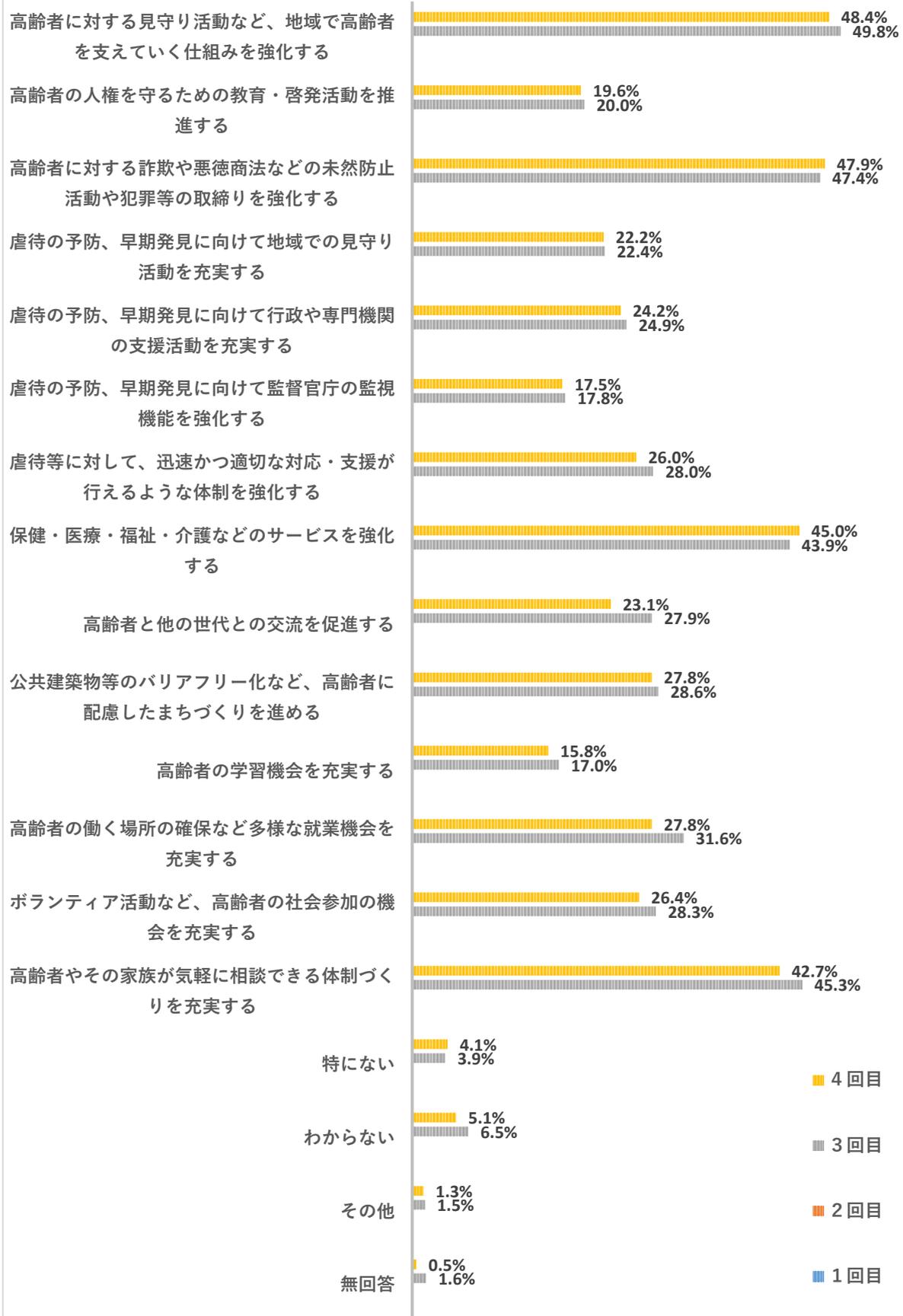
〔項目〕経済的な自立がむずかしい

全体③	関心がある	関心がない	差異
37.7%	51.7%	31.9%	19.8ポイント

【今回の調査（4回目）と県の調査の比較】

項目	今回の調査	県の調査
仕事やボランティア等を通して自分の能力を發揮する機会が少ない	20.9%	-
福祉・医療・保健制度が十分に整備されていない	21.9%	24.7%
悪徳商法や振り込め詐欺などの被害者が多い	50.6%	50.6%
経済的な自立がむずかしい	37.7%	33.5%
家族や介護者からいやがらせや虐待を受ける	13.5%	27.0%
病院や福祉施設で不当な扱いや虐待がある	17.8%	31.9%
高齢者が「じゃま者」扱いされ、意見や行動が尊重されない	19.1%	24.1%
高齢者の意見や行動が尊重されない	14.0%	18.3%
アパートなど住宅への入居を拒否される	19.3%	24.0%
道路の段差解消やエレベーターの設置など、その他高齢者が暮らしやすい街づくりや住宅づくりが進んでいない	26.5%	31.7%
認知症についての社会の理解が不十分である	32.5%	35.7%
高齢者が一人暮らし、閉じこもり、寝たきり等への不安や不便を感じる事	44.0%	-
特に問題はない	6.1%	8.2%
わからない	7.4%	6.5%
その他	1.5%	0.9%
無回答	0.8%	2.0%

問9 高齢者を差別や虐待から守り、高齢者の人権が尊重されるためには、特に必要なことはどのようなことだと思いますか。(〇はいくつでも)



「高齢者に対する見守り活動など、地域で高齢者を支えていく仕組みを強化する」(48.4%)が最も割合が高く、次いで「高齢者に対する詐欺や悪徳商法などの未然防止活動や犯罪等の取締りを強化する」(47.9%)、「保健・医療・福祉・介護などのサービスの強化」(45.0%)となっています。

「その他」の意見の主な内容

- ・高齢者や家族の意識の向上
- ・福祉の充実 等

- (問25・P64) 高齢者の人権に関心がある人(全体の29.3%)とそうでない人の回答傾向(割合の高かった上位3項目)

[項目] 高齢者に対する見守り活動など、地域で高齢者を支えていく仕組みを強化する

全体①	関心がある	関心がない	差異
48.4%	65.2%	41.5%	23.7ポイント

[項目] 高齢者に対する詐欺や悪徳商法などの未然防止活動や犯罪等の取締りを強化する

全体②	関心がある	関心がない	差異
47.9%	62.9%	41.7%	21.2ポイント

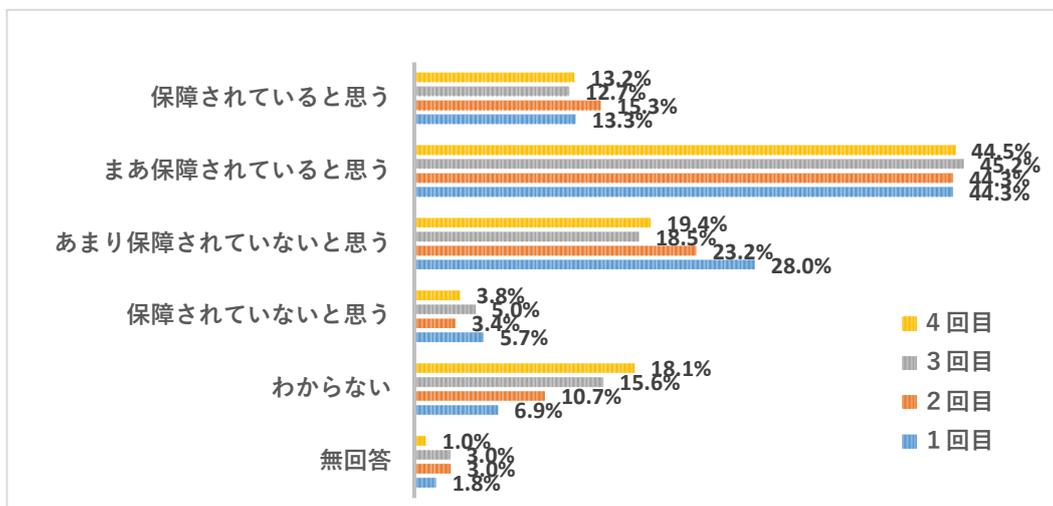
[項目] 保健・医療・福祉・介護などのサービスを強化する

全体③	関心がある	関心がない	差異
45.0%	65.7%	36.4%	29.3ポイント

5. 障がいのある人に関する人権問題について

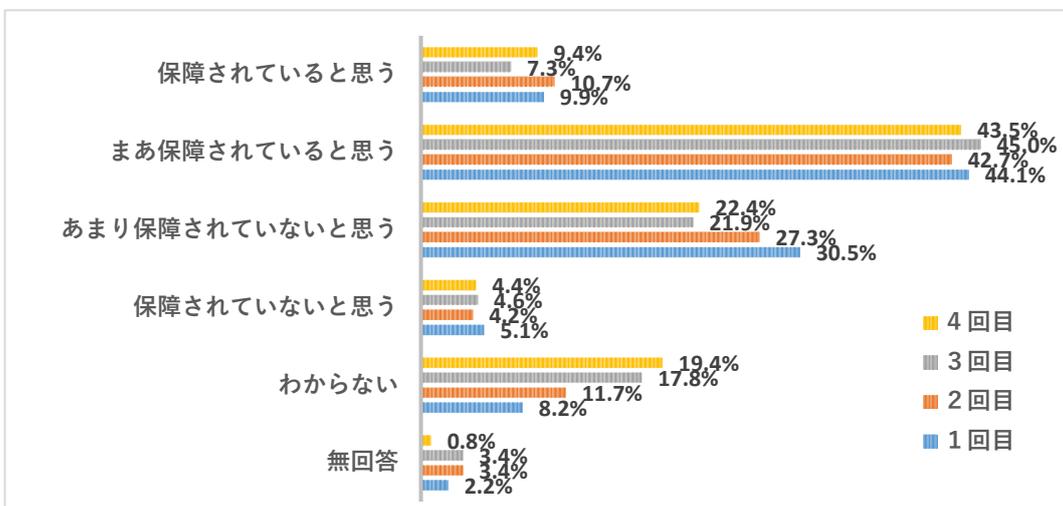
問10 あなたから見て、今の社会で障がいのある人がおかれている状況について、人権が保障されていると思いますか。

①【法律や制度の上では、どうだと思いますか。】（○は1つ）



「保障されていると思う」（13.2%）と「まあ保障されていると思う」（44.5%）をあわせると、57.7%の人が「障がいのある人の人権が保障されている」と考えています。一方、「保障されていないと思う」（3.8%）と「あまり保障されていないと思う」（19.4%）をあわせると、23.2%の人が「障がいのある人の人権が保障されていない」と考えています。

②【日常生活の上では、どうだと思いますか。】（○は1つ）



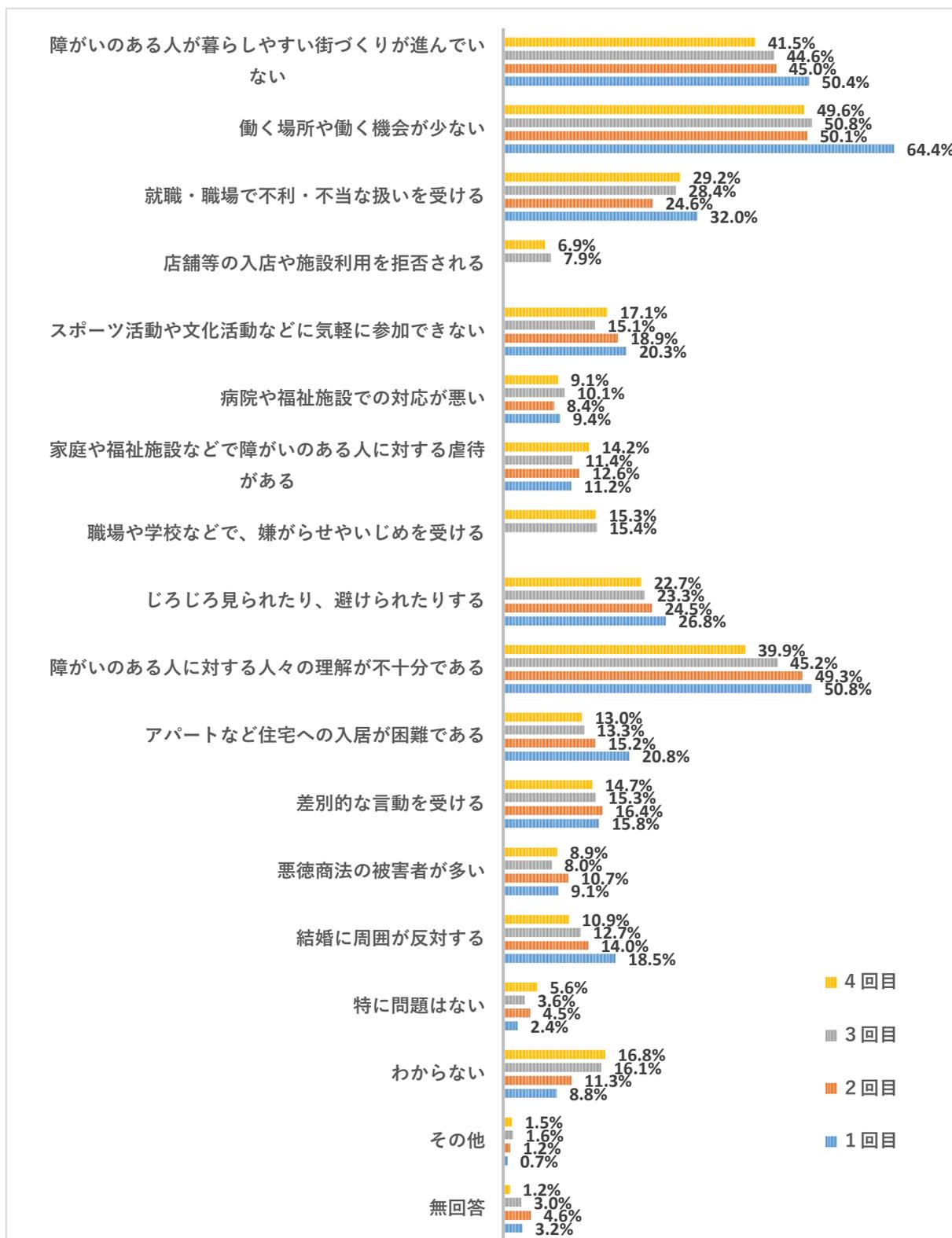
「保障されていると思う」（9.4%）と「まあ保障されていると思う」（43.5%）をあわせると、52.9%の人が「障がいのある人の人権が保障されている」と考えています。一方、「保障されていないと思う」（4.4%）と「あまり保障されていないと思う」（22.4%）をあわせると、26.8%の人が「障がいのある人の人権が保障されていない」と考えています。

- （問25・P64）障がいのある人の人権に関心がある人（全体の26.9%）が「障がいのある人の人権が保障されていない」と思う傾向にある

「保障されていない」＋「あまり保障されていない」

項目	全体	関心がある	関心がない	差異
①法律や制度の上	23.2%	36.8%	18.2%	18.6ポイント
②日常生活	26.9%	39.9%	22.1%	17.8ポイント

問11. 障がいのある人に関することで、人権上特に問題があると思われるのはどのようなことですか。(〇はいくつでも)



「働く場所や働く機会が少ない」(49.6%)が最も割合が高く、次いで「道路の段差解消やエレベーターの設置など、障がいのある人が暮らしやすい街づくりが進んでいない」(41.5%)「障がいのある人に対する人々の理解が不十分である」(39.9%)、となっています。

「その他」の意見の主な内容

- ・外見上、障がいかわからない人への対応が不十分
- ・お店等での対応が不十分 等

- （問25・P64）障がいのある人の人権に関心がある人（全体の26.9%）とそうでない人の回答傾向（割合の高かった上位3項目）

〔項目〕働く場所や働く機会が少ない

全体①	関心がある	関心がない	差異
49.6%	68.7%	42.6%	26.1ポイント

〔項目〕道路の段差解消やエレベーターの設置など、障がいのある人が暮らしやすい街づくりが進んでいない

全体②	関心がある	関心がない	差異
41.5%	53.4%	37.2%	16.2ポイント

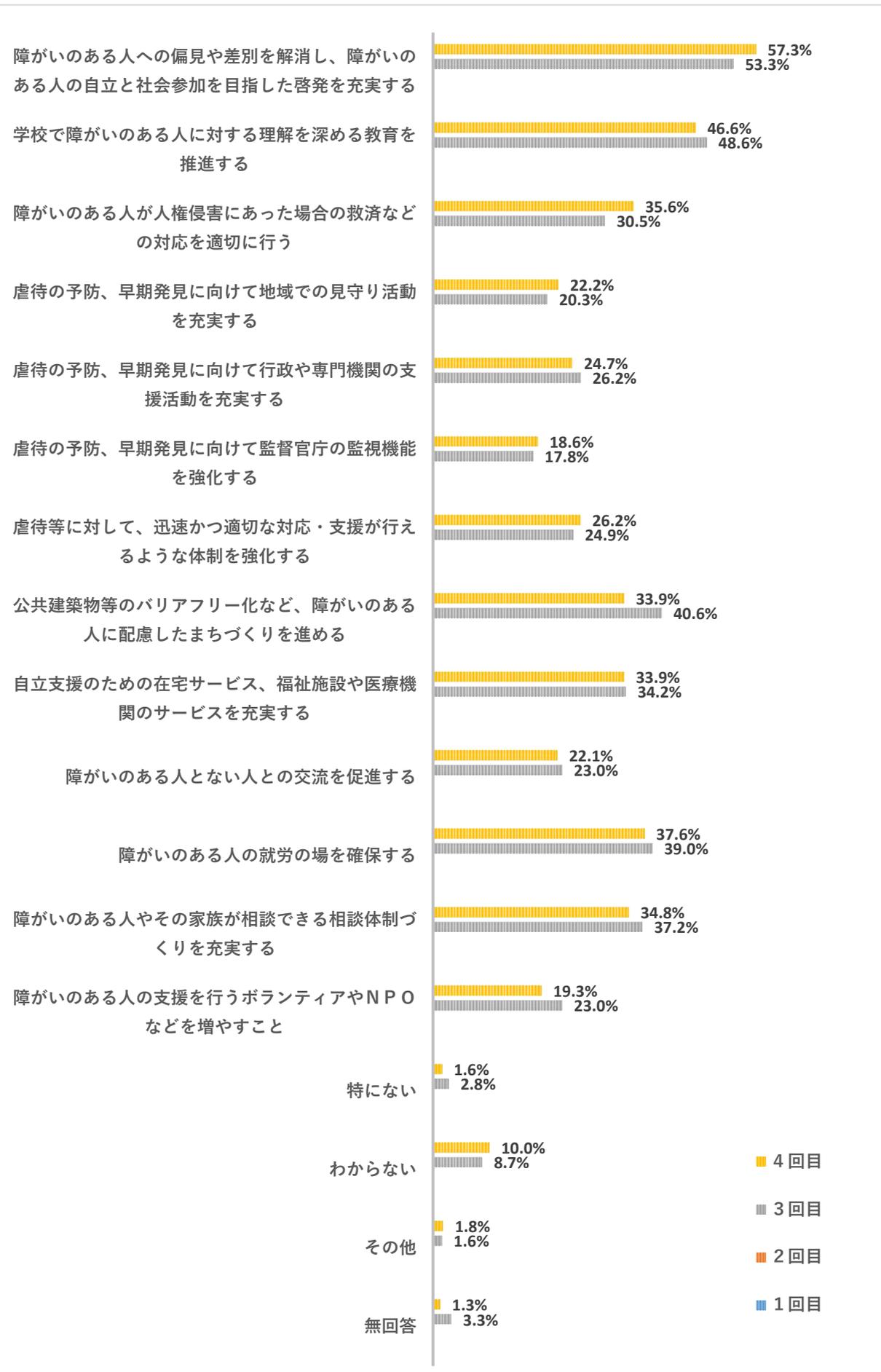
〔項目〕障がいのある人に対する人々の理解が不十分である

全体③	関心がある	関心がない	差異
39.9%	61.3%	32.0%	29.3ポイント

【今回の調査（4回目）と県の調査の比較】

項目	今回の調査	県の調査
道路の段差解消やエレベーターの設置など、障がいのある人が暮らしやすい街づくりが進んでいない	41.5%	50.1%
働く場所や働く機会が少ない	49.6%	49.1%
就職・職場で不利・不当な扱いを受ける	29.2%	35.5%
店舗等の入店や施設利用を拒否される	6.9%	16.4%
スポーツ活動や文化活動などに気軽に参加できない	17.1%	18.0%
病院や福祉施設での対応が悪い	9.1%	-
家庭や福祉施設などで障がいのある人に対する虐待がある	14.2%	24.8%
職場や学校などで、嫌がらせやいじめを受ける	15.3%	27.4%
じろじろ見られたり、避けられたりする	22.7%	30.1%
障がいのある人に対する人々の理解が不十分である	39.9%	44.8%
アパートなど住宅への入居が困難である	13.0%	16.6%
差別的な言動を受ける	14.7%	25.0%
悪徳商法の被害者が多い	8.9%	13.0%
結婚に周囲が反対する	10.9%	16.4%
特に問題はない	5.6%	7.3%
わからない	16.8%	11.3%
その他	1.5%	0.9%
無回答	1.2%	2.6%

問12 障がいのある人を差別や虐待から守り、障がいのある人の人権が尊重されるためには、特に必要なことはどのようなことだと思いますか。(〇はいくつでも)



「障がいのある人に対する偏見や差別を解消し、障がいのある人の自立と社会参加を目指した啓発を充実する」(57.3%)が最も割合が高く、次いで「学校で障がいのある人に対する理解を深める教育を推進する」(46.6%)、「障がいのある人の就労の場の確保」(37.6%)となっています。

「その他」の意見の主な内容

・障がいのある人や、その家族の側にたって考える 等

- (問25・P64) 障がいのある人の人権に関心がある人(全体の26.9%)とそうでない人の回答傾向(割合の高かった上位3項目)

[項目] 障がいのある人に対する偏見や差別を解消し、障がいのある人の自立と社会参加を目指した啓発を充実する

全体①	関心がある	関心がない	差異
57.3%	75.5%	50.5%	25.0% ^{※1}

[項目] 学校で障がいのある人に対する理解を深める教育を推進する

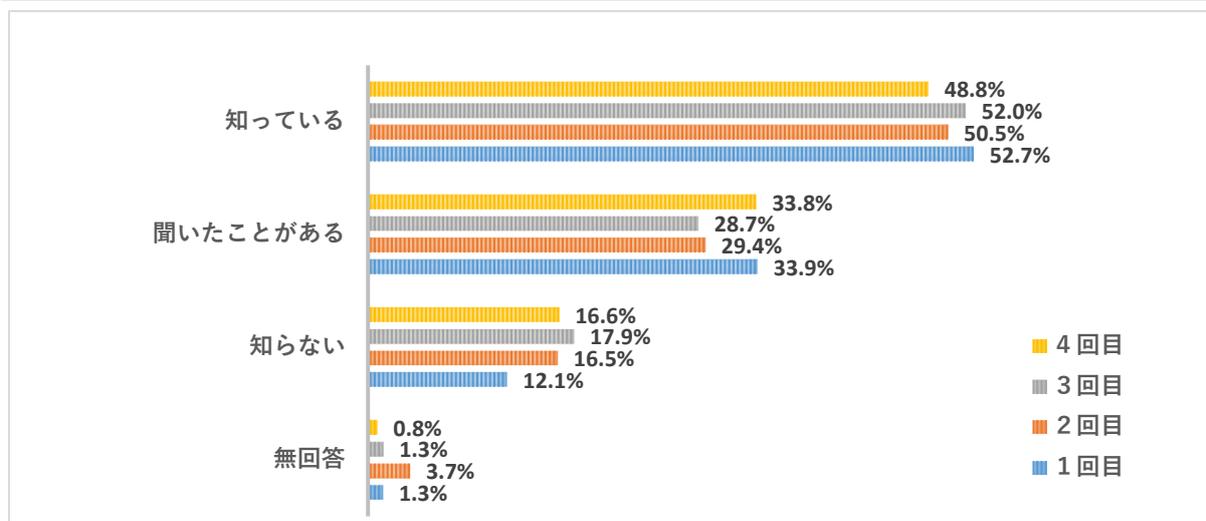
全体②	関心がある	関心がない	差異
46.6%	65.0%	39.9%	25.1% ^{※1}

[項目] 障がいのある人の就労の場の確保

全体③	関心がある	関心がない	差異
37.6%	62.0%	28.6%	33.4% ^{※1}

6. 部落差別（同和問題）について

問13 あなたは、「部落差別」や「同和問題」などと言われる人権問題があることを知っていますか。（〇は1つ）

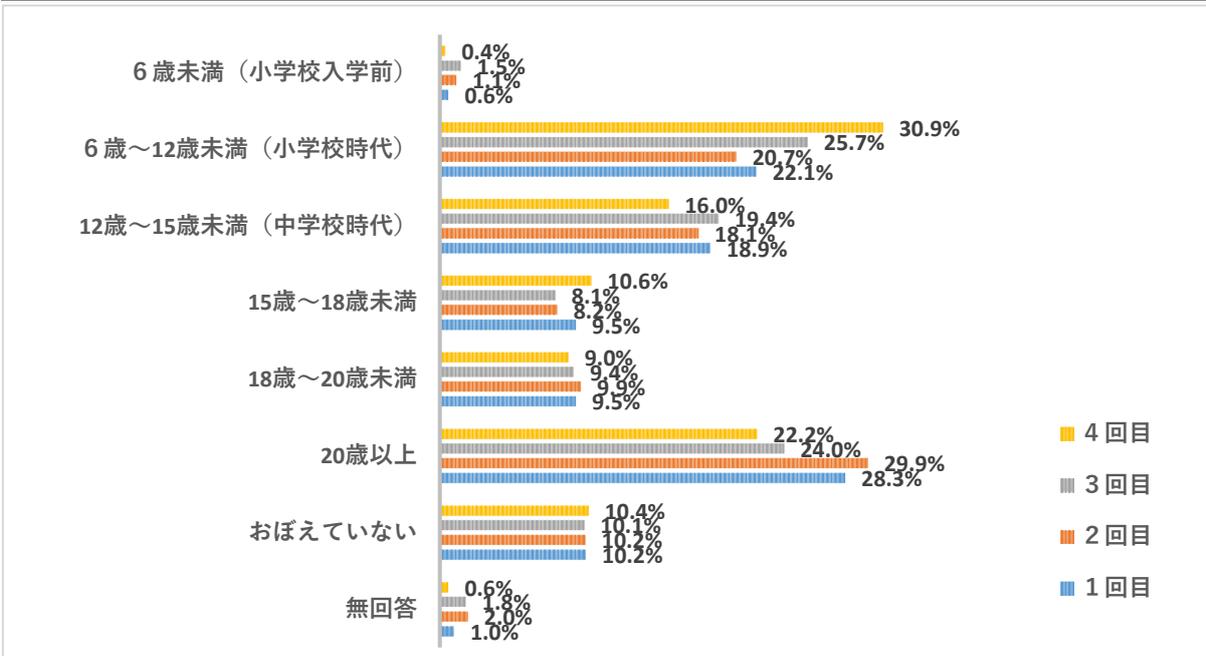


「知っている」(48.8%)と「聞いたことがある」(33.8%)をあわせて、部落差別（同和問題）について何らかの形で知っている人は、82.6%となっています。一方、「知らない」は16.6%となっています。

● 年代別の回答傾向（「知っている」と「聞いたことがある」をあわせた割合）

全体	60歳代	50歳代	40歳代	70歳以上	30歳代	18歳～20歳代
82.5%	92.6	86.7%	85.7%	78.8%	72.0%	68.6%

問13-1 問13で「1. 知っている」「2. 聞いたことがある」と回答された方におたずねします。部落差別（同和問題）について、はじめて知ったのはいつ頃ですか。（〇は1つ）



「6歳～12歳未満（小学校時代）」(30.9%)が最も割合が高く、次いで「20歳以上」(22.2%)、「12歳～15歳未満（中学校時代）」(16.0%)となっています。

- はじめて知った時期については、年代別で異なる回答傾向がみられる

[項目] 6歳～12歳未満（小学校時代）

全体①	30歳代	50歳代	40歳代	18歳～20歳代	60歳代	70歳以上
31.3%	61.1%	52.9%	46.7%	45.8%	27.4%	9.3%

[項目] 20歳以上

全体②	70歳以上	60歳代	40歳代	50歳代	30歳代	18歳～20歳代
22.2%	28.6%	24.8%	16.7%	16.5%	13.9%	8.3%

[項目] 12歳～15歳未満（中学校時代）

全体③	30歳代	70歳以上	18歳～20歳代	60歳代	50歳代	40歳代
16.0%	19.4%	18.7%	16.7%	15.9%	12.9%	10.0%

[項目] 15歳～18歳未満

全体④	18歳～20歳代	70歳以上	60歳代	50歳代	40歳代	30歳代
10.6%	29.2%	15.4%	11.5%	3.5%	3.3%	0.0%

[項目] 18歳～20歳未満

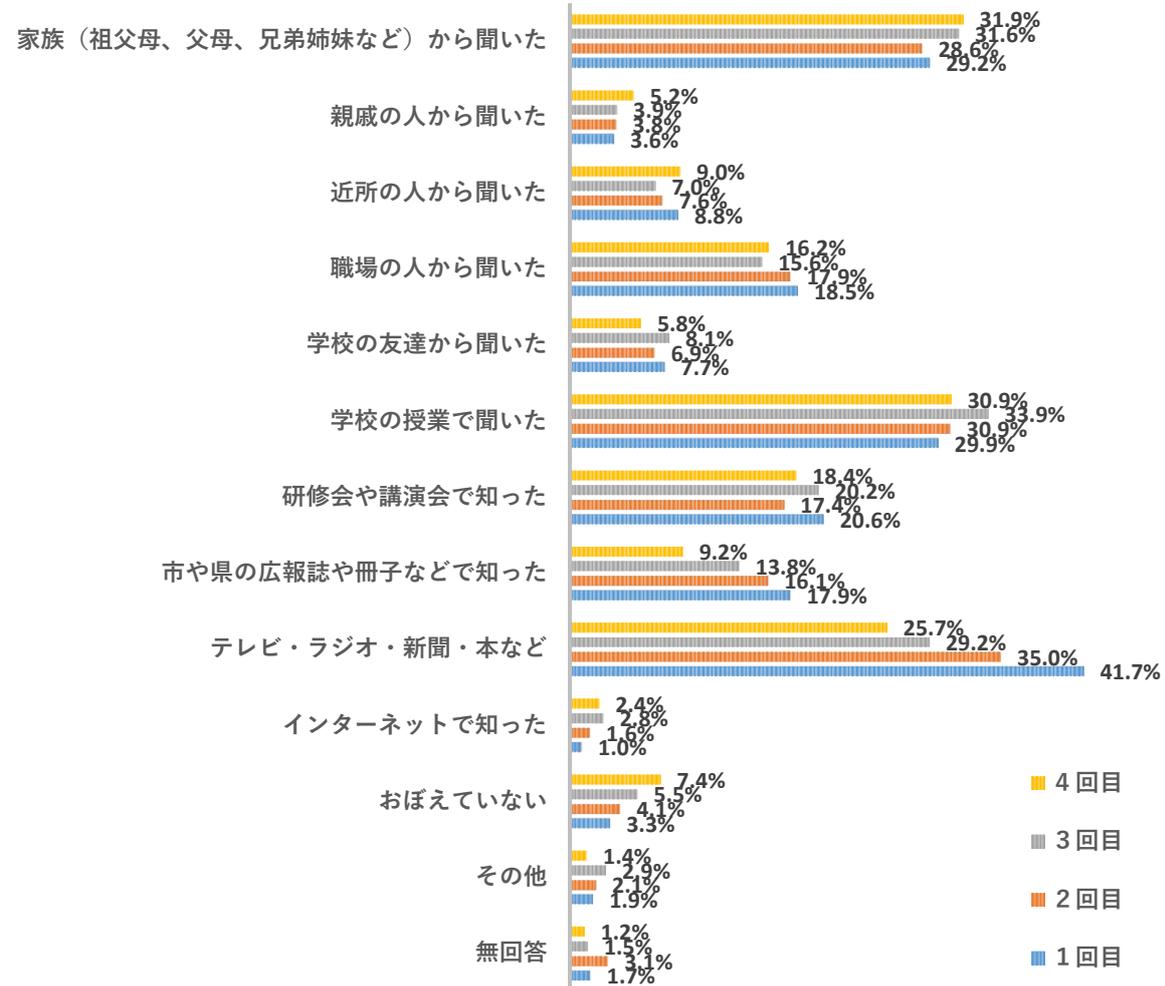
全体⑤	60歳代	70歳以上	40歳代	50歳代	18歳～20歳代	30歳代
9.0%	13.3%	12.6%	5.0%	4.7%	0.0%	0.0%

【今回の調査（4回目）と県の調査の比較】

項目	今回の調査
6歳未満（小学校入学前）	0.4%
6歳～12歳未満（小学校時代）	30.9%
12歳～15歳未満（中学校時代）	16.0%
15歳～18歳未満	10.6%
18歳～20歳未満	9.0%
20歳以上	22.2%
おぼえていない	10.4%
無回答	0.6%

項目	県の調査
中学生以前	31.2%
高校生のとき	9.8%
学生の頃	8.6%
社会人になってから	22.9%
覚えてない	9.5%
同和問題について知らない	14.5%
答えたくない	0.5%
無回答	3.0%

問13-2 問13で「1. 知っている」「2. 聞いたことがある」と回答された方におたずねします。これまでに部落差別（同和問題）のことをどのようにして知る機会がありましたか。（〇はいくつでも）



「家族（祖父母、父母、兄弟姉妹など）から聞いた」（31.9%）が最も割合が高く、次いで「学校の授業で聞いた」（30.9%）、「テレビ・ラジオ・新聞・本など」（25.7%）となっています。

「その他」の意見の主な内容

- ・報道で知った
- ・映画で知った
- ・知人から聞いた 等

● 年代別の回答傾向（割合の高かった上位3項目）

[項目] 家族（祖父母、父母、兄弟姉妹など）から聞いた

全体①	60歳代	70歳以上	40歳代	50歳代	18歳～20歳代	30歳代
31.9%	41.6%	31.9%	30.0%	25.9%	25.0%	25.0%

[項目] 学校の授業で聞いた

全体②	18歳～20歳代	30歳代	50歳代	40歳代	60歳代	70歳以上
30.9%	79.2%	61.1%	48.2%	45.0%	22.1%	11.0%

[項目] テレビ・ラジオ・新聞・本など

全体③	60歳代	70歳以上	50歳代	40歳代	30歳代	18歳～20歳代
25.7%	31.9%	29.1%	22.4%	20.0%	19.4%	8.3%

● 年代別で回答傾向に差異がみられる（年代別で割合の高かった上位3項目）

<18歳～20歳代>

- ①学校の授業で聞いた（79.2%）【全体② 30.9%】
- ②家族（祖父母、父母、兄弟姉妹など）から聞いた（25.0%）【全体① 31.9%】
- ③職場の人から聞いた（12.5%）【全体⑤ 16.2%】
- ③研修会や講演会で知った（12.5%）【全体④ 18.4%】

<30歳代>

- ①学校の授業で聞いた（61.1%）【全体② 30.9%】
- ②家族（祖父母、父母、兄弟姉妹など）から聞いた（25.0%）【全体① 31.9%】
- ③テレビ・ラジオ・新聞・本など（19.4%）【全体③ 25.7%】
- ③研修会や講演会で知った（19.4%）【全体④ 18.4%】

<40歳代>

- ①学校の授業で聞いた（45.0%）【全体② 30.9%】
- ②家族（祖父母、父母、兄弟姉妹など）から聞いた（30.0%）【全体① 31.9%】
- ③テレビ・ラジオ・新聞・本など（20.0%）【全体③ 25.7%】

<50歳代>

- ①学校の授業で聞いた（48.2%）【全体② 30.9%】
- ②家族（祖父母、父母、兄弟姉妹など）から聞いた（25.9%）【全体① 31.9%】
- ③テレビ・ラジオ・新聞・本など（22.4%）【全体③ 25.7%】

<60歳代>

- ①家族（祖父母、父母、兄弟姉妹など）から聞いた（41.6%）【全体① 31.9%】
- ②テレビ・ラジオ・新聞・本など（31.9%）【全体③ 25.7%】
- ③研修会や講演会で知った（26.5%）【全体④ 18.4%】

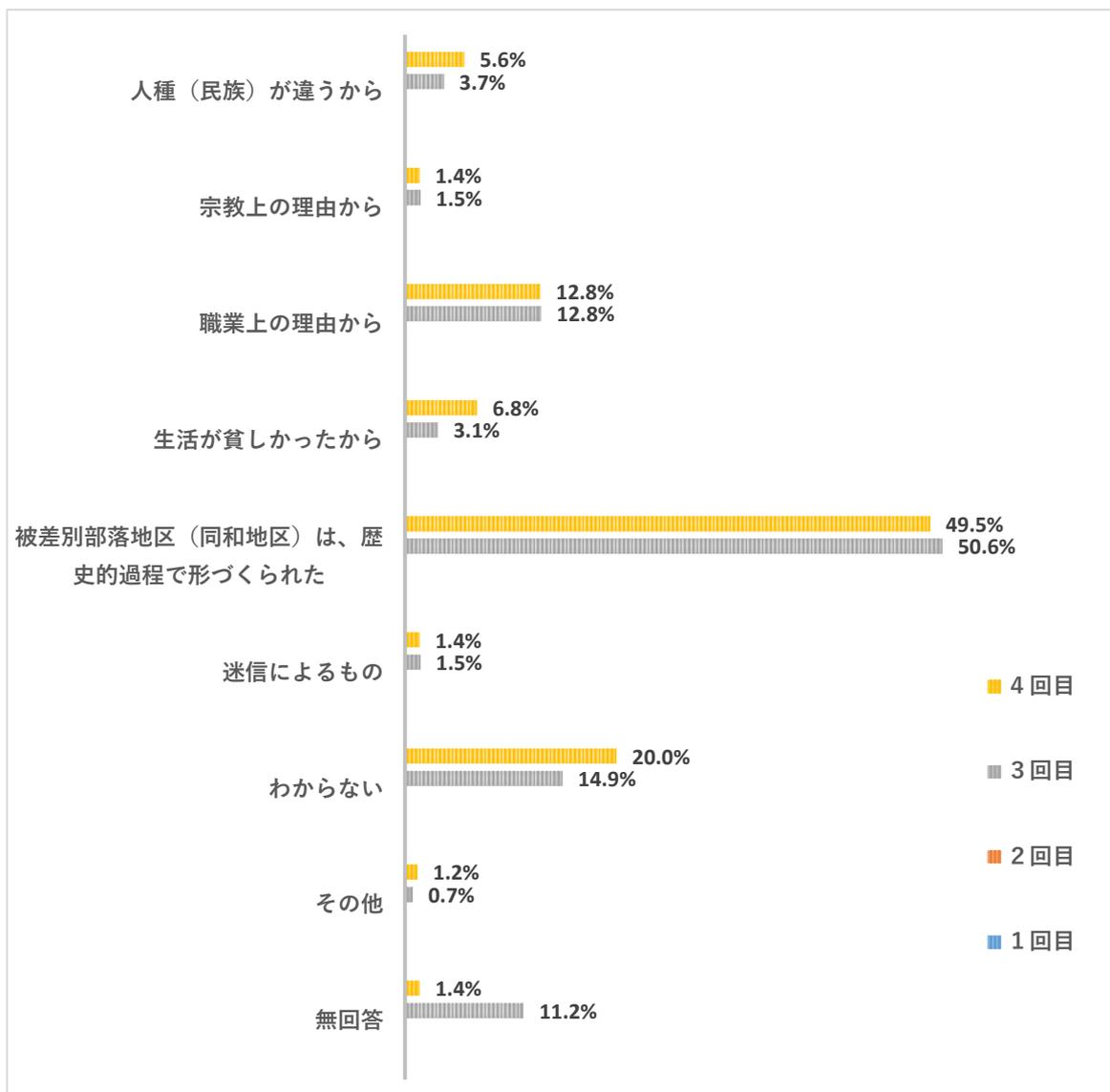
<70歳以上>

- ①家族（祖父母、父母、兄弟姉妹など）から聞いた（31.9%）【全体① 31.9%】
- ②テレビ・ラジオ・新聞・本など（29.1%）【全体③ 25.7%】
- ③職場の人から聞いた（20.9%）【全体⑤ 16.2%】

【今回の調査（4回目）と県の調査の比較】

項目	今回の調査	県の調査
家族（祖父母、父母、兄弟姉妹など）から聞いた	31.9%	15.3%
親戚の人から聞いた	5.2%	0.8%
近所の人から聞いた	9.0%	2.7%
職場の人から聞いた	16.2%	8.0%
学校の友達から聞いた	5.8%	3.8%
学校の授業で聞いた	30.9%	29.0%
研修会や講演会で知った	18.4%	3.6%
市や県の広報誌や冊子などで知った	9.2%	1.6%
テレビ・ラジオ・新聞・本など	25.7%	15.5%
インターネットで知った	2.4%	0.6%
おぼえていない	7.4%	17.0%
その他	1.4%	1.4%
無回答	1.2%	0.6%

問13-3 問13で「1. 知っている」「2. 聞いたことがある」と回答された方におたずねします。あなたは「被差別部落地区」（同和地区）などとして、差別を受けてきた地区はどのような理由でできたとお考えですか。（〇は1つ）



「被差別部落地区（同和地区）は、歴史的過程で形づくられた」（49.5%）が最も割合が高く、次いで「わからない」（20.0%）、「職業上の理由から」（12.8%）となっています。

- （問25・P64）部落差別（同和問題）に関心のある人（全体の8.1%）とそうでない人の回答傾向（割合の高かった上位3項目）

[項目] 被差別部落地区（同和地区）は、歴史的過程で形づくられた

全体①	関心がある	関心がない	差異
49.5%	59.2%	39.2%	20.0ポイント

[項目] わからない

全体②	関心がある	関心がない	差異
20.0%	6.1%	17.4%	11.3ポイント

[項目] 職業上の理由から

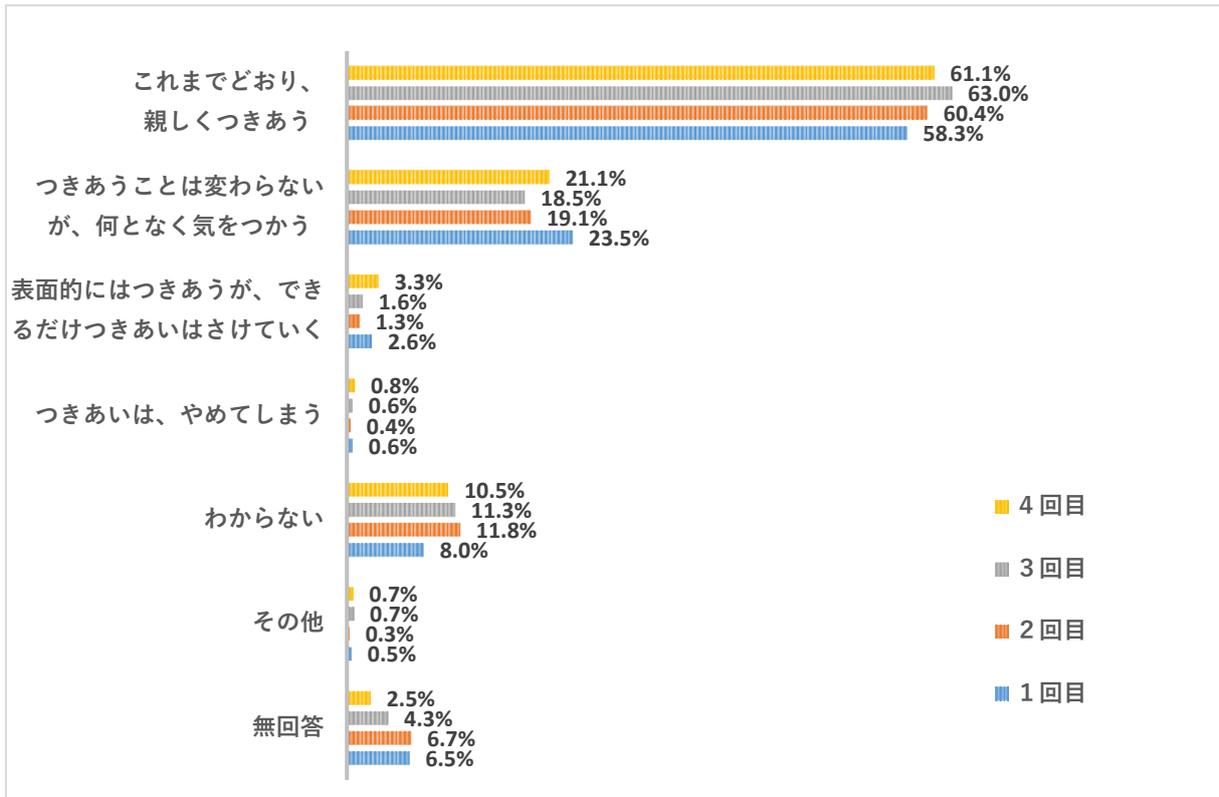
全体③	関心がある	関心がない	差異
12.8%	6.1%	10.9%	4.8ポイント

【今回の調査（４回目）と県の調査の比較】

項目	今回の調査	県の調査
人種（民族）が違うから	5.6%	5.2%
宗教上の理由から	1.4%	1.9%
職業上の理由から	12.8%	11.1%
生活が貧しかったから	6.8%	9.6%
被差別部落地区（同和地区）は、歴史的過程で形づくられた	49.5%	42.7%
迷信によるもの	1.4%	2.6%
わからない	20.0%	24.7%
その他	1.2%	0.7%
無回答	1.4%	1.7%

問14 あなたのお考えに最も近いものはどれですか。

① 【仮に、日頃から親しくつきあっている隣近所の人「被差別部落地区」（同和地区）出身者だとわかった場合、あなたはどうしますか】（○は1つ）



「これまでどおり、親しくつきあう」（61.1%）が最も割合が高く、次いで「つきあうことは変わらないが、何となく気をつかう」（21.1%）、「わからない」（10.5%）となっています。

「その他」の意見の主な内容

- ・別に意識する必要はない
- ・そういった地区は存在しない 等

● 年代別の回答傾向（最も割合が高かった項目）

[項目] これまでどおり親しく付き合う

全体①	50歳代	18歳~20歳代	40歳代	30歳代	70歳以上	60歳代
61.1%	71.4%	68.6%	64.3%	60.0%	59.3%	53.3%

● （問25・P64）部落差別（同和問題）に関心のある人（全体の8.1%）とそうでない人の回答傾向

[項目] これまでどおり、親しくつきあう

全体①	関心がある	関心がない	差異
61.1%	69.4%	60.4%	9.0 ㊦

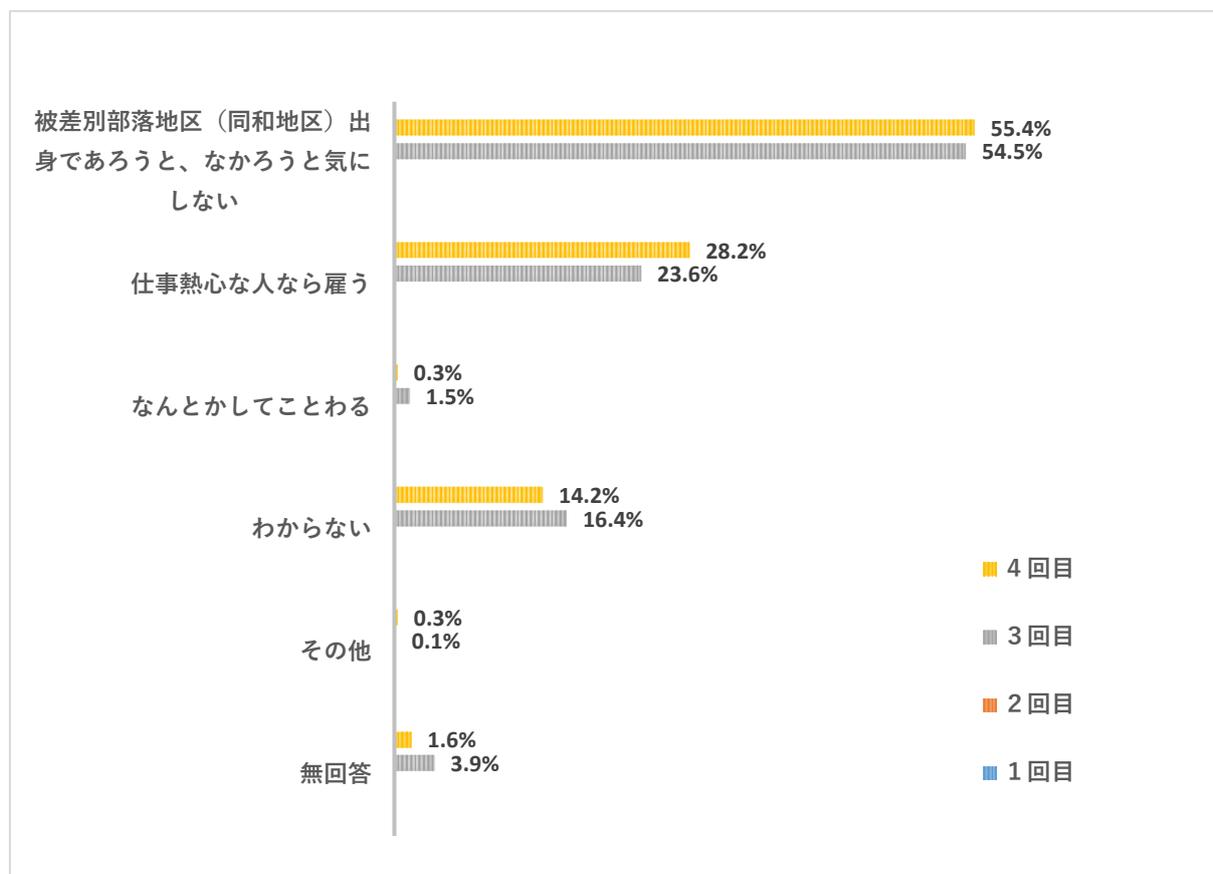
[項目] つきあうことは変わらないが、何となく気をつかう

全体②	関心がある	関心がない	差異
21.1%	26.5%	20.6%	5.9 ㊦

[項目] わからない

全体③	関心がある	関心がない	差異
10.5%	2.0%	11.3%	9.3 ㊦

② 【仮に、あなたが人を雇う時、その人が「被差別部落地区」（同和地区）出身だと分かった場合、あなたはどうしますか】（○は1つ）



「被差別部落地区（同和地区）出身であろうと、なかろうと気にしない」が55.4%と最も割合が高く、次いで「仕事熱心な人なら雇う」（28.2%）、「わからない」（14.2%）となっています。

● 年代別の回答傾向（最も割合が高かった項目）

[項目] 被差別部落地区（同和地区）出身であろうと、なかろうと気にしない

全体①	18歳～20歳代	50歳代	30歳代	60歳代	70歳以上	40歳代
55.4%	71.4%	68.4%	62.0%	51.6%	50.6%	47.1%

● （問25・P64）部落差別（同和問題）に関心のある人（全体の8.1%）とそうでない人の回答傾向（割合が高かった上位3項目）

[項目] 被差別部落地区（同和地区）出身であろうと、なかろうと気にしない

全体①	関心がある	関心がない	差異
55.4%	69.4%	54.1%	15.3ポイント

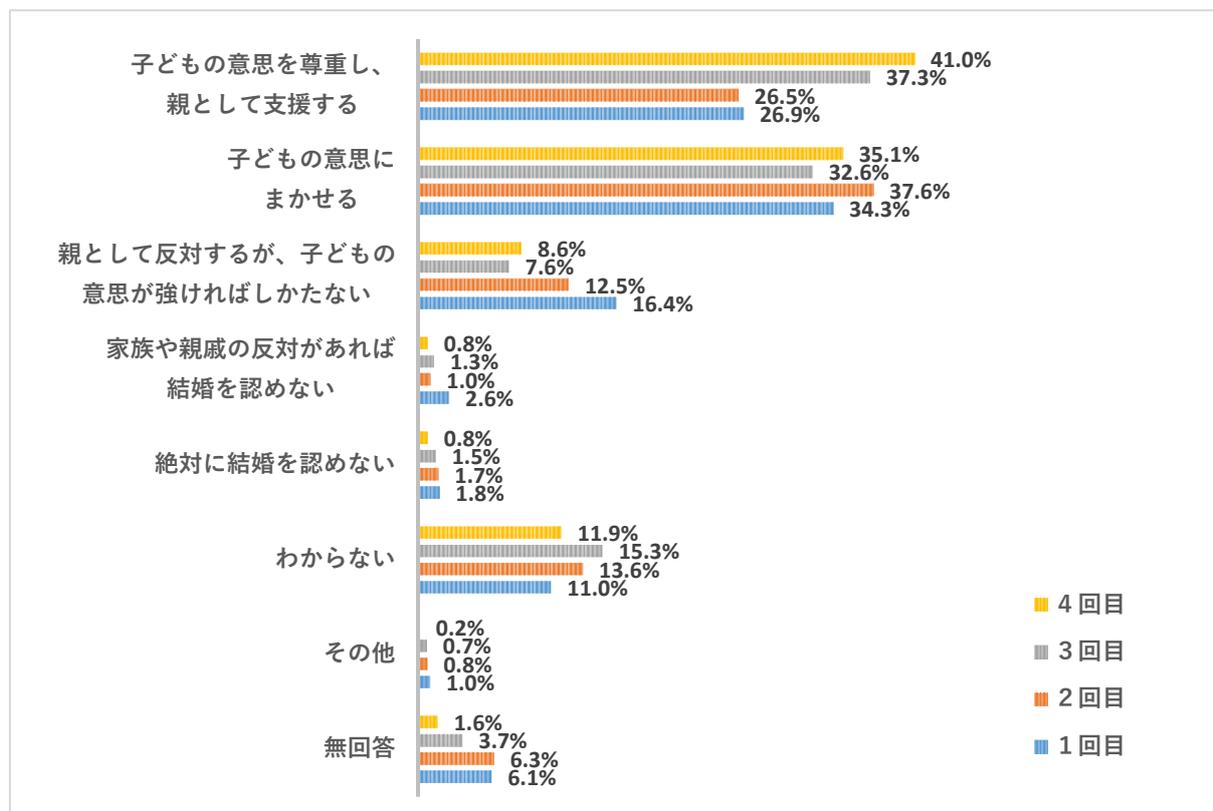
[項目] 仕事熱心な人なら雇う

全体②	関心がある	関心がない	差異
28.2%	26.5%	28.3%	1.8ポイント

[項目] わからない

全体③	関心がある	関心がない	差異
14.2%	2.0%	15.2%	13.2ポイント

- ③ 【仮に、あなたのお子さんの結婚しようとする相手が、「被差別部落地区」（同和地区）出身の人であるとわかった場合（お子さんがいない場合は、いると仮定してお答えください）、あなたはどのようにしますか】（〇は1つ）



「子どもの意思を尊重し、親として支援する」（41.0%）が最も割合が高く、次いで「子どもの意思にまかせる」（35.1%）となり、合わせると前回調査と比較して6.2ポイント増加しています。「わからない」は11.9%となっています。一方、「親として反対するが、子どもの意思が強ければしかたない」（8.6%）、「家族や親戚の反対があれば結婚を認めない」（0.8%）、「絶対に結婚を認めない」（0.8%）の結婚に反対する側の意見の割合は、前回調査とほぼ変わっていません。

- 年代別の回答傾向（最も割合が高かった項目）

〔項目〕子どもの意思を尊重し、親として支援する

全体①	18歳～20歳代	50歳代	30歳代	40歳代	60歳代	70歳以上
41.0%	57.1%	50.0%	44.0%	40.0%	38.5%	35.5%

- （問25・P64）部落差別（同和問題）に関心のある人（全体の8.6%）とそうでない人の回答傾向（割合が高かった上位3項目）

〔項目〕子どもの意思を尊重し、親として支援する

全体①	関心がある	関心がない	差異
41.0%	59.2%	39.4%	19.8ポイント

〔項目〕子どもの意思にまかせる

全体②	関心がある	関心がない	差異
35.1%	28.6%	35.7%	7.1ポイント

〔項目〕わからない

全体③	関心がある	関心がない	差異
11.9%	4.1%	12.5%	8.4ポイント

- （問26・P66）講演会や研修会に何回も参加した人（全体の5.8%）と1～2回参加した人（全体の10.9%）と参加したことがない（全体の81.4%）の回答傾向

〔項目〕子どもの意思を尊重し、親として支援する

全体①	何回となく参加	1・2回参加	参加なし
41.0%	57.1%	54.5%	38.7%

〔項目〕子どもの意思にまかせる

全体②	何回となく参加	1・2回参加	参加なし
35.1%	28.6%	25.8%	37.0%

〔項目〕わからない

全体③	何回となく参加	1・2回参加	参加なし
11.9%	5.7%	7.6%	12.8%

〔項目〕親として反対するが、子どもの意思が強ければしかたない

全体④	何回となく参加	1・2回参加	参加なし
8.6%	8.6%	9.1%	8.5%

〔項目〕絶対に結婚を認めない

全体⑤	何回となく参加	1・2回参加	参加なし
0.8%	0.0%	0.0%	1.0%

〔項目〕家族や親戚の反対があれば結婚を認めない

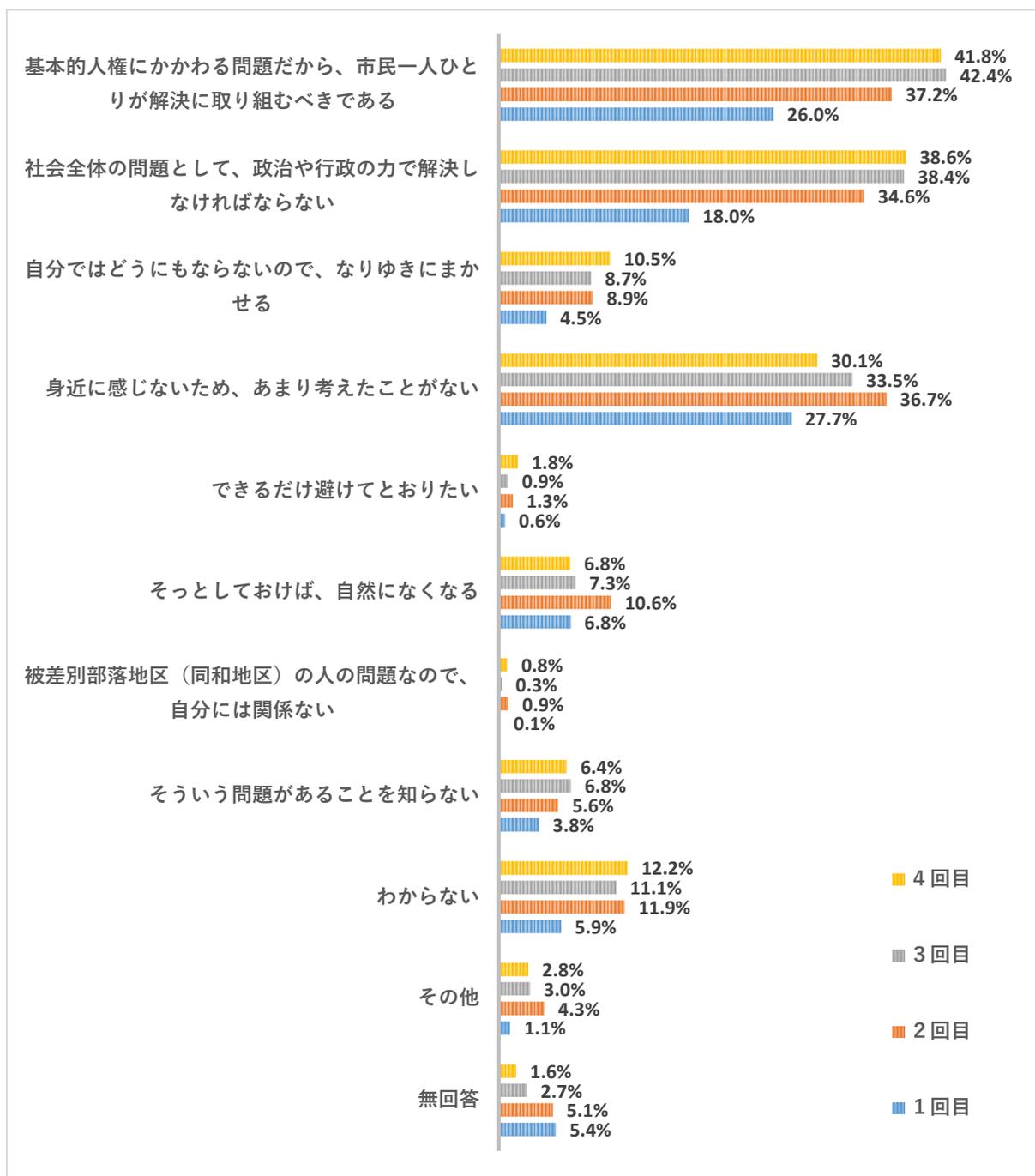
全体⑤	何回となく参加	1・2回参加	参加なし
0.8%	0.0%	1.5%	0.8%

【今回の調査（4回目）と県の調査の比較】

項目	今回の調査	県の調査
子どもの意思を尊重し、親として支援する	41.0%	33.7%
子どもの意思にまかせる	35.1%	30.7%
親として反対するが、子どもの意思が強ければしかたない	8.6%	10.2%
家族や親戚の反対があれば結婚を認めない	0.8%	1.0%
絶対に結婚を認めない	0.8%	1.1%
わからない	11.9%	20.6%
その他	0.2%	1.2%
無回答	1.6%	1.4%

問15 あなたは、部落差別（同和問題）についてどのように考えますか。（〇はいくつでも）

※1回目～単数選択（〇は一つ）、2回目・3回目～複数選択（〇はいくつでも）



「基本的人権にかかわる問題だから、市民一人ひとりが解決に取り組むべきである」（41.8%）が最も割合が高く、次いで、「社会全体の問題として、政治や行政の力で解決しなければならない」（38.6%）、「身近に感じないため、あまり考えたことがない」（30.1%）となっています。

「その他」の意見の主な内容

- ・ 同じ人間である、何も問題ない
- ・ 学校教育の中で学ぶべき知識だと思う
- ・ この問題を教えなければ、知っている人もいなくなり自然となくなる 等

- （問25・P64）部落差別（同和問題）に関心がある人（全体の8.1%）とそうでない人の回答傾向（割合の高かった上位3項目）

[項目] 基本的人権にかかわる問題だから、市民一人ひとりが解決に取り組むべきである

全体①	関心がある	関心がない	差異
41.8%	81.6%	38.4%	43.2ポイント

[項目] 社会全体の問題として、政治や行政の力で解決しなければならない

全体②	関心がある	関心がない	差異
38.6%	65.3%	36.2%	29.1ポイント

[項目] 身近に感じないため、あまり考えたことがない

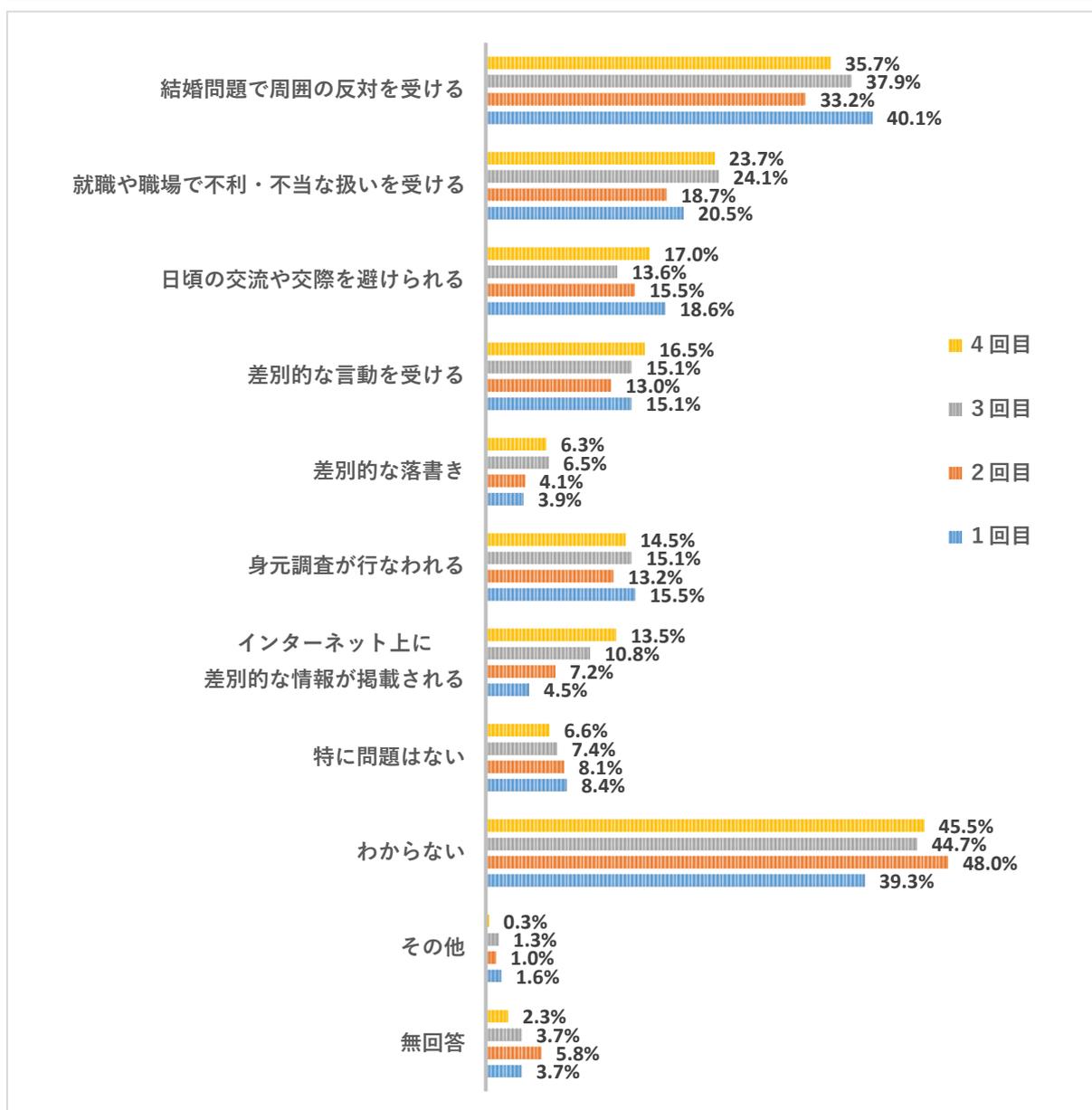
全体③	関心がある	関心がない	差異
30.1%	16.3%	31.4%	15.1ポイント

【今回の調査（4回目）と県の調査の比較】

項目	今回の調査	県の調査
基本的人権にかかわる問題だから、市民一人ひとりが解決に取り組むべきである	41.8%	42.7%
社会全体の問題として、政治や行政の力で解決しなければならない	38.6%	
自分ではどうにもならないので、なりゆきにまかせる	10.5%	2.9%
身近に感じないため、あまり考えたことがない	30.1%	33.6%
できるだけ避けてとおりたい	1.8%	0.5%
そっとしておけば、自然になくなる	6.8%	3.9%
被差別部落地区（同和地区）の人の問題なので、自分には関係ない	0.8%	0.7%
そういう問題があることを知らない	6.4%	-
わからない	12.2%	11.8%
その他	2.8%	1.6%
無回答	1.6%	2.4%

※今回の調査～複数選択（○はいくつでも）、県の調査～単数選択（○は一つ）

問16 あなたは、部落差別（同和問題）に関して、現在、どのような人権問題がおきていると思いますか。（〇はいくつでも）



「わからない」(45.5%)が最も割合が高く、次いで、「結婚問題で周囲の反対を受ける」(35.7%)、「就職や職場で不利・不当な扱いを受ける」(23.7%)となっています。

- （問25・P64）部落差別（同和問題）に関心がある人（全体の8.1%）とそうでない人の回答傾向（割合の高かった上位3項目）

[項目] わからない

全体①	関心がある	関心がない	差異
45.5%	16.3%	48.0%	31.7ポイント

[項目] 結婚問題で周囲の反対を受ける

全体②	関心がある	関心がない	差異
35.7%	65.3%	33.2%	32.1ポイント

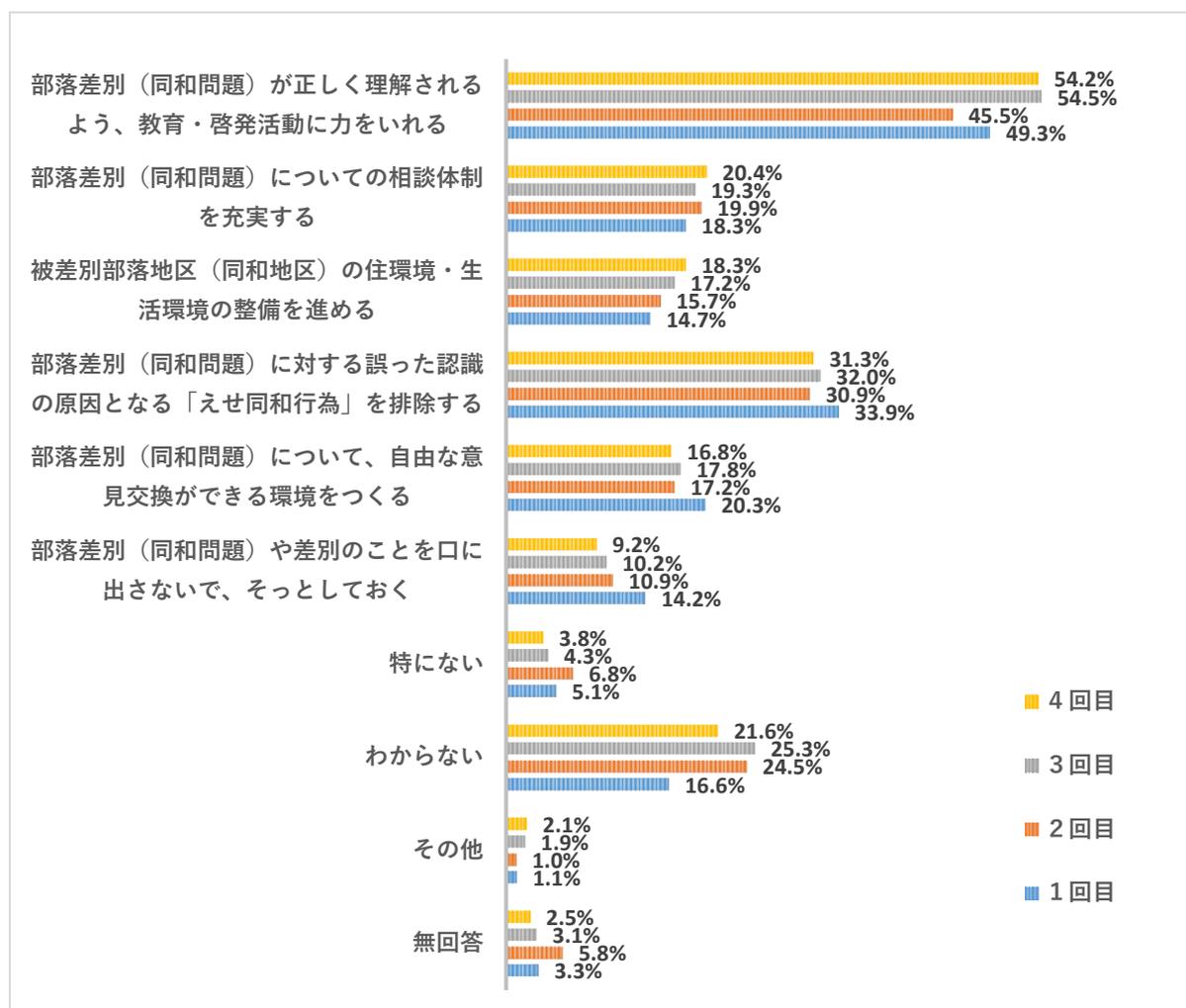
[項目] 就職や職場で不利・不当な扱いを受ける

全体③	関心がある	関心がない	差異
23.7%	53.1%	21.1%	32.0ポイント

【今回の調査（4回目）と県の調査の比較】

	今回の調査	県の調査
結婚問題で周囲の反対を受ける	35.7%	42.3%
就職や職場で不利・不当な扱いを受ける	23.7%	22.4%
日頃の交流や交際を避けられる	17.0%	-
差別的な言動を受ける	16.5%	24.2%
差別的な落書き	6.3%	7.9%
身元調査が行なわれる	14.5%	25.2%
インターネット上に差別的な情報が掲載される	13.5%	12.1%
特に問題はない	6.6%	9.5%
わからない	45.5%	30.8%
その他	0.3%	1.2%
無回答	2.3%	2.2%

問17 あなたは、部落差別（同和問題）を解決するためにはどのようなことをすればよいと思いますか。（〇はいくつでも）



「部落差別（同和問題）が正しく理解されるよう、教育・啓発活動に力をいれる」（54.2%）が最も割合が高く、次いで、「部落差別（同和問題）に対する誤った認識の原因となる「えせ同和行為」を排除する」（31.3%）、「わからない」（21.6%）となっています。

「その他」の意見の主な内容

- ・行政が取り組んでいくべき
- ・現代社会でこのようなことがあってはならない
- ・差別の実態を教えなければ差別はおきない、このような質問をしなければ良い 等

- （問25・P64）部落差別（同和問題）に関心がある人（全体の8.1%）とそうでない人の回答傾向（割合の高かった上位3項目）

[項目] 部落差別(同和問題)が正しく理解されるよう、教育・啓発活動に力をいれる

全体①	関心がある	関心がない	差異
54.2%	81.6%	51.8%	29.8% ^{※1}

[項目] 部落差別(同和問題)に対する誤った認識の原因となる「えせ同和行為」を排除する

全体②	関心がある	関心がない	差異
31.3%	51.0%	17.7%	33.3% ^{※1}

[項目] わからない

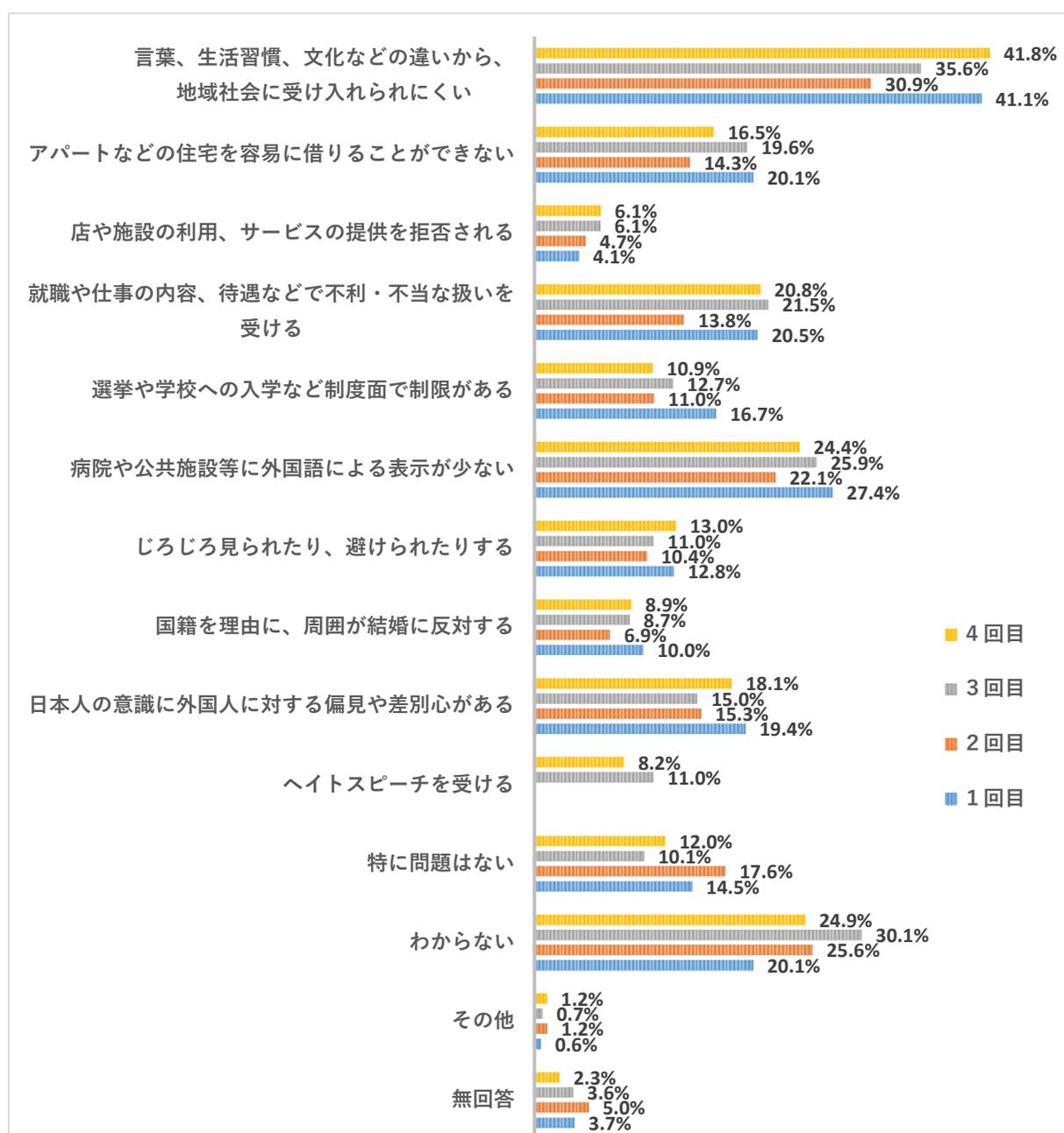
全体③	関心がある	関心がない	差異
21.6%	6.1%	22.9%	16.8% ^{※1}

【今回の調査（4回目）と県の調査の比較】

項目	今回の調査	県の調査
部落差別（同和問題）が正しく理解されるよう、教育・啓発活動に力をいれる	54.2%	53.5%
部落差別（同和問題）についての相談体制を充実する	20.4%	20.8%
「被差別部落地区」（同和地区）の住環境・生活環境の整備を進める	18.3%	17.9%
部落差別（同和問題）に対する誤った認識の原因となる「えせ同和行為」を排除する	31.3%	31.1%
部落差別（同和問題）について、自由な意見交換ができる環境をつくる	16.8%	21.4%
部落差別（同和問題）のことを口に出さしないで、そっとしておく	9.2%	-
特になし	3.8%	4.2%
わからない	21.6%	20.1%
その他	2.1%	3.0%
無回答	2.5%	1.5%

7. 外国人に関する人権問題について

問18 外国人に関することで、人権上に特に問題があると思われるのはどのようなことですか。(〇はいくつでも)



「言葉、生活習慣、文化などの違いから、地域社会に受け入れられにくい」(41.8%)が最も割合が高く、次いで、「わからない」(24.9%)、「病院や公共施設等に外国語による表示が少ない」(24.4%)となっています。

「その他」の意見の主な内容

・外国人技能実習生の労働環境を取り巻く問題 等

● 年代別の回答傾向（最も割合が高かった項目）

[項目] 言葉、生活習慣、文化などの違いから、地域社会に受け入れられにくい

全体①	30歳代	50歳代	40歳代	60歳代	18歳～20歳代	70歳以上
41.8%	50.0%	49.0%	44.3%	44.3%	40.0%	35.1%

- (問25・P64) 外国人の人権問題に関心がある人(全体の8.2%)とそうでない人の回答傾向(割合の高かった上位3項目)

[項目] 言葉、生活習慣、文化などの違いから、地域社会に受け入れられにくい

全体①	関心がある	関心がない	差異
41.8%	60.0%	40.2%	19.8ポイント

[項目] わからない

全体②	関心がある	関心がない	差異
24.9%	14.0%	25.9%	11.9ポイント

[項目] 病院や公共施設等に外国語による表示が少ない

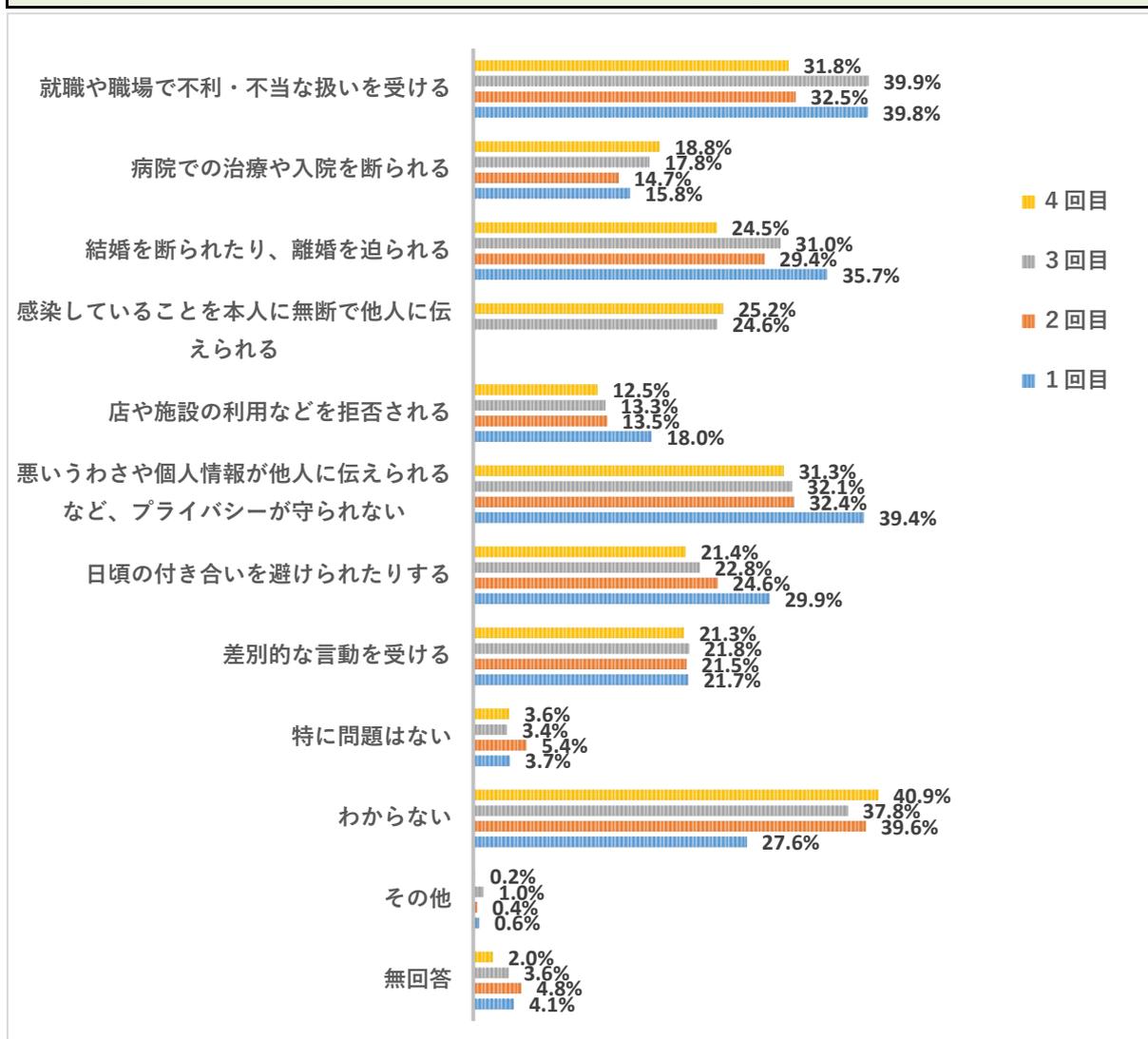
全体③	関心がある	関心がない	差異
24.4%	44.0%	22.6%	21.4ポイント

【今回の調査(4回目)と県の調査の比較】

	今回の調査	県の調査
言葉、生活習慣、文化などの違いから、地域社会に受け入れられにくい	41.8%	38.0%
アパートなどの住宅を容易に借りることができない	16.5%	16.9%
店や施設の利用、サービスの提供を拒否される	6.1%	11.0%
就職や仕事の内容、待遇などで不利・不当な扱いを受ける	20.8%	29.7%
選挙や学校への入学など制度面で制限がある	10.9%	14.1%
病院や公共施設等に外国語による表示が少ない	24.4%	28.0%
じろじろ見られたり、避けられたりする	13.0%	15.6%
国籍を理由に、周囲が結婚に反対する	8.9%	10.8%
日本人の意識に外国人に対する偏見や差別心がある	18.1%	22.9%
ヘイトスピーチを受ける	8.2%	14.5%
特に問題はない	12.0%	15.9%
わからない	24.9%	18.4%
その他	1.2%	1.2%
無回答	2.3%	3.9%

8. HIV感染者・ハンセン病患者等に関する人権問題について

問19 HIV（エイズウイルス）感染者やハンセン病患者・回復者に関することで、人権上特に問題があると思われるのはどのようなことですか。（〇はいくつでも）



「わからない」(40.9%)が最も割合が高く、次いで、「悪いうわさや個人情報が他人に伝えられるなど、プライバシーが守られない」(31.3%)「就職や職場で不利・不当な扱いを受ける」(31.0%)、となっています。

- (問25・P64) HIV感染者・ハンセン病患者等に関する人権問題に関心がある人(全体の6.8%)とそうでない人の回答傾向(割合の高かった上位3項目)

[項目] わからない

全体①	関心がある	関心がない	差異
40.9%	14.6%	42.8%	28.2ポイント

[項目] 就職や職場で不利・不当な扱いを受ける

全体②	関心がある	関心がない	差異
31.8%	73.2%	28.8%	44.4ポイント

[項目] 悪いうわさや個人情報が他人に伝えられるなど、プライバシーが守られない

全体③	関心がある	関心がない	差異
31.3%	63.4%	29.0%	34.4ポイント

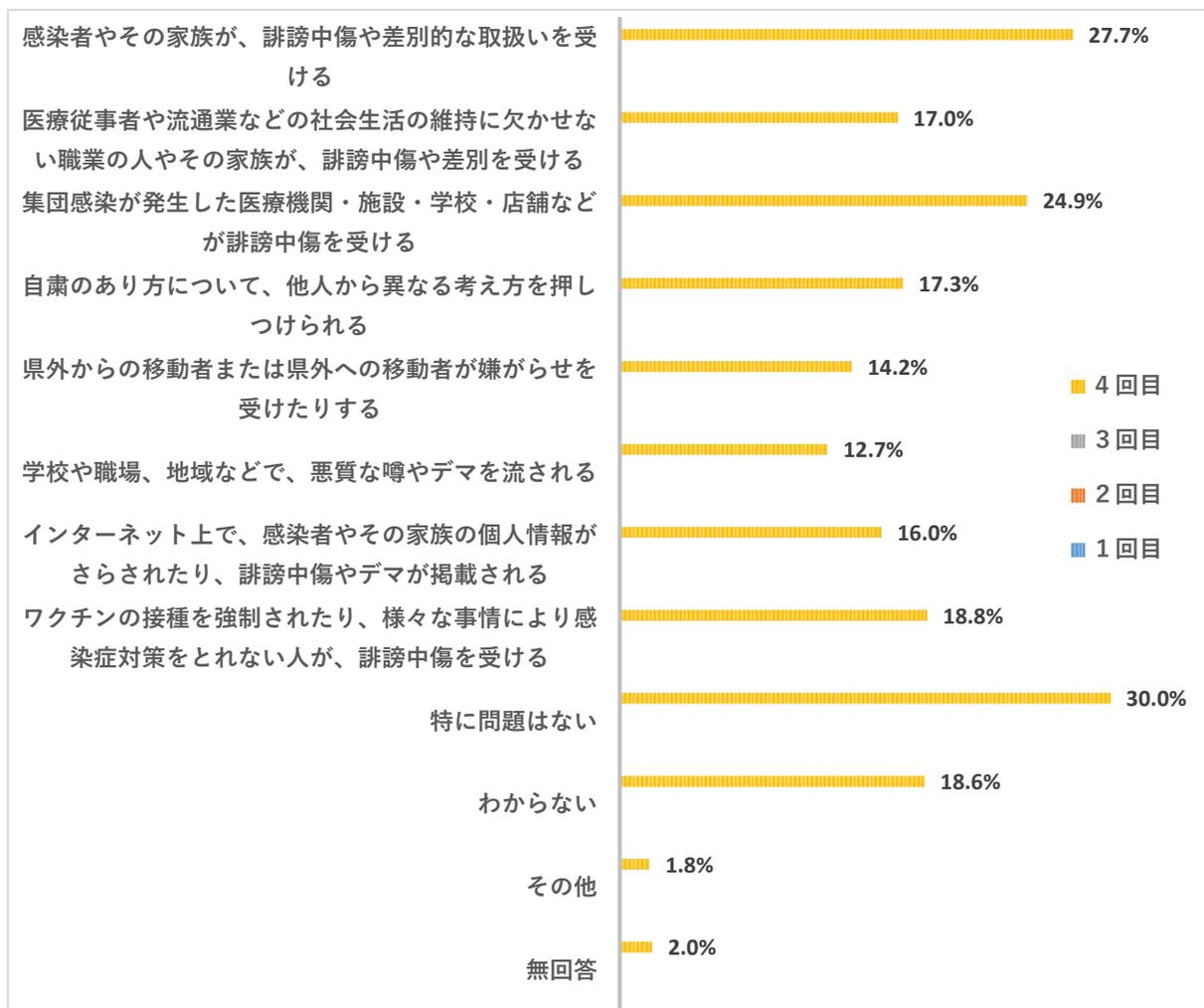
【今回の調査（４回目）と県の調査の比較】

	今回の調査	県の調査
就職や職場で不利・不当な扱いを受ける	31.0%	25.1%
病院での治療や入院を断られる	18.8%	18.6%
結婚を断られたり、離婚を迫られる	24.5%	20.5%
感染していることを本人に無断で他人に伝えられる	25.2%	24.6%
店や施設の利用などを拒否される	12.5%	16.7%
悪いうわさや個人情報为他人に伝えられるなど、プライバシーが守られない	31.3%	46.0%
日頃の付き合いを避けられたりする	21.4%	-
差別的な言動を受ける	21.3%	26.8%
特に問題はない	3.6%	9.7%
わからない	40.9%	23.0%
その他	0.2%	0.5%
無回答	2.0%	3.3%

9. 新型コロナウイルス感染症に関する人権問題について

問20 新型コロナウイルス感染症に関することで、人権上特に問題があると思われるのはどのようなことですか。(〇はいくつでも)

※この調査項目は今回新たに追加しました



「特に問題はない」(30.0%)が最も割合が高く、次いで、「感染者やその家族が、誹謗中傷や差別的な取扱いを受ける」(27.7%)、「集団感染が発生した医療機関・施設・学校・店舗などが誹謗中傷を受ける」(24.9%)となっています。

「その他」の意見の主な内容

- ・現在は理解されている
- ・初期は過剰に恐れるなどあったがそれはやむを得なかった
- ・逆に感染症対策を行ったことで誹謗中傷を受ける 等

- (問25・P64) 新型コロナウイルス感染症に関する人権問題に関心がある人(全体の7.9%)とそうでない人の回答傾向(割合の高かった上位3項目)

[項目] 特に問題はない

全体①	関心がある	関心がない	差異
30.0%	6.3%	32.0%	25.7ポイント

[項目] 感染者やその家族が、誹謗中傷や差別的な取扱いを受ける

全体②	関心がある	関心がない	差異
27.7%	60.4%	24.9%	35.5ポイント

[項目] 集団感染が発生した医療機関・施設・学校・店舗などが誹謗中傷を受ける

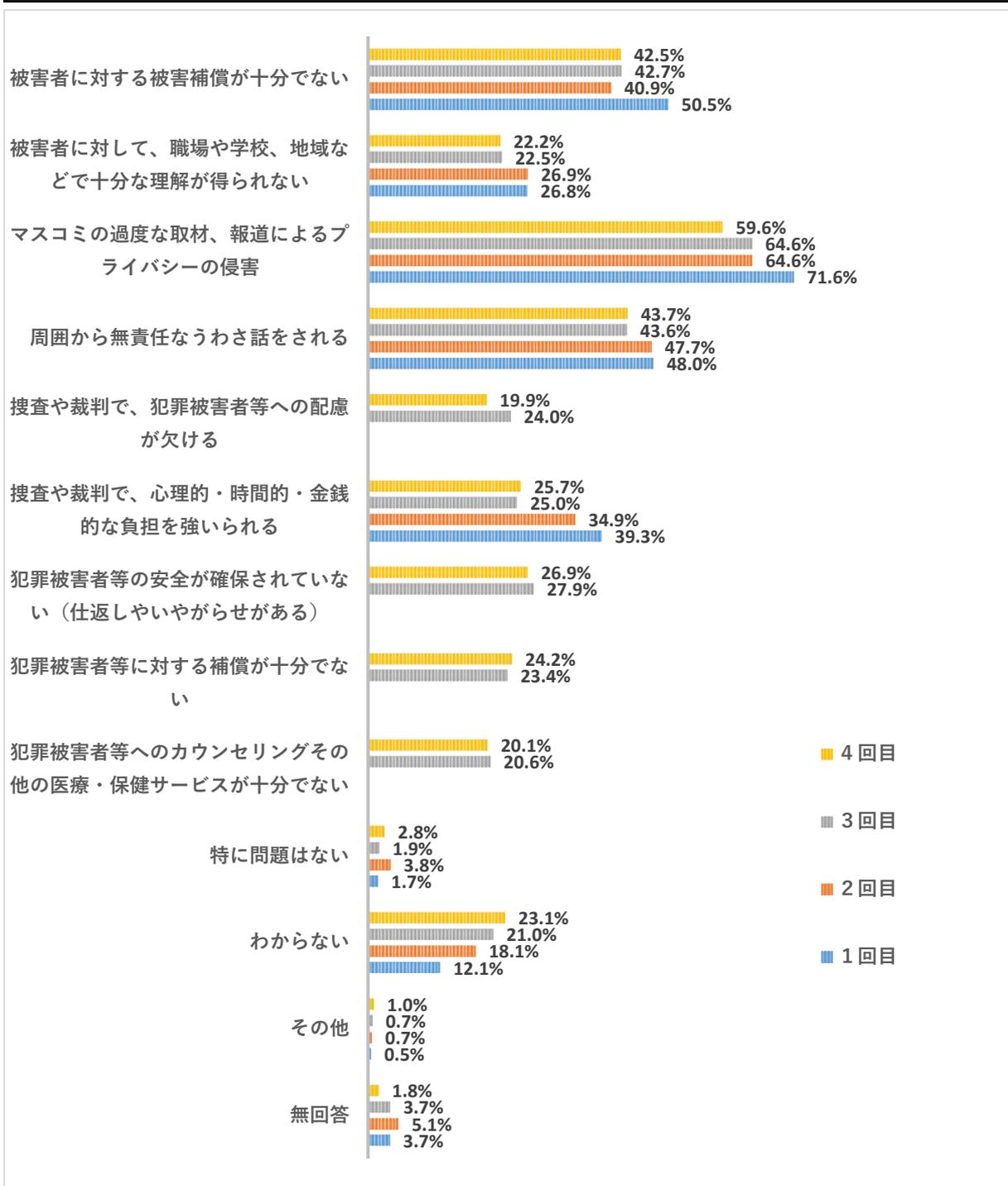
全体③	関心がある	関心がない	差異
24.9%	60.4%	21.8%	38.6%

【今回の調査（4回目）と県の調査の比較】

	今回の調査	県の調査
感染者やその家族が、誹謗中傷や差別的な取扱いを受ける	27.7%	50.5%
治療にあたる医療従事者、流通業などの社会生活の維持に欠かせない職業に就いている人やその家族が、誹謗中傷や差別的な取扱いを受ける	17.0%	39.3%
集団感染が発生した医療機関・施設・学校・店舗などが誹謗中傷を受ける	24.5%	37.8%
自粛のあり方について、他人から異なる考え方を押しつけられる	17.3%	23.0%
県外からの移動者または県外への移動者が嫌がらせを受けたりする	14.2%	30.0%
学校や職場、地域などで、悪質な噂やデマを流される	12.7%	27.6%
SNSなどのインターネット上で、感染者やその家族の個人情報がさらされたり、誹謗中傷やデマが掲載される	16.0%	29.2%
職場などでワクチンの接種を強制されたり、様々な事情により感染症対策（マスクの着用、ワクチンの接種など）をとれない人が、誹謗中傷を受ける	18.8%	26.0%
特に問題はない	30.0%	18.0%
わからない	18.6%	9.8%
その他	1.8%	2.6%
無回答	2.0%	2.9%

10. 犯罪被害者に関する人権問題

問21 犯罪被害者（犯罪によって被害を受けた人、及び家族またはその遺族）に関することで、人権上特に問題があると思われるのはどのようなことですか。（〇はいくつでも）



「マスコミの過度な取材、私生活の平穏が保てなくなったり、報道によってプライバシーの侵害を受けたりする」(53.7%)が最も割合が高く、次いで、「周囲から無責任なうわさ話をされる」(43.9%)、「被害者に対する被害補償が十分でない」(42.5%)となっています。

「その他」の意見の主な内容

- ・犯罪加害者は守られるが被害者が守られていない（実名報道など）
- ・犯罪加害者の量刑が起こした犯罪に比べ軽く感じる 等

- （問25・P64）犯罪被害者とその家族や遺族の人権に関心がある人（全体の19.3%）とそうでない人の回答傾向（割合の高かった上位3項目）

〔項目〕マスコミの過度な取材、私生活の平穩が保てなくなったり、報道によってプライバシーの侵害を受けたりする

全体①	関心がある	関心がない	差異
59.6%	83.8%	53.9%	29.9ポイント

〔項目〕周囲から無責任なうわさ話をされる

全体②	関心がある	関心がない	差異
43.7%	65.0%	38.6%	26.4ポイント

〔項目〕被害者に対する被害補償が十分でない

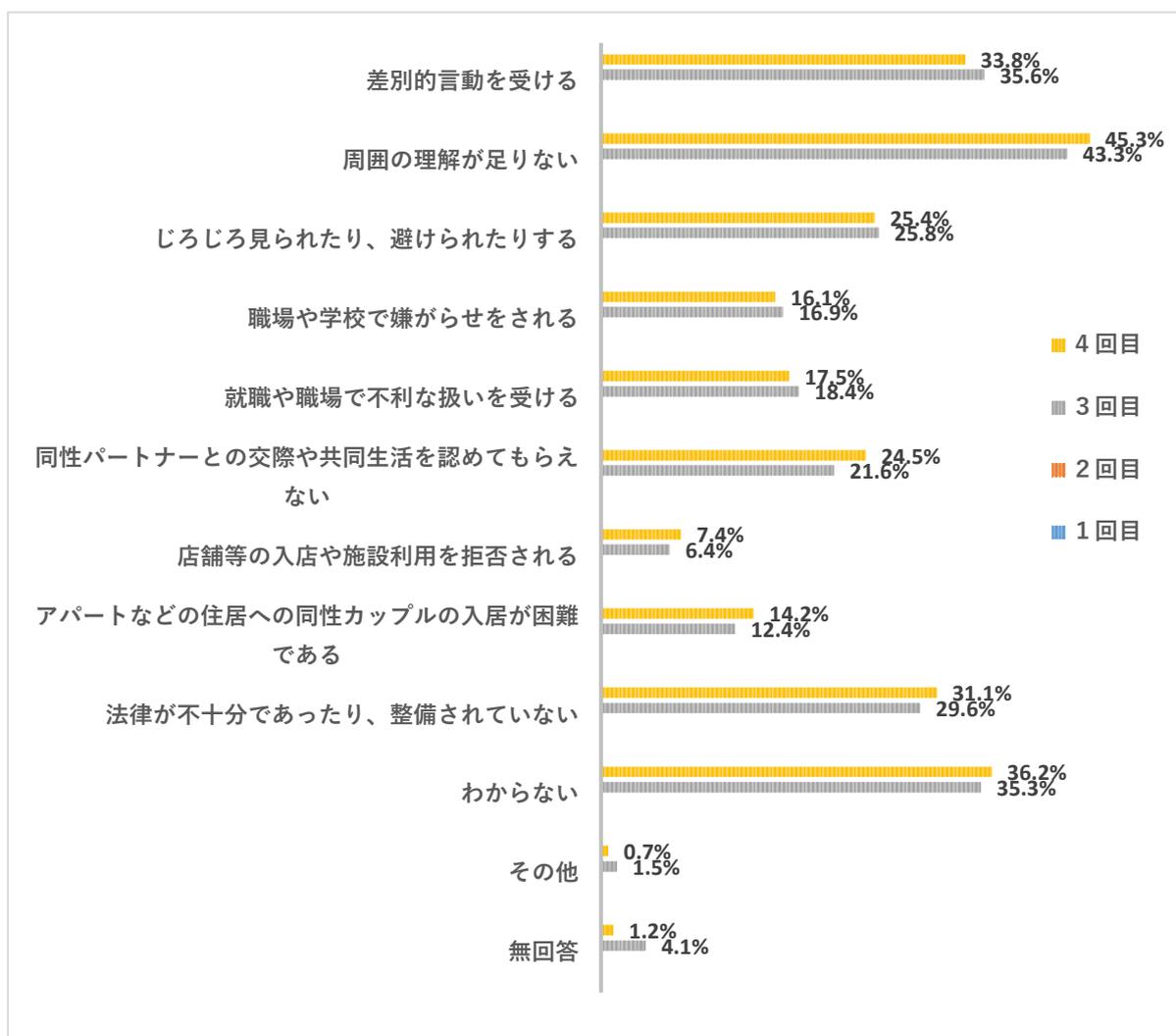
全体③	関心がある	関心がない	差異
42.5%	66.7%	36.7%	30.0ポイント

【今回の調査（4回目）と県の調査の比較】

項目	今回の調査	県の調査
被害者に対する被害補償が十分でない	42.5%	-
被害者に対して、職場や学校、地域などで十分な理解が得られない	22.2%	35.4%
マスコミの過度な取材、私生活の平穩が保てなくなったり、報道によってプライバシーの侵害を受けたりする	53.7%	60.4%
周囲から無責任なうわさ話をされる	43.9%	40.7%
捜査や裁判で、犯罪被害者等への配慮が欠ける	20.0%	22.6%
捜査や裁判で、心理的・時間的・金銭的な負担を強いられる	25.7%	25.4%
犯罪被害者等の安全が確保されていない（仕返しやいやがらせがある）	26.9%	27.6%
犯罪被害者等に対する補償（損害の回復や経済的支援）が十分でない	24.2%	24.5%
犯罪被害者等へのカウンセリングその他の医療・保健サービスが十分でない	20.1%	21.5%
特に問題はない	2.8%	8.2%
わからない	23.1%	18.3%
その他	1.0%	1.0%
無回答	1.8%	2.7%

1.1. 性的マイノリティに関する人権問題

問22 同性愛者や両性愛者など性的指向に関し、人権上問題があると思うのはどのようなことですか。(〇はいくつでも)



「周囲の理解が足りない」(45.3%)が最も割合が高く、次いで「わからない」(36.2%)、「差別的言動を受ける」(33.8%)、となっています。

「その他」の意見の主な内容

・日本や世界でも理解が進んでいない、残念。等

● 年代別の回答傾向（割合の高かった上位3項目）

[項目] 周囲の理解が足りない

全体①	18歳～20歳代	40歳代	50歳代	30歳代	60歳代	70歳以上
45.3%	60.0%	60.0%	56.1%	52.0%	46.7%	32.0%

[項目] わからない

全体②	70歳以上	60歳代	30歳代	40歳代	50歳代	18歳～20歳代
36.2%	52.8%	34.4%	28.0%	21.4%	21.4%	17.1%

[項目] 差別的言動を受ける

全体③	40歳代	50歳代	60歳代	18歳～20歳代	70歳以上	30歳代
33.8%	42.9%	42.9%	37.7%	37.1%	26.4%	24.0%

- （問25・P64）性的指向の異なる人の人権問題に関心がある人（全体の10.9%）とそうでない人の回答傾向（割合の高かった上位3項目）

〔項目〕 周囲の理解が足りない

全体①	関心がある	関心がない	差異
45.3%	77.3%	41.4%	35.9ポイント

〔項目〕 わからない

全体②	関心がある	関心がない	差異
36.2%	7.6%	39.7%	32.1ポイント

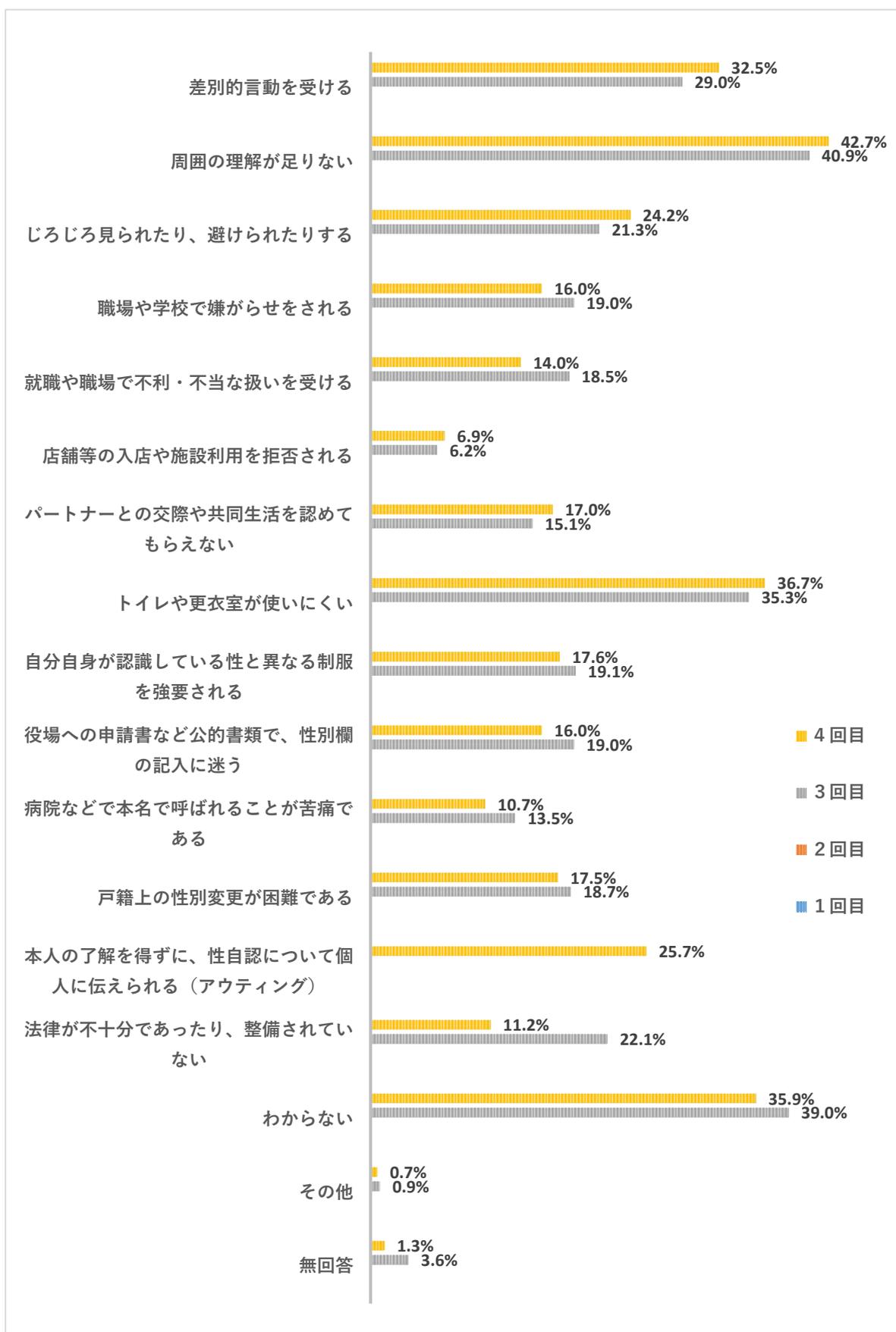
〔項目〕 差別的言動を受ける

全体③	関心がある	関心がない	差異
33.8%	56.1%	31.1%	25.0ポイント

【今回の調査（4回目）と県の調査の比較】

項目	今回の調査	県の調査
差別的言動を受ける	33.8%	37.5%
周囲の理解が足りない	45.3%	45.1%
じろじろ見られたり、避けられたりする	25.4%	27.0%
職場や学校で嫌がらせをされる	16.1%	22.6%
就職や職場で不利な扱いを受ける	17.5%	22.9%
同性パートナーとの交際や共同生活を認めてもらえない	24.5%	24.8%
店舗等の入店や施設利用を拒否される	7.4%	13.2%
アパートなどの住居への同性カップルの入居が困難である	14.2%	16.3%
法律が不十分であったり、整備されていない	31.1%	-
わからない	36.2%	34.3%
その他	0.7%	1.7%
無回答	1.2%	4.4%

問23 トランスジェンダーなど性自認に関し、人権上問題があると思うのはどのようなことですか。(〇はいくつでも)



「周囲の理解が足りない」(42.7%)が最も割合が高く、次いで「トイレや更衣室が使いにくい」(36.7%)「わからない」(35.9%)、となっています。

● 年代別の回答傾向（割合の高かった上位3項目）

〔項目〕 周囲の理解が足りない

全体①	18歳～20歳代	40歳代	50歳代	60歳代	30歳代	70歳以上
42.7%	60.0%	57.1%	53.1%	46.7%	38.0%	29.9%

〔項目〕 トイレや更衣室が使いにくい

全体②	18歳～20歳代	40歳代	30歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
36.7%	51.4%	45.7%	44.0%	41.8%	38.5%	26.8%

〔項目〕 わからない

全体③	70歳以上	60歳代	30歳代	50歳代	40歳代	18歳～20歳代
35.9%	53.2%	32.8%	24.0%	23.5%	20.0%	17.1%

● （問25・P64）トランスジェンダーなど性自認に関する人権問題に関心がある人（全体の15.0%）とそうでない人の回答傾向（割合の高かった上位3項目）

〔項目〕 周囲の理解が足りない

全体①	関心がある	関心がない	差異
42.7%	84.6%	35.3%	49.3 ㊦

〔項目〕 トイレや更衣室が使いにくい

全体②	関心がある	関心がない	差異
36.7%	68.1%	31.2%	36.9 ㊦

項目〕 わからない

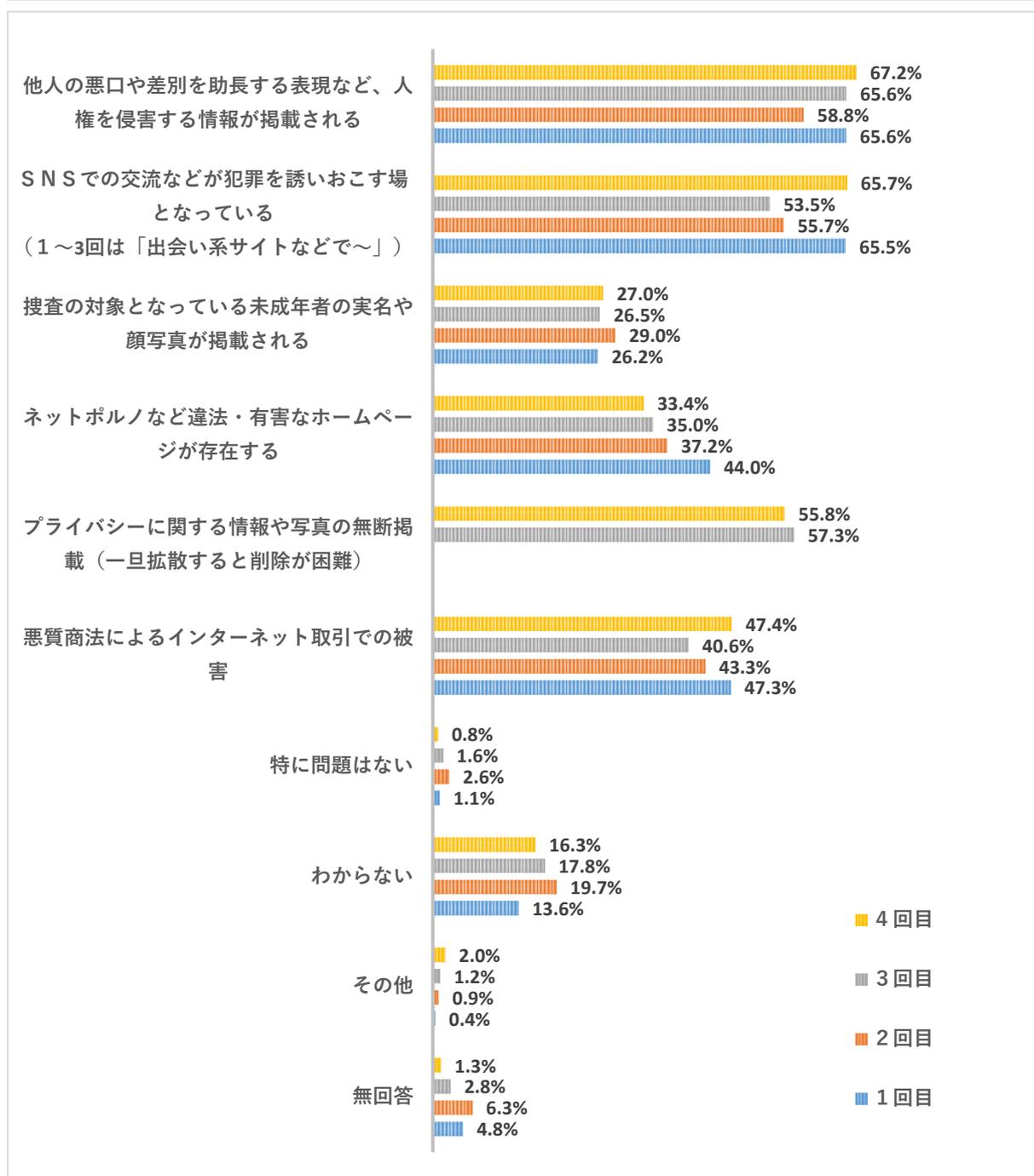
全体③	関心がある	関心がない	差異
35.9%	3.30%	41.7%	38.4 ㊦

【今回の調査（4回目）と県の調査の比較】

項目	今回の調査	県の調査
差別的言動を受ける	32.5%	38.5%
周囲の理解が足りない	42.7%	44.6%
じろじろ見られたり、避けられたりする	24.2%	25.1%
職場や学校で嫌がらせをされる	16.0%	24.0%
就職や職場で不利・不当な扱いを受ける	14.0%	22.7%
店舗等の入店や施設利用を拒否される	7.0%	12.6%
パートナーとの交際や共同生活を認めてもらえない	17.0%	21.2%
トイレや更衣室が使いにくい	36.7%	35.9%
自分自身が認識している性と異なる制服を強要される	17.6%	23.0%
役場への申請書など公的書類で、性別欄の記入に迷う	16.0%	21.1%
病院などで本名で呼ばれることが苦痛である	10.7%	13.8%
戸籍上の性別変更が困難である	17.5%	19.8%
法律が不十分であったり、整備されていない	25.7%	-
本人の了解を得ずに、性自認について個人に伝えられる	11.2%	21.5%
わからない	35.9%	33.3%
その他	0.7%	0.9%
無回答	1.3%	4.6%

12. インターネットによる人権侵害の問題について

問24 インターネットを利用するうえで、人権上どのような問題が起きていると思いますか。(〇はいくつでも)



「他人の悪口や差別を助長する表現など、人権を侵害する情報が掲載される」(67.2%)が最も割合が高く、次いで「SNSでの交流などが犯罪を誘い起こす場となっている」(65.7%)となっており、これらは6割を超えています。次いで「プライバシーに関する情報や写真が無断で掲載されており、いったん拡散してしまうと削除が困難である」(55.8%)となっています。

「その他」の意見の主な内容

- ・法的な対応が遅れている、問題対応も難しい
- ・闇バイトの勧誘が行われている
- ・インターネットをしていない 等

- （問25・P64）インターネットによる人権侵害に問題に関心がある人（全体の37.7%）とそうでない人の回答傾向（割合の高かった上位3項目）

〔項目〕 他人の悪口や差別を助長する表現など、人権を侵害する情報が掲載される

全体①	関心がある	関心がない	差異
67.2%	84.7%	56.6%	28.1ポイント

〔項目〕 SNSでの交流などが犯罪を誘いおこす場となっている

全体②	関心がある	関心がない	差異
65.7%	84.7%	54.2%	30.5ポイント

〔項目〕 プライバシーに関する情報や写真が無断で掲載されており、一旦拡散してしまうと削除が困難である

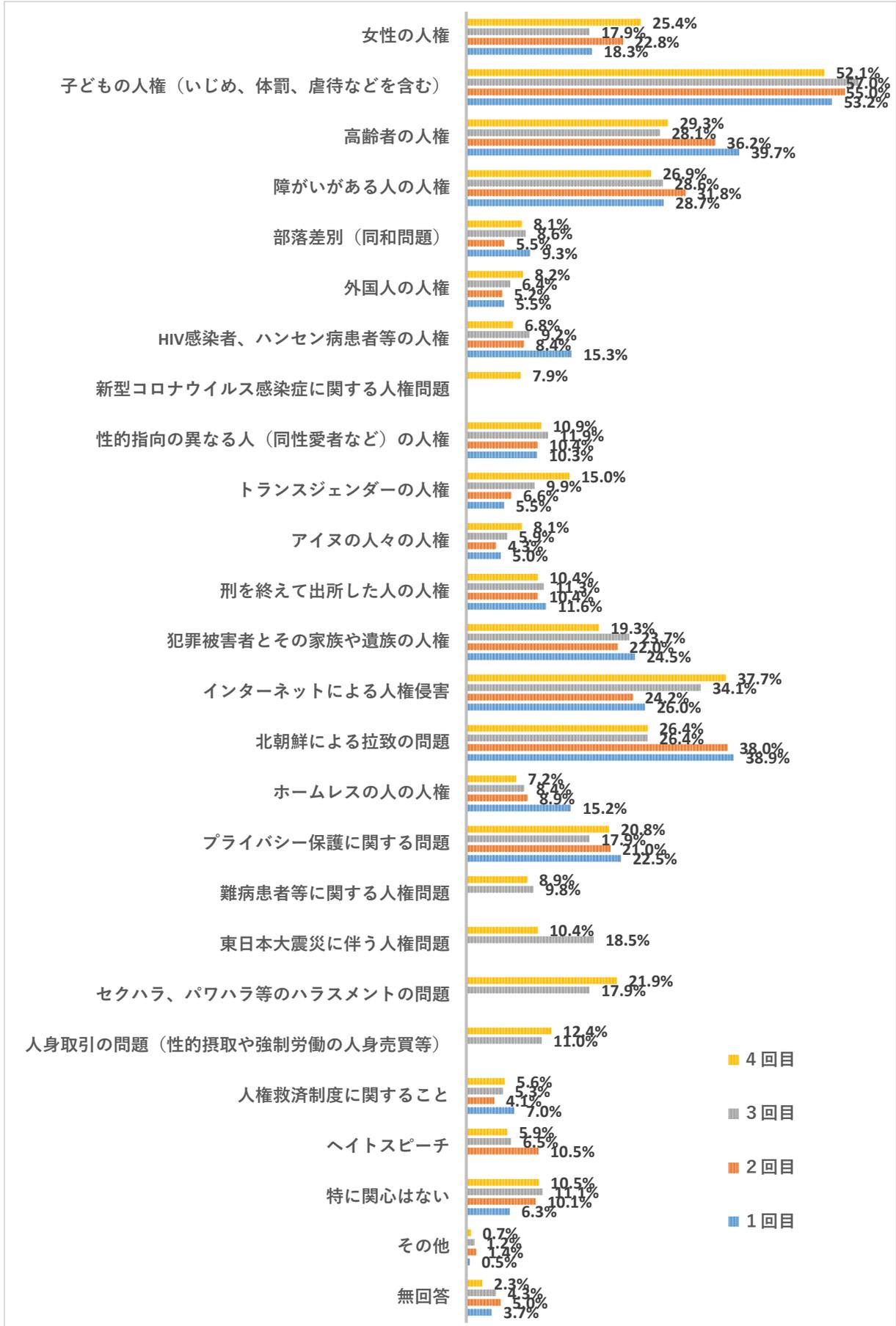
全体③	関心がある	関心がない	差異
55.8%	78.6%	42.1%	36.5ポイント

【今回の調査（4回目）と県の調査の比較】

項目	今回の調査	県の調査
他人の悪口や差別を助長する表現など、人権を侵害する情報が掲載される	67.2%	64.9%
SNSでの交流など犯罪を誘いおこす場となっている	65.7%	52.1%
捜査の対象となっている未成年者の実名や顔写真が掲載される	27.0%	25.7%
ネットポルノなど違法・有害なホームページが存在する	33.4%	33.3%
プライバシーに関する情報や写真が無断で掲載されており、一旦拡散してしまうと削除が困難である	55.8%	53.8%
悪質商法によるインターネット取引での被害	47.4%	-
特に問題はない	0.8%	5.9%
わからない	16.3%	14.5%
その他	2.0%	0.5%
無回答	1.3%	3.5%

13. 人権全般・啓発活動について

問25 社会には人権に関わるさまざまな問題がありますが、現在、あなたが関心を持っているものはどの問題ですか。(〇はいくつでも)



「子どもの人権（いじめ、体罰、虐待などを含む）」（52.1%）が最も割合が高く、次いで、「インターネットによる人権侵害」（37.7%）、「高齢者の人権」（29.3%）「障がいのある人の人権」（26.9%）、となっています。

「その他」の意見の主な内容

- ・職場での差別
- ・当事者の方は大変だが身近に感じない
- ・日々の生活で精一杯で人権について関心を持つ余裕がない 等

● 年代別の回答傾向（割合の高かった上位3項目）

〔項目〕子どもの人権

全体①	18歳～20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
52.1%	65.7%	56.0%	54.3%	54.1%	51.6%	48.1%

〔項目〕インターネットによる人権侵害

全体②	50歳代	60歳代	18歳～20歳代	30歳代	40歳代	70歳以上
37.7%	53.1%	40.2%	40.0%	40.0%	37.1%	29.0%

〔項目〕高齢者の人権

全体③	70歳以上	60歳代	50歳代	18歳～20歳代	40歳代	30歳代
29.3%	35.9%	32.8%	24.5%	22.9%	22.9%	14.0%

● 年代別で関心のある人権問題の差異がみられる（年代別で割合の高かった上位3項目）

* 各年代の横の囲み数字は、年代別の平均回答項目数（特に関心はない、無回答・無効は除く）

<18歳～20歳代> **4.1項目**

①子どもの人権（65.7%）【全体① 52.1%】

②女性の人権（51.4%）【全体⑥ 25.4%】

③インターネットによる人権侵害（40.0%）【全体② 37.7%】

<30歳代> **3.2項目**

①子どもの人権（56.0%）【全体① 52.1%】

②インターネットによる人権侵害（40.0%）【全体② 37.7%】

②女性の人権（30.0%）【全体⑥ 25.4%】

<40歳代> **4.1項目**

①子どもの人権（54.3%）【全体① 52.1%】

②女性の人権（38.6%）【全体⑥ 25.4%】

②インターネットによる人権侵害（37.1%）【全体② 37.7%】

<50歳代> **4.3項目**

①子どもの人権（54.1%）【全体① 52.1%】

②インターネットによる人権侵害（53.1%）【全体② 37.7%】

③セクハラ、パワハラ等のハラスメント（32.7%）【全体⑦ 28.6%】

<60歳代> **4.1項目**

①子どもの人権（51.6%）【全体① 52.1%】

②インターネットによる人権侵害（40.2%）【全体② 37.7%】

③高齢者の人権（32.8%）【全体④ 28.1%】

<70歳以上> **3.6項目**

①子どもの人権（48.1%）【全体① 52.1%】

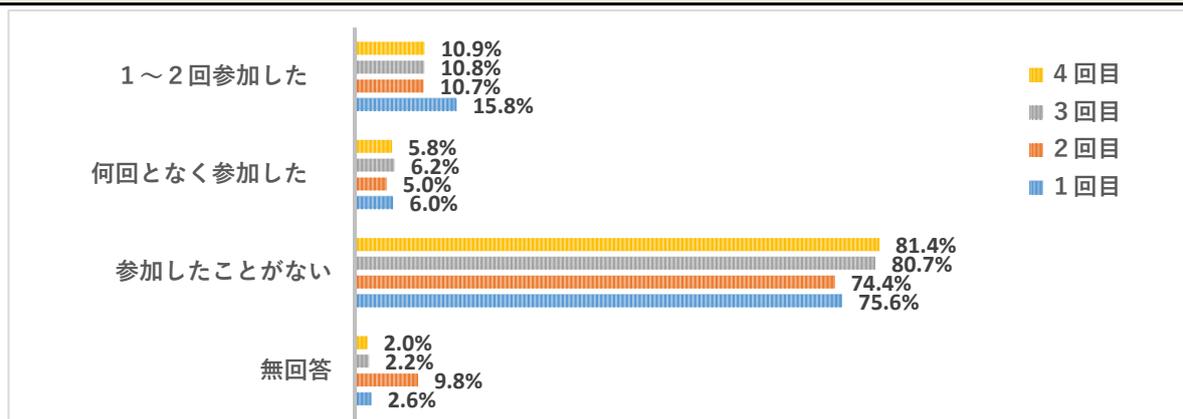
②高齢者の人権（35.9%）【全体④ 28.1%】

③北朝鮮による拉致問題（35.5%）【全体⑤ 26.4%】

【今回の調査（4回目）と県の調査の比較】

項目	今回の調査	県の調査
女性の人権	25.4%	32.8%
子どもの人権（いじめ、体罰、虐待などを含む）	52.1%	65.6%
高齢者の人権	29.3%	32.8%
障がいのある人の人権	26.9%	40.5%
部落差別（同和問題）	8.1%	6.9%
外国人の人権	8.2%	12.2%
HIV（エイズウィルス）感染者、ハンセン病患者等の人権	6.8%	6.4%
新型コロナウイルス感染症に感染症に関する人権	7.9%	23.6%
同性愛者（ゲイ、レズビアン）や両性愛者（バイセクシャル）等の人権	10.9%	14.8%
トランスジェンダー（「身体的な性」と「こころの性」が一致しない人）の人権	15.0%	19.3%
アイヌの人々の人権	8.1%	4.8%
刑を終えて出所した人の人権	10.4%	9.2%
犯罪被害者とその家族や遺族の人権	19.3%	10.9%
インターネットによる人権侵害	37.7%	35.2%
北朝鮮による拉致の問題	26.4%	16.6%
ホームレスの人の人権	7.2%	7.6%
プライバシー保護に関する問題	20.8%	20.9%
難病患者等に関する人権問題	8.9%	9.1%
東日本大震災に伴う人権問題（福島原発事故に伴う人権問題を含む）	10.4%	6.9%
セクシャル・ハラスメント、パワー・ハラスメント等のハラスメントの問題	21.9%	32.3%
人身取引の問題（性的摂取や強制労働などを目的とした人身売買など）	12.4%	10.4%
人権救済制度に関すること	5.6%	-
ヘイトスピーチ	5.9%	-
特に関心はない	10.5%	7.4%
その他	0.7%	2.0%
無回答	2.3%	2.5%

問26 延岡市では、地域、職場、団体などで人権問題に関する研修会や講演会、出前講座などを行っていますが、参加されたことがありますか。（○は1つ）



「1～2回参加した」(10.9%)と「何回となく参加した」(5.8%)をあわせると、参加したことのある人の割合は16.7%となっています。また、「参加したことがない」は81.4%となっています。

● 職業別の回答傾向

[項目] 1～2回参加した

全体②	自営業	事業所従業員	公務員	教員	社・医・健	家事に従事	学生	無職
10.9%	6.0%	5.3%	25.9%	45.5%	8.7%	14.3%	40.0%	11.6%

[項目] 何回となく参加した

全体③	自営業	事業所従業員	公務員	教員	社・医・健	家事に従事	学生	無職
5.8%	4.8%	3.0%	37.0%	0.0%	8.7%	4.8%	0.0%	4.4%

[項目] 参加したことがない

全体①	自営業	事業所従業員	公務員	教員	社・医・健	家事に従事	学生	無職
81.4%	85.5%	91.7%	37.0%	54.5%	82.6%	77.8%	60.0%	80.1%

● 年代別の回答傾向

[項目] 1～2回参加した

全体②	18歳～20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
10.9%	20.0%	8.0%	5.7%	7.1%	12.3%	12.6%

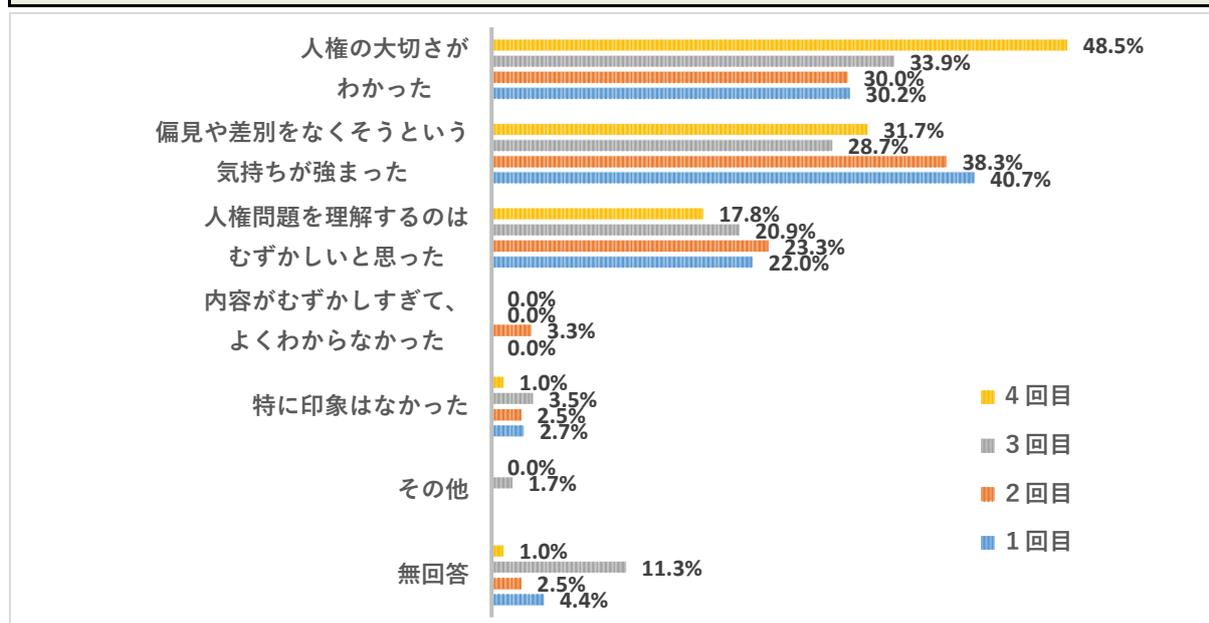
[項目] 何回となく参加した

全体③	18歳～20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
5.8%	0.0%	2.0%	5.7%	10.2%	6.6%	5.2%

[項目] 参加したことがない

全体①	18歳～20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
81.4%	80.0%	90.0%	88.6%	82.7%	79.5%	77.9%

問27 問26で「1または2」と答えた方におたずねします。研修会や講演会に参加して、どのような印象を受けたか、あなたの印象に最も近いものを選んでください。(○は1つ)



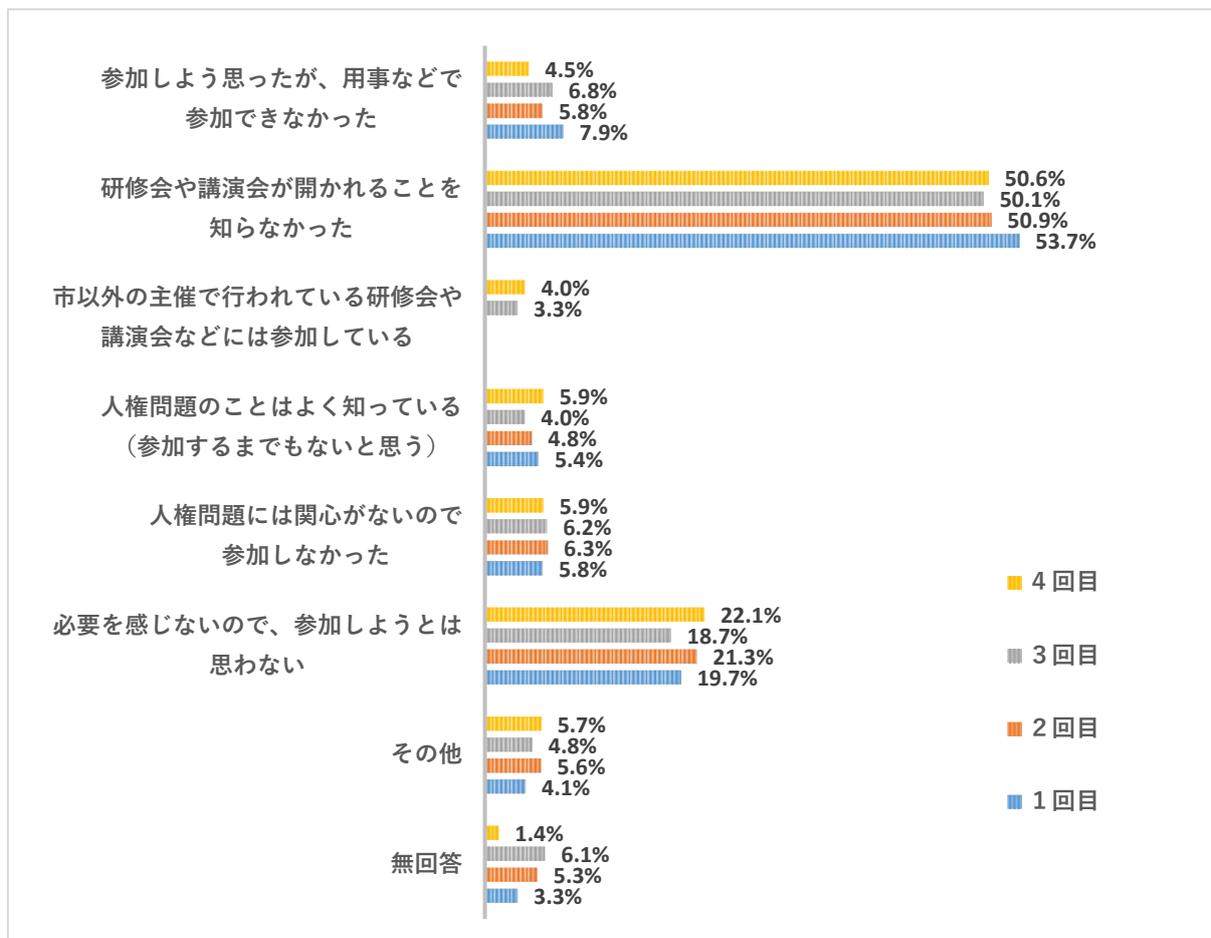
「人権の大切さがわかった」(48.5%)が最も割合が高く、次いで「差別や偏見をなくそうという気持ちが強まった」(31.7%)となっています。

● 年代別の傾向（最も割合の高かった項目）

〔項目〕 人権の大切さがわかった

全体①	18歳～20歳代	60歳代	70歳以上	40歳代	30歳代	50歳代
48.5%	85.7%	52.2%	51.2%	50.0%	40.0%	23.5%

問28 問26で「3」と答えた方におたずねします。参加しなかったのはなぜですか。（〇は1つ）



「研修会や講演会が開かれることを知らなかった」（50.6%）が最も割合が高く、次いで「必要を感じないので、参加しようとは思わない」（22.1%）となっています。

「その他」の意見の主な内容

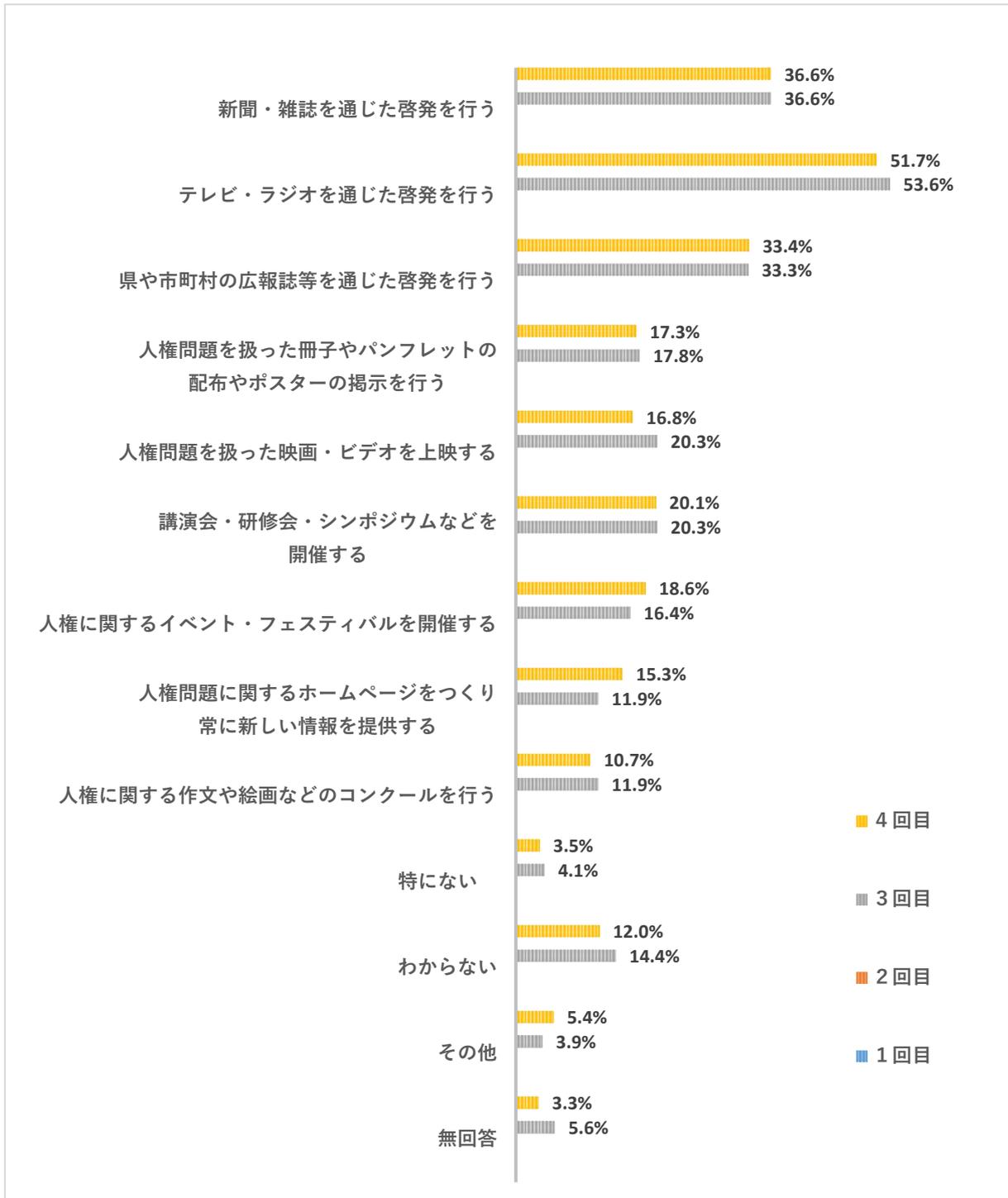
- ・家庭や仕事の都合（引っ越したばかり、仕事が忙しい 等）
- ・高齢のため
- ・関心・興味がない 等

● 年代別の傾向（最も割合の高かった項目）

〔項目〕 研修会や講演会が開かれることを知らなかった

全体①	18歳～20歳代	40歳代	30歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
50.6%	67.9%	62.9%	60.0%	56.8%	44.3%	42.2%

問29 人権を尊重する意識を高める啓発手法として、どのようなものが効果があると思いますか。(〇はいくつでも)



「テレビ・ラジオを通じた啓発を行う」(51.7%)が最も割合が高く、次いで「新聞・雑誌を通じた啓発を行う」(36.6%)、「県や市町村の広報誌等を通じた啓発を行う」(33.4%)となっています。

「その他」の意見の主な内容

- ・学校の教育（幼いころからの教育 等）
- ・家庭や企業での教育
- ・YouTubeやSNSなどのインターネットの活用
- ・法整備を行う 等

- （問26・P66）講演会や研修会に何回も参加した人（全体の5.8%）と1～2回参加した人（全体の10.9%）と参加したことがない（全体の81.4%）の回答傾向（割合の高かった上位5項目）

〔項目〕 テレビ・ラジオを通じた啓発を行う

全体①	何回となく参加	1・2回参加	参加なし
51.7%	54.3%	60.6%	51.6%

〔項目〕 新聞・雑誌を通じた啓発を行う

全体②	何回となく参加	1・2回参加	参加なし
36.6%	42.9%	47.0%	35.6%

〔項目〕 県や市町村の広報誌等を通じた啓発を行う

全体③	何回となく参加	1・2回参加	参加なし
33.4%	40.0%	51.5%	31.2%

〔項目〕 講演会・研修会・シンポジウムなどを開催する

全体④	何回となく参加	1・2回参加	参加なし
20.1%	45.7%	34.8%	16.8%

〔項目〕 人権に関するイベント・フェスティバルを開催する

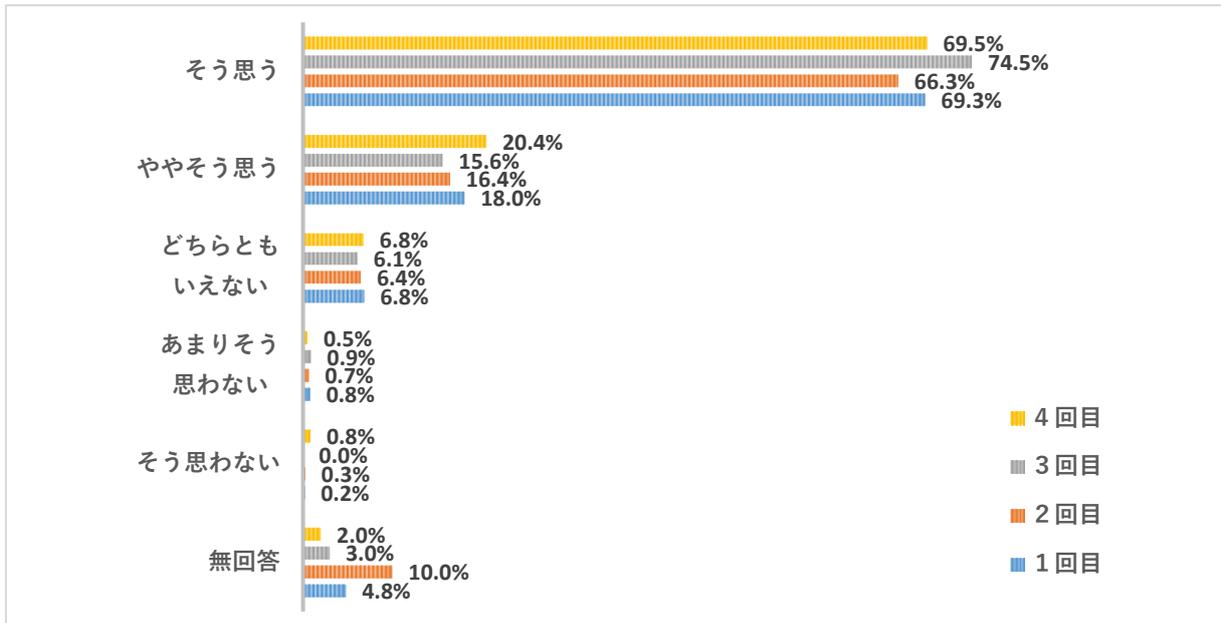
全体④	何回となく参加	1・2回参加	参加なし
18.6%	28.6%	19.7%	18.2%

【今回の調査（4回目）と県の調査の比較】

項目	今回の調査	県の調査
新聞・雑誌を通じた啓発を行う	36.6%	41.5%
テレビ・ラジオを通じた啓発を行う	51.7%	63.1%
県や市町村の広報誌等を通じた啓発を行う	33.4%	36.1%
人権問題を扱った冊子やパンフレットの配布やポスターの掲示を行う	17.3%	18.8%
人権問題を扱った映画・ビデオを上映する	16.8%	17.5%
講演会・研修会・シンポジウムなどを開催する	20.1%	15.6%
人権に関するイベント・フェスティバルを開催する	18.6%	15.8%
人権問題に関するホームページをつくり常に新しい情報を提供する	15.3%	31.6%
人権に関する作文や絵画などのコンクールを行う	10.7%	10.7%
障がいのある人や高齢者などと触れあいの機会を設ける	-	24.1%
特になし	3.5%	3.5%
わからない	12.0%	9.8%
その他	5.4%	3.0%
無回答	3.3%	3.7%

問30 人権に関する次の①～⑧について、あなたのお考えに最も近いのはどれですか。(〇はそれぞれ1つ)

【①どんな理由があっても差別はいけない】

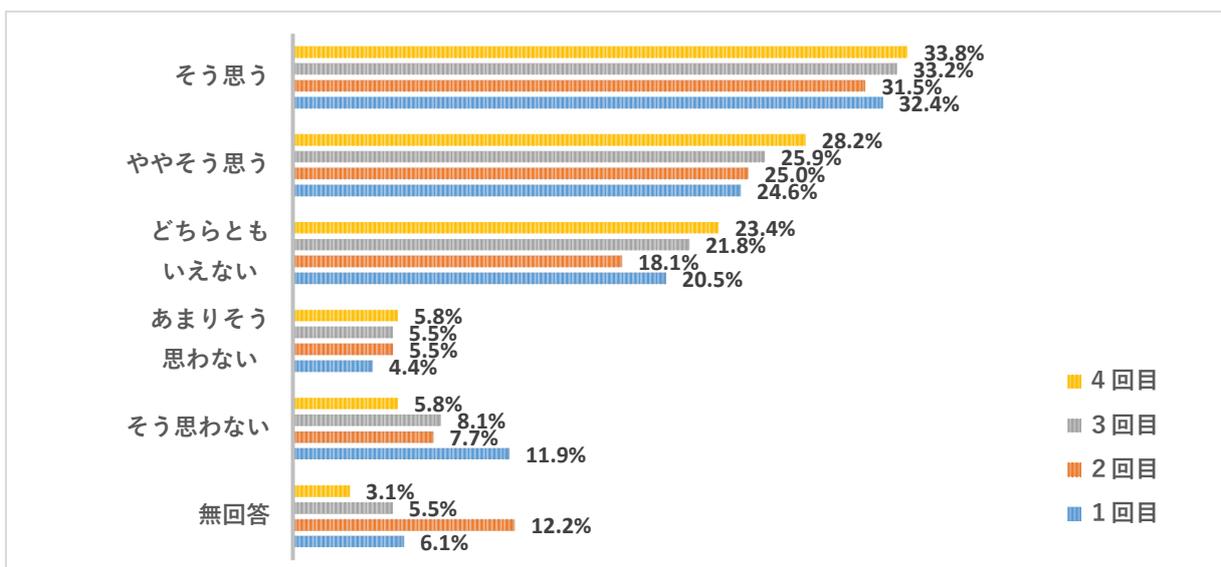


「そう思う」(69.5%)と「ややそう思う」(20.4%)をあわせると、ほぼ9割(89.9%)の人がどんな理由があっても差別はいけないと思っています。

● 「そう思う」の年代別の回答傾向

全体①	70歳以上	60歳代	50歳代	18歳～20歳代	40歳代	30歳代
69.5%	76.6%	70.5%	69.4%	62.9%	60.0%	54.0%

【②差別は人間の本性から生じるものだ】

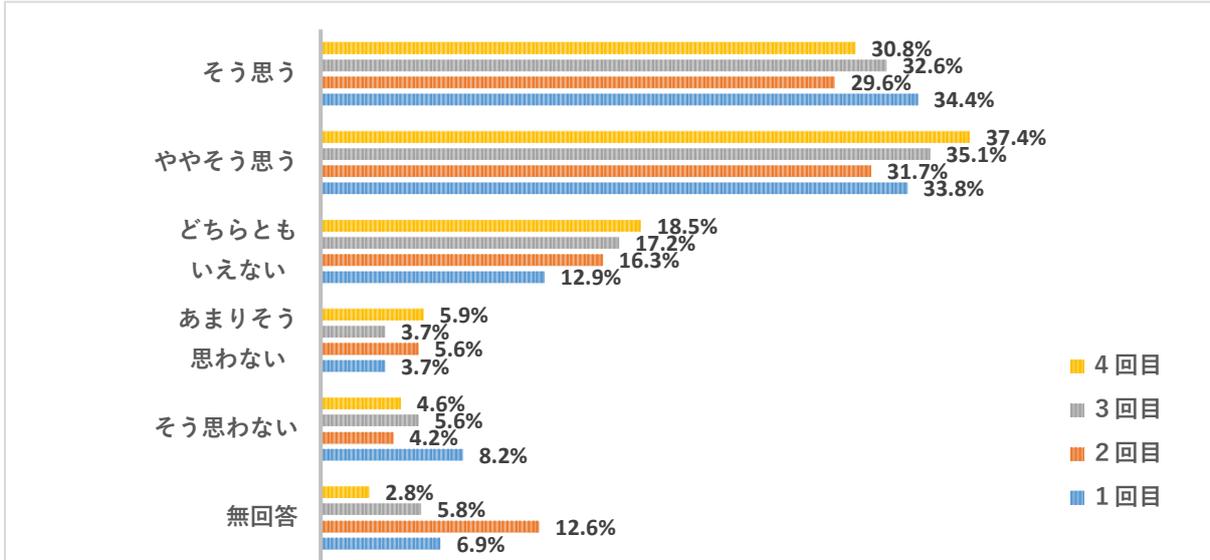


「そう思う」(33.8%)と「ややそう思う」(28.2%)をあわせると、6割強(62.0%)の人が差別は人間の本性から生じるものだと思っています。

● 「そう思う」の年代別の回答傾向

全体①	18歳～20歳代	30歳代	50歳代	70歳以上	40歳代	60歳代
33.8%	48.6%	40.0%	35.7%	32.5%	31.4%	29.5%

【③人権や差別問題について、ホンネとタテマエがある】

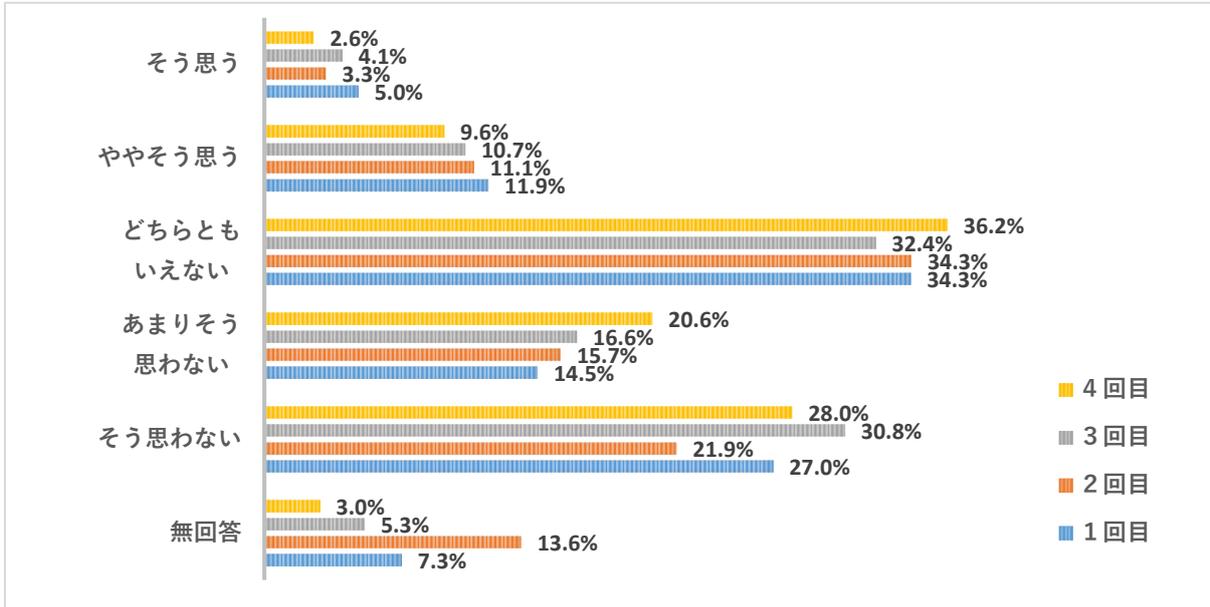


「そう思う」(30.8%)と「ややそう思う」(37.4%)をあわせると、7割弱(68.2%)の人が人権や差別問題について、ホンネとタテマエがあると思っています。

● 「そう思う」の年代別の回答傾向

全体②	18歳~20歳代	40歳代	30歳代	50歳代	70歳以上	60歳代
30.8%	54.3%	35.7%	34.0%	31.6%	27.3%	26.2%

【④差別は、差別される人(側)に原因がある】

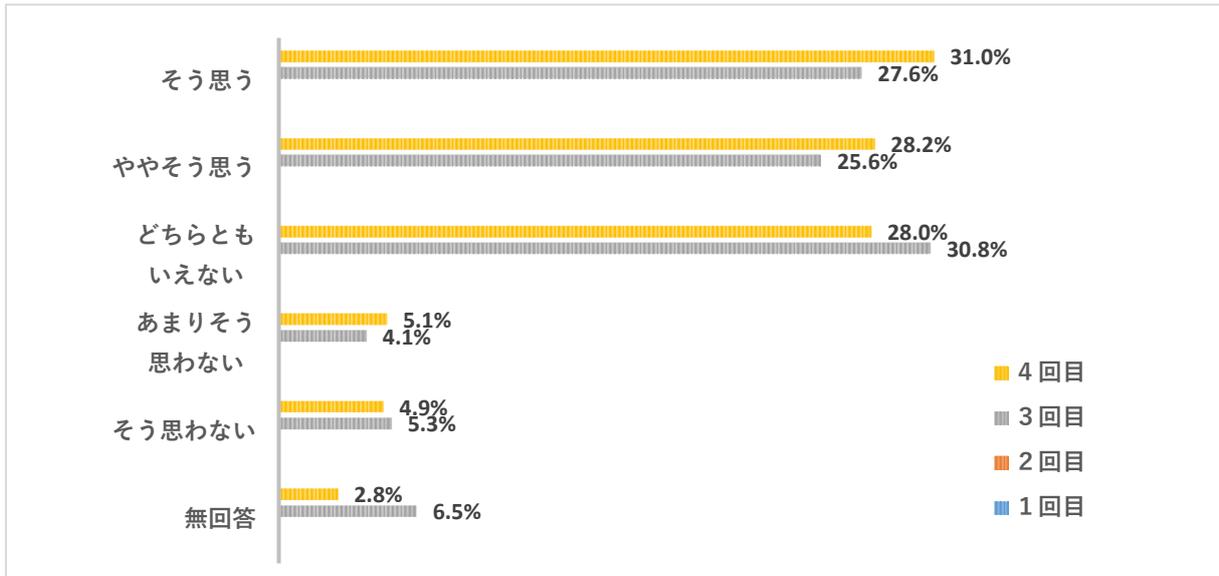


「そう思う」(2.6%)と「ややそう思う」(9.6%)をあわせると、12.2%の人が差別は、差別される人(側)に原因があると思っています。一方、「そう思わない」(28.0%)と「あまりそう思わない」(20.6%)をあわせると5割弱(48.6%)の人が否定的に思っており、前回調査から、1.2ポイントと微増しています。

● 「そう思わない」の年代別の回答傾向

全体②	30歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	40歳代	18歳~20歳代
28.0%	38.0%	30.6%	29.5%	27.3%	22.9%	17.1%

【⑤差別は、差別する人(側)に原因がある】

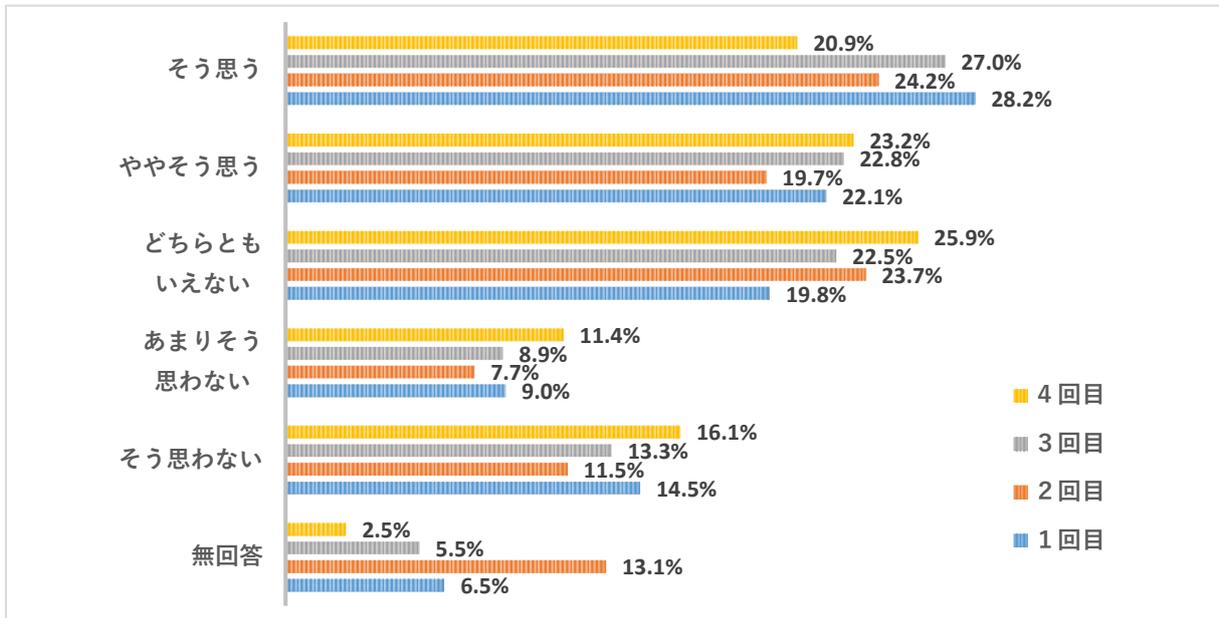


「そう思う」(31.0%)と「ややそう思う」(28.2%)をあわせると、ほぼ6割(59.2%)の人が差別は、差別する人(側)に原因があると思っています。一方、「そう思わない」(4.9%)と「あまりそう思わない」(5.1%)をあわせると1割(10.0%)の人が否定的にしています。

● 「そう思う」の年代別の回答傾向

全体②	18歳~20歳代	30歳代	50歳代	70歳以上	60歳代	40歳代
31.0%	45.7%	40.0%	32.7%	30.3%	28.7%	21.4%

【⑥差別、差別というから、いつまでも差別がなくなる】

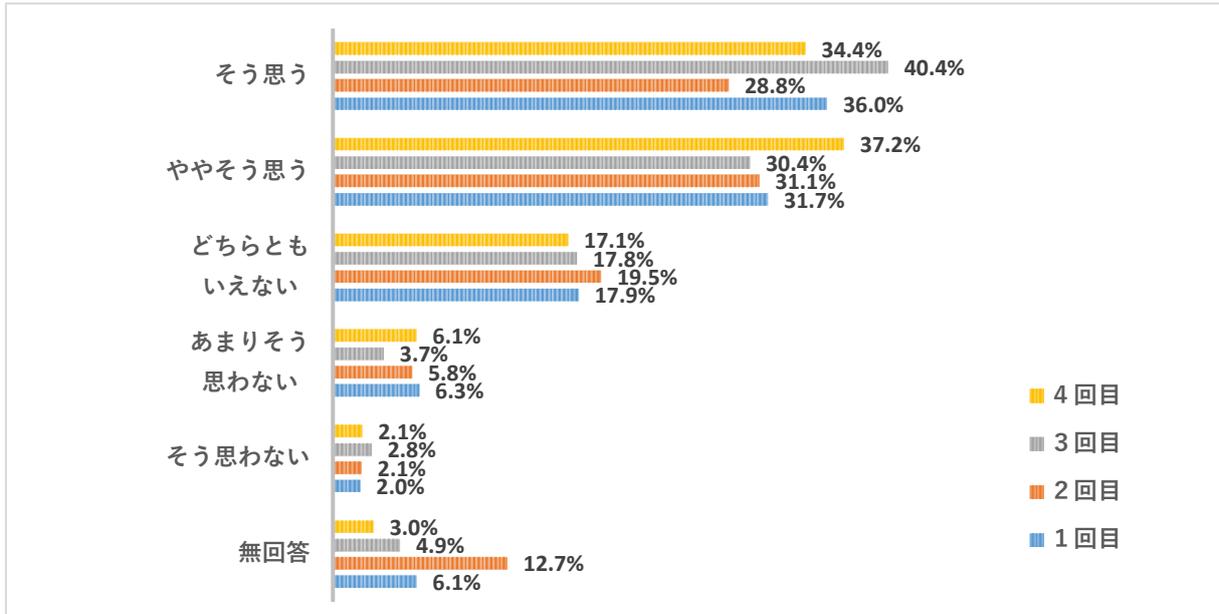


「そう思う」(20.9%)と「ややそう思う」(23.2%)をあわせると、4割強(44.1%)の人が差別、差別というから、いつまでも差別がなくなると思っています。一方、「そう思わない」(16.1%)と「あまりそう思わない」(11.4%)をあわせると3割弱(27.5%)の人が否定的に思っており、前回と比較すると、5.3ポイント高くなっています。

● 「そう思う」の年代別の回答傾向

全体③	70歳以上	18歳~20歳代	30歳代	40歳代	60歳代	50歳代
20.9%	29.0%	25.7%	16.0%	15.7%	14.8%	14.3%

【⑦人権問題は大切なので、様々な人権問題に関心を持ちたい】

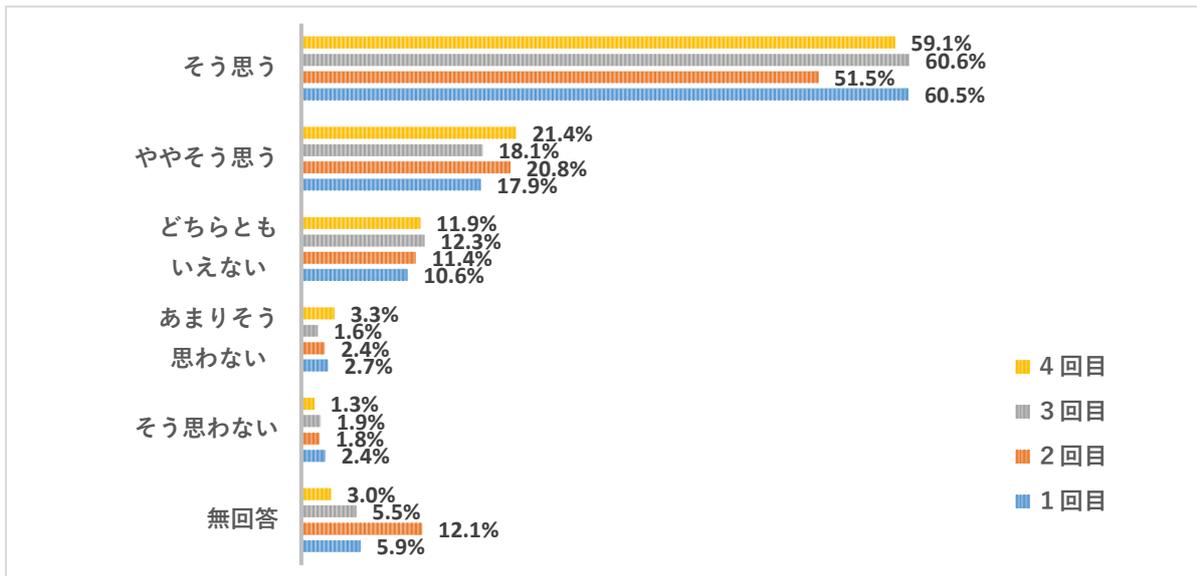


「そう思う」(34.4%)と「ややそう思う」(37.2%)をあわせると、7割強(71.6%)の人が人権問題は大切なので、様々な人権問題に関心を持ちたいと思っています。一方、「そう思わない」(2.2%)と「あまりそう思わない」(6.1%)をあわせると8.3%の人が否定的に思っています。

● 「そう思う」の年代別の回答傾向

全体②	70歳以上	60歳代	18歳~20歳代	50歳代	30歳代	40歳代
34.4%	40.7%	34.4%	34.3%	32.7%	26.0%	22.9%

【⑧人権は一部の人の問題ではなく、すべて市民の問題である】



「そう思う」(59.1%)と「ややそう思う」(21.4%)をあわせると、8割(80.5%)の人が人権は一部の人の問題でなく、すべての市民の問題であると思っています。一方、「そう思わない」(1.3%)と「あまりそう思わない」(3.3%)をあわせると4.6%の人が否定的に思っています。

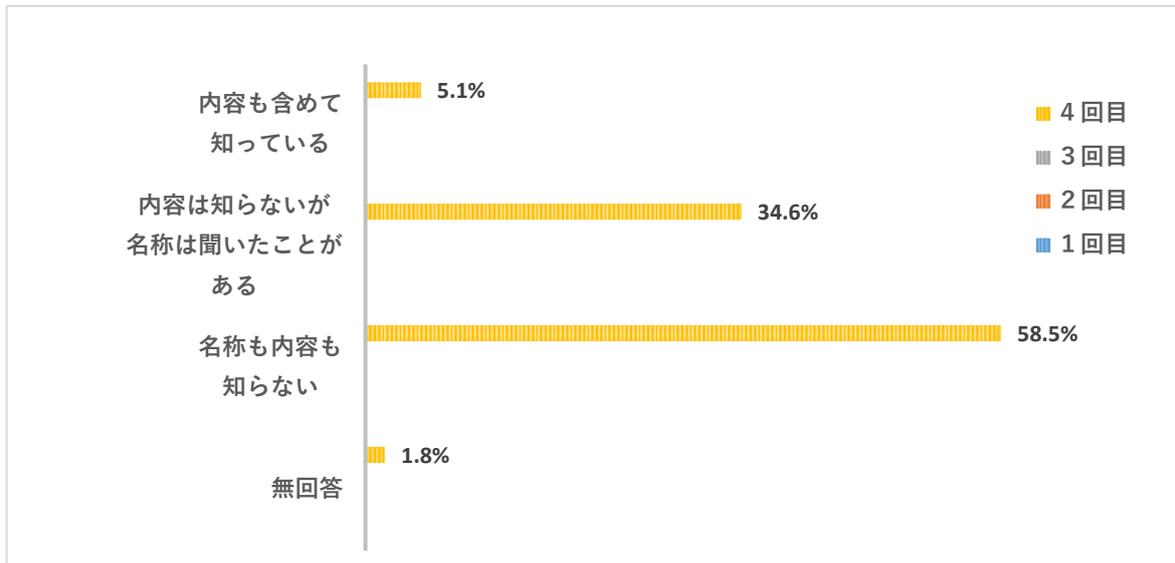
「そう思う」の年代別の回答傾向

全体①	70歳以上	30歳代	18歳~20歳代	50歳代	40歳代	60歳代
59.1%	63.2%	62.0%	60.0%	58.2%	54.3%	54.1%

問31 あなたは、「延岡市すべての市民の人権が尊重されるまちづくり条例」や「延岡市人権教育・啓発推進方針」、また、人権に関する相談窓口や場所を知っていますか

※この調査項目は今回新たに追加しました

①【延岡市すべての市民の人権が尊重されるまちづくり条例について】（○は1つ）



「内容も含めて知っている」(5.1%)と「内容は知らないが名称は聞いたことがある」(34.6%)をあわせると、ほぼ4割(39.7%)の人が、条例があることを知っていると考えられます。

●年代別の回答傾向

[項目] 内容も含めて知っている

全体③	18歳~20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
5.1%	0.0%	2.0%	4.3%	8.2%	4.1%	6.1%

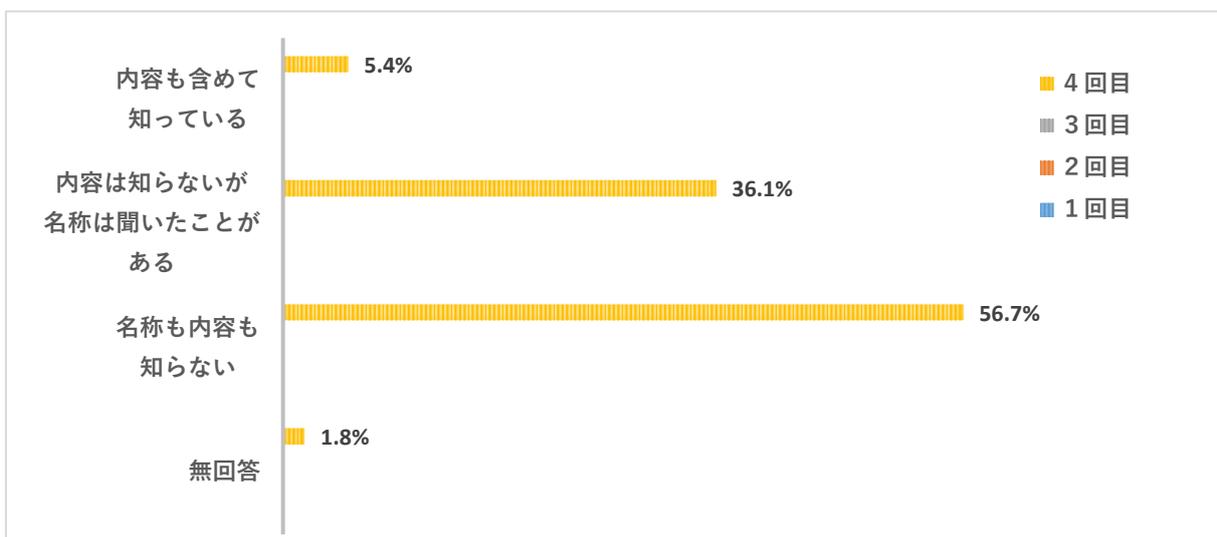
[項目] 内容は知らないが名称は聞いたことがある

全体②	18歳~20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
34.6%	17.1%	18.0%	22.9%	18.4%	40.2%	48.5%

[項目] 名称も内容も知らない

全体①	18歳~20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
58.5%	82.9%	80.0%	72.9%	73.5%	54.9%	41.1%

②【延岡市人権教育・啓発推進方針について】（○は1つ）



「内容も含め知っている」(5.4%)と「内容は知らないが名称は聞いたことがある」(36.1%)をあわせると、4割強(41.5%)の人が、推進方針があることを知っていると考えられます。

● 年代別の回答傾向

[項目] 内容も含めて知っている

全体③	18歳~20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
5.4%	2.9%	2.0%	4.3%	7.1%	4.9%	6.5%

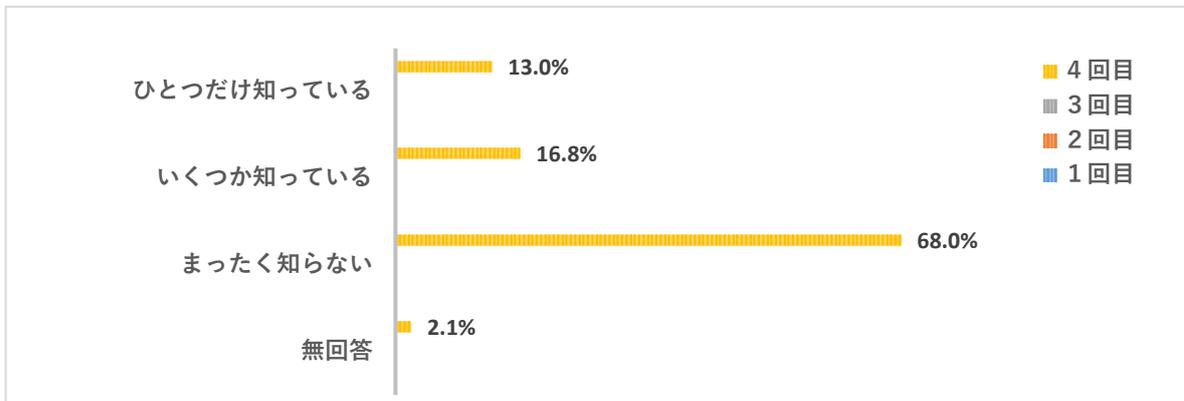
[項目] 内容は知らないが名称は聞いたことがある

全体②	18歳~20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
36.1%	11.4%	20.0%	28.6%	22.4%	39.3%	49.8%

[項目] 名称も内容も知らない

全体①	18歳~20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
56.7%	85.7%	78.0%	67.1%	70.4%	54.9%	39.4%

④ 【人権に関する相談窓口や場所について】



「只知道着」(13.0%)と「いくつか知っている」(16.8%)をあわせるとほぼ3割(29.8%)の人は、なんらかの人権に関する相談窓口を知っていると回答しています。その一方で7割弱(68.0%)の人は全く知らないと回答しています。

● 年代別の回答傾向

[項目] 只知道着

全体③	18歳~20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
13.0%	5.7%	14.0%	7.1%	10.2%	16.4%	15.2%

[項目] いくつか知っている

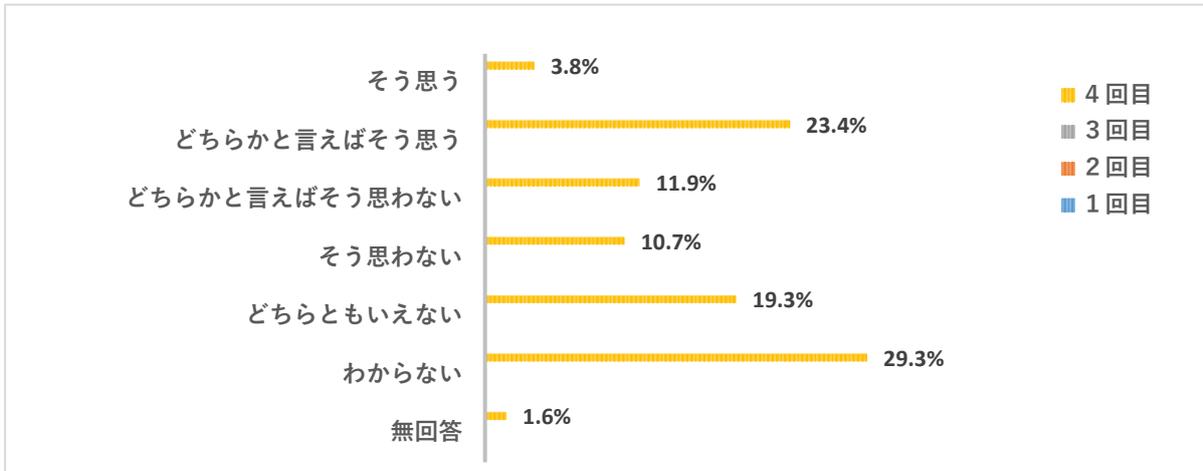
全体②	18歳~20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
16.8%	14.3%	12.0%	18.5%	21.4%	13.9%	17.3%

[項目] まったく知らない

全体①	18歳~20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
68.0%	80.0%	74.0%	72.9%	67.3%	68.9%	63.2%

問32 あなたは、今の延岡市は「人権が尊重されるまち」になっていると思いますか。あなたの気持ちに一番近いものを選んでください（○は1つ）。また、その番号を選んだ具体的な理由があれば、記入してください。

※この調査項目は今回新たに追加しました



「わからない」(29.3%)の割合が一番高く、次いで「どちらかといえばそう思う」(23.4%)となりました。「そう思う」(3.8%)と「どちらかといえばそう思う」をあわせると肯定的な回答は3割弱となりました。一方、否定的な回答である「そう思わない」(10.7%)と「どちらかといえばそう思わない」(11.9%)はあわせると2割強(22.6%)となりました。

「具体的な理由」

- ・【そう思う】
自分の周りで人権を侵されていることをきいたことがないから。
- ・【どちらかといえばそう思う】
周りで問題になっていないから。相談窓口があるから。 等
- ・【どちらかといえばそう思わない】
古い考えややり方が残っているから。職場や学校で弱い立場の人が下にみられる。 等
- ・【そう思わない】
条例やその方針が浸透していないから。どこでもいじめ差別はあるから。 等
- ・【どちらともいえない】
ふれる機会がない。関心がない。 等
- ・【わからない】
身近に人権侵害にあった人がないから。わからないけど、市民は親切で良い市。 等

● 「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」の年代別の回答傾向

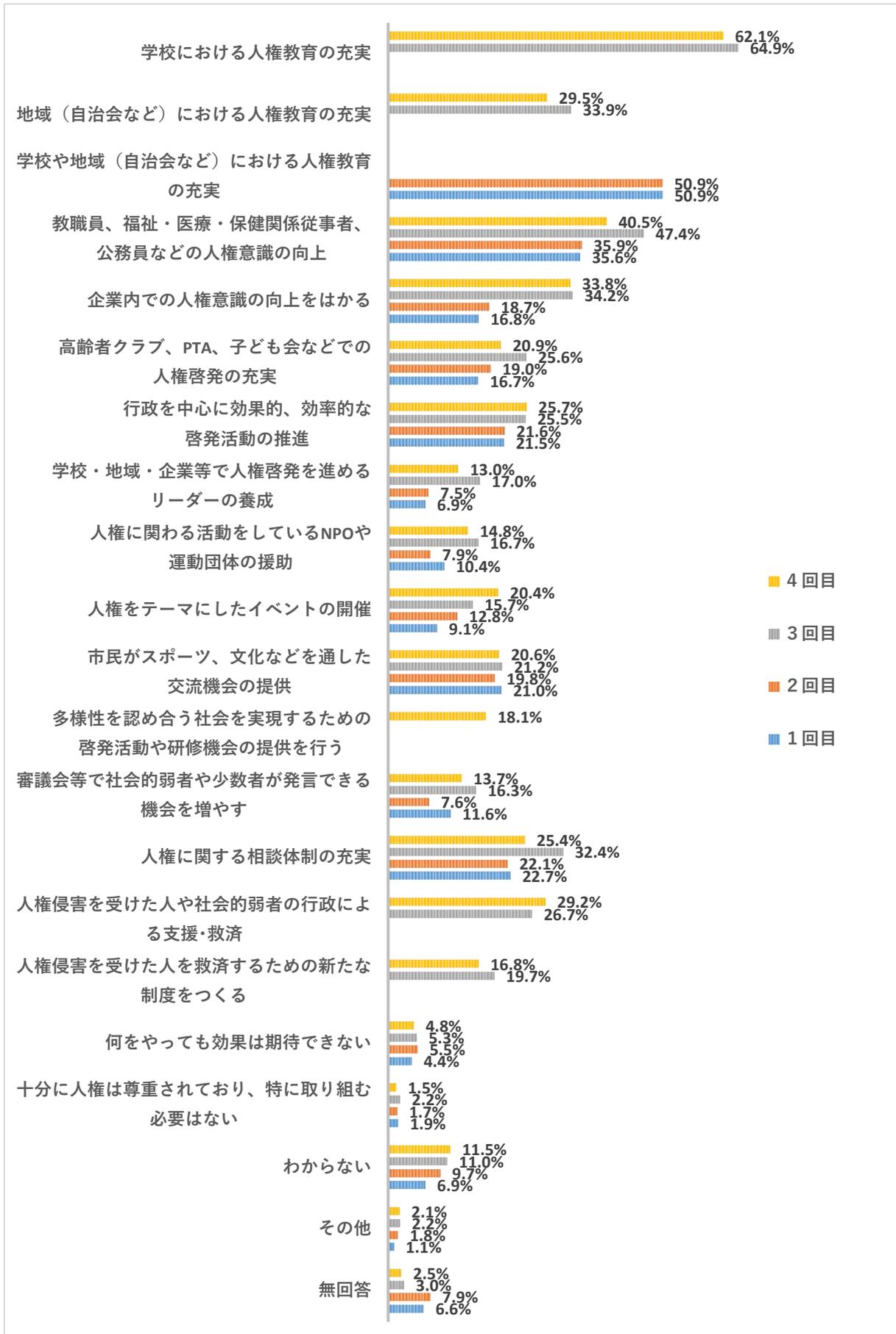
全体	70歳以上	18歳~20歳代	60歳代	40歳代	50歳代	30歳代
27.2%	35.1%	31.4%	27.0%	22.9%	17.3%	14.0%

● 「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」の年代別の回答傾向

全体	40歳代	50歳代	30歳代	60歳代	18歳~20歳代	70歳以上
22.6%	32.9%	32.7%	28.0%	23.0%	17.1%	14.7%

問33 あなたは、延岡市がめざす人権が尊重されるまちづくりを実現するために、今後どのような取組が必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

※ 1回目・2回目～複数選択 (〇は3つまで)、3回目・4回目～複数選択 (〇はいくつでも)



「学校における人権教育を充実させる」(62.1%)が最も割合が高く、次いで「教職員、福祉・医療・保健関係従事者、公務員などの人権意識の向上をはかる」(40.5%)、「企業内での人権意識の向上をはかる」(33.8%)となっています。

「その他」の意見の主な内容

- ・ 個々人の認識を深めること
- ・ 幼少のころからの家庭での教育
- ・ 行政や教育機関の充実
- ・ 人として正しく仲良く接する 等

割合の高い上位2項目の年代別の回答傾向（上位2項目はいずれの年代も同じ項目）

〔項目〕学校における人権教育を充実させる

全体①	40歳代	50歳代	60歳代	18歳～20歳代	70歳以上	30歳代
62.1%	71.4%	66.3%	64.8%	62.9%	57.1%	56.0%

〔項目〕教職員、福祉・医療・保健関係従事者、公務員などの人権意識の向上をはかる

全体②	18歳～20歳代	50歳代	60歳代	40歳代	70歳以上	30歳代
40.5%	51.4%	48.0%	46.7%	37.1%	36.4%	28.0%

【今回の調査（4回目）と県の調査の比較】

項目	今回の調査	県の調査
学校における人権教育を充実させる	62.1%	70.9%
地域（自治会など）における人権教育を充実させる	29.5%	48.0%
教職員、福祉・医療・保健関係従事者、公務員などの人権意識の向上をはかる	40.5%	-
企業内での人権意識の向上をはかる	33.8%	42.7%
諸団体（高齢者クラブ、PTA、子ども会など）における人権啓発を充実する	20.9%	-
行政を中心に効果的、効率的な啓発活動を進める	25.7%	-
学校・地域・企業等で人権啓発を進めるリーダーを養成する	13.0%	35.7%
人権に関わる活動をしているNPOや運動団体を援助する	14.8%	-
人権をテーマにしたイベントを開催する	20.4%	-
市民がスポーツ、文化などを通して交流を深める機会を提供する	20.6%	-
多様性を認めあう社会を実現するための啓発活動や研修機会の提供を行う	18.1%	-
審議会等で社会的弱者や少数者が発言できる機会を増やす	13.7%	-
人権に関する相談体制を充実する	25.4%	34.0%
行政が、人権侵害を受けた人や社会的に弱い立場にある人を支援・救済する	29.2%	38.3%
人権侵害を受けた人を救済するための新たな制度をつくる	16.8%	30.1%
人権問題に関する啓発のための施設を充実させる	-	13.1%
何をやっても効果は期待できない	4.8%	3.0%
十分に人権は尊重されており、特に取り組む必要はない	1.5%	4.4%
特にない	-	3.5%
わからない	11.5%	6.7%
その他	2.1%	0.6%
無回答	2.5%	3.0%

◎人権問題に関するご意見やご要望などがございましたら、自由にお書きください。

寄せられましたご意見を記述内容に応じて分類し、特徴的なご意見を掲載しました。

掲載にあたっては、文意を変えない範囲で原文の一部を変更しています。なお、掲載していないご意見につきましても、今後の人権教育・啓発を推進する上での貴重なご意見として参考にさせていただきます。

ご意見・ご要望

- 一人ひとりの人権が尊重されるためには、目の前にいるひとを認め合うことが必要だと思います。誰かのせい、他の誰かより自分が優れていると思わないとやっていけないくらい、ひとりひとりに余裕がないのでは。いつか、障がい、トランスジェンダーなどという言葉を使わなくてよくなるような、個性が尊重され、認められる社会を望みます。(40歳代)
- 現代は社会が問題として取り組んでくださり、色々な問題が提起され、時代も変わり進歩していると感じます。これからも私たちのためにご尽力を続けて下さいますようによろしく願致します。(60歳代)
- 人権問題は家庭環境が一番だと思う。今は核家族が増えて高齢者との生活が体感できなくなってきているし、兄弟も少なく勉強ばかりで友達と遊ぶことが少ないことやネットばかりの生活にも問題があると感じます。(50歳代)
- まずは、人権とは何？を知ることだと思います。皆の意識、知識を同じくすれば、問題も減少していくのではと考えます。(人は皆、平等なのだから)お互いを敬うことを忘れなければ、相手のことを理解しようとするだろうし、相手も自分のことをわかってくれると思います。私も知らないことが多く恥ずかしく思いました。これを機に学びたいと思います。そして常に意識しておきたいと思いました。(ただ権利の裏には義務があることも忘れないで欲しい) (60歳代)
- 以前に比べると人権問題や差別は少なくなってきたと思うが、今でも差別やいじめは根強いと思う。(50歳代)
- 大変難しい問題だと思います。我が家では子供が小さい時からいじめについては毎日いじめなかった？いじめられなかった？かを学校から帰ったら聞いていました。いじめられた時は、どうしていじめられたのか原因を聞き、解決してまいりました。大人が親が、まずは話を聞いてあげる家庭環境を作ってあげることが大切だと思います。そして話し合える関係を作ることだと思います。我が家ではそうしてきました。(60歳代)
- 人権問題について知っている方は多いと思いますが、実際に向き合おうとする人は少数だと思います。私は人権についての出前講座が学校であったので、テレビやネットなどで「人権」というワードが目に入るとその時のことをよく思い出します。そのため小・中学校などでの講演会を積極的に行っていくことで子どもたちに意識付けさせていくことができるのではないかと思います。私もまだ専門学生なので大きいことはできませんが市民の一員として考え直すことができる良い機会になりました。ありがとうございました。(18歳)
- 人権教育・啓発の講話や研修会等、平日の日中にあることが多く、働く世代には参加しづらい傾向にあります。平日であっても夜(18時以降)や土日に開催していただけると嬉しいです。(50歳代)

- 今回の意識調査に参加して人権に関する問題が多々あることを知り大変有意義でした。ありがとうございました。困った時は窓口に行き相談したいと考えます。(70歳以上)
- 今回アンケートを回答するにあたって『人権』に対して改めて考えさせられました。1人1人の人権が守られて、少しでも困りごとや疑問をなくそうと取り組み、問題解消できるようになるのはすごくステキだなーと思いました。私も寄り添えるような温かい気持ちを大切に、これから理解を深め人権を尊重していけるようにしたいと思いました。改めて考えるきっかけをくださりありがとうございました。1日でも早く実現することを願っています。(30歳代)